

首都圏災害史年表幕末・明治編(暫定版、2021年8月)

【解説】

・本年表は、首都圏(東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、栃木、群馬、山梨)の1都7県において、1854(安政元年)から1912(明治45)年までに起きた災害を、各都県の歴史や災害についてまとめた図書の記述を基礎データとして年表にまとめたものである。

・首都圏形成史研究会小委員会「首都圏災害史研究会」が作成した。分担は以下のとおりである。

東京: 西村健(東京23区)、高野宏峰(多摩)

神奈川: 吉田律人(東部(横浜・川崎地域))、諸井孝文・北原系子(西部)

埼玉: 中野良

千葉: 土田宏成

茨城: 宮間純一

群馬: 鈴木智行

栃木: 伊藤陽平

山梨: 高野宏峰

全体統合・補正: 土田宏成

・参考とした文献のタイトルは、最右列に掲載した。

・作成作業中に新型コロナウイルス(COVID-19)の感染が拡大し、国公立や大学付属の図書館の利用が制限され、作業が予定どおり進まなくなった。いまだ作業途中であるが、災害史研究上や防災上に資するところが多いと考え、暫定版として公表することとした。

・今後、大正・昭和編の作成を進めるとともに、幕末・明治編も改訂していく予定である。

・本年表はJSPS科研費18K00971の研究成果の一部である。

| 年<br>(西) | 月  | 日  | 年<br>(旧暦) | 月  | 日  | 都府県名 | 災害の種類 | 災害名など        | 被災地域     | 被害の概要  | 出典                                       |
|----------|----|----|-----------|----|----|------|-------|--------------|----------|--|--|
| 1854     | 12 | 23 | 安政元       | 11 | 4  | 神奈川  | 地震    | 相模・伊豆大震      | 神奈川県     | 安政元年十一月四、五日は震域の広い地震で、本地方一帯もまた民家倒潰、海嘯襲来の害を受けた。  | 『神奈川県史概説下巻』                              |
| 1854     | 12 | 23 | 安政元       | 11 | 4  | 埼玉   | 地震    | 安政地震         | 埼玉県内     | 朝4つ時に地震があり、県内の被害は軽微だが、東海や西日本では津波を伴う大地震となる。   | 『新編埼玉県史』通史4                              |
| 1855     | 1  | 26 | 安政元       | 12 | 9  | 神奈川  | 火災    |              | 橋樹樹郡下星川村 | 16棟焼失  | 『横浜近代史総合年表』                              |
| 1855     | 2  | 14 | 安政元       | 12 | 28 | 東京   | 火事    | 安政元年12月28日大火 | 神田、日本橋   | 神田大町より出火し、約120町焼失  | 『東京市史稿 変災編 第4』                           |
| 1855     | 3  | 29 | 安政2       | 2  | 12 | 神奈川  | 地震    | 東海道大地震       |          |  | 『横浜近代史総合年表』                              |
| 1855     | 4  | 18 | 安政2       | 3  | 2  | 東京   | 火事    | 安政2年3月2日大火   | 日本橋、浅草   | 小網町1丁目より出火、約68町焼失  | 『東京市史稿 変災編 第4』                           |
| 1855     | 7  | 17 | 安政2       | 6  | 4  | 埼玉   | 洪水    |              |          | 大雨で幸手領の耕地が一凹冠水。  | 『杉戸町史』                                   |
| 1855     | 9  | 7  | 安政2       | 7  | 26 | 群馬   | 洪水    |              |          | 松原渡船難破、行方不明3、死者6(山田郡)橋落、下久屋河原押し流される(糸之瀬村)渡良瀬川西谷田村で破堤(邑楽水書記)  | 『群馬県気象災害史』                               |
| 1855     | 10 | 6  | 安政2       | 8  | 26 | 群馬   | 豪雨    |              |          | 暴風雨(俣根村)   | 『群馬県気象災害史』                               |
| 1855     | 10 |    | 安政2       | 9  |    | 山梨   | 洪水    |              |          | 釜出水門破壊   | 『山梨県の気象』                                 |
| 1855     | 11 | 11 | 安政2       | 10 | 2  | 神奈川  | 地震    | 安政江戸地震       | 寒川町      | ペリール航四か月前の嘉永六年二月二日、小田原周辺に大地震が襲い、死傷者が八〇〇名ほど出たほか、小田原城も崩壊した(『県史』別編3年表)。つづいて安政二年(1855)十月二日夜、江戸直下を震源とするいわゆる「安政の大地震」が発生した。これら一連の地震災害は、一之宮村寄場組合に直接的な被害をもたらしたものでなかったが、この地震による混乱に乗じた不穏な動きを警戒するため、同年十月十二日、関東取締出役よりその見廻り強化の励行が通達されている(『町史』3史料171)。また取締りと並行して、諸物価や職人手間賃が便乗値上げをしないようとの指示も出している。これは、災害による江戸での物価上昇を抑制するために、江戸近郊の物価統制を意図したものであろう。  | 『寒川町史6 通史編 原始・古代・中世・近世』                  |
| 1855     | 11 | 11 | 安政2       | 10 | 2  | 神奈川  | 地震    | 安政江戸地震       | 綾瀬市      | 安政二年一〇月二日夜一〇時、マグニチュード六・九の地震が江戸を中心に起こった。三浦半島では大津陣屋の土蔵・石垣が崩れ、所々の御台場の破損もひどかった。「浜浅葉日記」には、上宮田陣屋が大方潰れ、即死六人となる。   | 『逗子市史 通史編 古代・中世・近世・近現代編』近世編第六章第三節『凶災と特異』 |
| 1855     | 11 | 11 | 安政2       | 10 | 2  | 神奈川  | 地震    | 安政江戸地震       | 藤沢市      | この江戸大地震は藤沢地域にも影響を及ぼし幾人かの死者と相当数の家屋の被害をもたらした。『藤沢沿革考』によれば、藤沢宿の被害について、「十月二日、江戸復大ニ震ヒ、当所マタ潰家無数、死者一人アリ」と述べている。…とここで、藤沢宿が「潰家無数」というほどの被害を出しているのに対し、近隣の小塚村の場合はきわめて対照的である。同村が領主役所からの問い合わせ(『市史』第二巻・災害三七)に対して差し出した震災に関する報告書(『市史』第二巻・災害三九)は、家屋の本倒・半倒・大破・死人・牛馬死亡・道路損等が同村では一切なかったと述べており、藤沢宿の場合と比べて奇異な感を与えている。町場に家屋の倒壊が多数出たのは、建物の構造によるものであつたのであろうか、この点にははっきりしない。いずれにしても、近隣村々の場合は、町場ほど大きな被害は出なかったようである。ただ、当時小塚村・片瀬村などの鎌倉郡諸村が属していた彦根藩預り所では、三浦にある陣屋が大破するという出来事があった。同藩役場では、このため支配村々に触れを回し、領内の大工、木挽、家根師、左官屋全員に対し陣屋の復旧工事に従事するよう敕命を下している(『市史』第二巻・災害三六、三八)。 | 『藤沢市史 第五巻 通史編』                           |
| 1855     | 11 | 11 | 安政2       | 10 | 2  | 神奈川  | 地震    | 安政江戸地震       |          |  | 『横浜近代史総合年表』                              |
| 1855     | 11 | 11 | 安政2       | 10 | 2  | 埼玉   | 地震    | 安政江戸地震       | 埼玉県内     | 県域南部・東部の被害大きい。地割れや激しい液化現象(クイックサンド)見られる。特に幸手領の被害が大きい。   | 『新編埼玉県史』通史4、別編3自然                        |
| 1855     | 11 | 11 | 安政2       | 10 | 2  | 千葉   | 地震    | 安政江戸地震       | 千葉県      | 10月2日関東大地震あり、房総の地も亦民家倒潰し人畜の死傷少からず。10月初旬大地震起り振動甚だ激し。地裂けて家屋、土蔵等倒壊し人畜に危害を及ぼせり。爾後数日間昼夜引続き激動あり。人心恟々皆竹林に危難を避けたるといふ。  | 『千葉県気象災害史』                               |
| 1855     | 11 | 11 | 安政2       | 10 | 2  | 東京   | 地震    | 安政江戸地震       | 江戸市中全域   | 江戸市中の死者数1万人前後。大名屋敷は、266家のうち116家が死者が発生。特に、大名小路(現在の丸の内辺り)にあった55家のほぼ全てが何らかの被害。旗本・御家人の死傷者数は不明。建物の被害は全体の約80%と推定。町人地の家屋は1万4000余軒が倒壊(特に深川で大きな被害)  | 『災害教訓の継承に関する専門調査会報告書』、『東京市史稿 変災編 第1』     |
| 1855     | 11 | 11 | 安政2       | 10 | 2  | 神奈川  | 地震    | 安政江戸地震       | 神奈川県     | 安政二年十月二日には江戸では火災を伴い、潰家一万四千三百十六戸、死者一万五千を出し、慶安二年、元禄十六年の地震と併称して江戸時代の三大地震という。  | 『神奈川県史概説下巻』                              |

|      |    |    |     |    |    |     |     |          |                              |   |   |
|------|----|----|-----|----|----|-----|-----|----------|------------------------------|---|---|
| 1855 | 11 | 11 | 安政2 | 10 | 2  | 神奈川 | 地震  | 安政江戸地震   | 神奈川県                         | この日江戸にはこまかな雨が時々降ったが、夜に入って止んだ(『武江年表』)。大地が鳴動したのは午後十時頃のことである。高座郡柳島村(茅ヶ崎市)の名主藤間氏は、その時にわかには大風が吹いてくるような音がした、と書いている(『大地震風聞書上』-『資料編』10近世(7)182)。これは大地が揺れる音である。藤間氏は大地の鳴動にびびりしたが、翌日になって点検すると土蔵の一部にひび割れが入った程度で、外に被害はなかった。しかし、柳島村は相模川の河口だから津波の恐れがあり不安に駆られた。結局津波はこなかった。やがて各地の被害状況についての噂が入ってきた。一之宮村(寒川町)の入沢氏では土蔵の壁がすくられた。厚木や藤沢はひどいらしい。小田原は大したことはないらしい、といったことである。・・・この地震による被害の範囲は、東海道は川崎・神奈川、中山道は浦和・大宮、日光街道は鳩ヶ谷・大門、水戸街道は松戸・小金、甲州道中は布田・府中あたりまでという噂を聞いて、「江戸十里四方の大地震近年稀なる変事なり。」と彼は記した。この噂のように、川崎・神奈川の被害はかなりひどかったらしい。翌三年四月、神奈川宿の間屋・年寄は代官あてに修復費拝借願を提出したが、それには「去る即震災につき、当宿両本陣ならびに旅籠屋ども様、銘々家作大破におよび候・・・」とある(『資料編』10近世(7)184)。川崎でも同様だったのであろう。総じて地震による被害は江戸に近い関東ほどひどかった。藤沢地域では御預所役所の陣屋が大破したので大工・木挽・家根屋・左官等が動員されている(『藤沢市史』第二巻)。このように、部分的には大きな被害があったが、県内の大勢としては被害が小さかったか、全くなかったとてよいうである。十月中旬幕府は各所管を通して被害状況を調査させた。それに対する鎌倉郡小塚村(藤沢市)の報告が残っているが、それによると建物(含土蔵)の全潰・半潰・大破等はなく、道橋の損壊もない。また死人や半死もなかった。総じて、取り立てるほどの被害はなかったのである(『藤沢市史』第二巻)。相模原地域でも地震の道からはずれたが、建築構造・家屋の散在等の影響からか、大した被害もなかったらしく、そういう記録も見当たらない(座間美都治「安政の地震と相模原」-同『相模原の歴史と文化』所収)。 | 『神奈川県史通史編3近世(2)』  |
| 1855 | 11 | 11 | 安政  | 10 | 2  | 茨城県 | 地震  | 安政江戸地震   | 茨城県                          | 水戸藩江戸小石川邸で戸田忠太夫(忠敬)、藤田東湖が圧死。  | 『茨城県史年表』  |
| 1856 | 6  |    | 安政3 | 5  |    | 神奈川 | その他 | 千ばつ      | 寒川町                          | 安政三年は天候不順が続き、寒川町域の村むらにとつてすこぶる不安定な年であった。五月以降は雨が降らず旱魃となった。  | 『寒川町史6 通史編 原始・古代・中世・近世』                                 |
| 1856 | 8  |    | 安政3 | 8  |    | 東京  | 洪水  |          | 多摩川下流左岸                      | 多摩川大洪水。満水で、下流左岸・猪方・和泉堤切断され、一円に水害。   | 『多摩川誌』(世田谷区の用水と河川)(羽田史誌)                                |
| 1856 | 8  |    | 安政3 | 8  |    | 神奈川 | 暴風  |          | 藤沢市                          | 安政三年(1856)の場合は、関東一円に及ぶ大水害であった。同年八月に発生したこの大風水害について、円行村の記録(『市史』第二巻・災害四二。これは、領主役所に差し出された被害届)は、「稀なる大風雨、ことに塩風にて田畑共存外の遺作に御座候」と述べ、さらに、同村農民の居宅四戸が倒壊したと報告している。また、同年10月の小塚村の記録(『市史』第二巻・災害四四。これは、代年貢石金納に関する願書)は、八月の大風と高波とによって、海辺の同村では多くの漁船や家屋が破損もしくは流失したこと、また、高波や塩風の害によって同年の米作に不熟米や穂枯れが莫大に発生し、収穫米のほとんどが「疲米、碎米または白粉」であった、その窮状を述べ、「銘々夫食(食料のこと)にもさしつかへ候」ことを理由に、年貢米を悪米相場をもって金納に代えてほしいと訴えている。   | 『藤沢市史 第五巻 通史編』  |
| 1856 | 8  |    | 安政3 | 8  |    | 千葉  | 洪水  |          | 手賀沼周辺                        | 洪水。   | 『手賀沼周辺の水害』  |
| 1856 | 9  | 23 | 安政3 | 8  | 25 | 神奈川 | 豪雨  |          | 箱根・小田原・大磯                    | 早且より液雨濛々として地をひたし、黄昏に至り風異に変わり、肅然として吹き舞り其夜夜刻より益強烈敷強雨車輪を流すが如く、亥刻過るころはひに至り風雨いよいよ夥敷、黒雲中に舞下り黒白も分ぬ中より電光四方へほとばしり、奔雷段々と鳴りたき樹木を飛ばし砂石を巻あげ(中略)街道は箱根 小田原 大磯 平塚此辺は海さへ近き処なれば、是又破損の道橋家沢山に見えたるなり(戸塚郷土史、武江年表、東京市史稿)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部                                     |
| 1856 | 9  | 23 | 安政3 | 8  | 25 | 神奈川 | 暴風  |          | 神奈川県                         | この台風は八月二十五日午後十時頃から吹きはじめ、翌早朝まで吹き荒れたもので、その被害も大きかった。高座郡洲野辺村(相模原市)では、百四十軒のうち八軒が「皆潰家」、十五軒が「大破損」した。つまり十六パーセントが大被害を受けた。この外、小屋・物置の類が多く潰れ、寺社も被害を受けた。怪我人も出たほどである(座間美都治「安政の地震と相模原」-同『相模原の歴史と文化』所収)。高座郡上和田村(大和市)では、八十六軒のうち「居宅潰家」=九、同「半潰」=十八、つまり三十一パーセントが大被害を受けた。この外、「小屋潰家」=二十一、「小屋半潰」=五であり、八十六軒のうち四十四軒が何らかの被害を受けたのである(『大和市史』4)。増上寺領橋樹郡小倉村(川崎市幸区)は十五、六軒程度の小さい村だが、ここでは六軒の居宅が「皆潰」になった。その外、物置=三、肥家=九が同様の被害を受けた。この村では被害を受けた者十軒、中には居宅・物置・肥家のいずれも皆潰になった者がいる(深瀬昭一編『川崎領小倉村御屋史料家文書』)。高座郡円行村(藤沢市)では潰れ被害(建物数は五十三)の外に、塩風が吹き込み「田畑共存外の遺作」である旨を報告している。作物の吹倒れもひどかったようである(『藤沢市史』第二巻)。円行村は海辺の村ではないが、ここでも塩害がひどかったのである。三浦郡秋谷村(横須賀市)では「本倒」の本屋が十六軒、そのうち四軒が高波にさらわれて流失した。また九反七畝余の田畑が「波欠荒川」になった(『相州三浦郡秋谷村(若命家)文書』中巻)。   | 『神奈川県史通史編3近世(2)』  |
| 1856 | 9  | 23 | 安政3 | 8  | 25 | 神奈川 | 暴風  |          | 大磯町                          | 安政三年(1856)八月、大暴風で高麗寺神楽堂が全壊した。また、境内の松一三三本(一尺五寸から八尺廻りく四五センチメートル〜二・六メートル)・杉、七本(一尺五寸から五尺廻りく四五センチメートル〜五メートル)が中折れや倒木となる。末寺揚谷寺も、一丈(三メートル)廻りの松が倒れて本堂が全壊した。十月両寺とも東叡山へ倒木利用願いを出し、その木を利用して十一月本堂再建が始まった。   | 『大磯町史6 通史編 古代・中世・近世』第三章第四節六「災害と普請』                      |
| 1856 | 9  | 23 | 安政3 | 8  | 25 | 神奈川 | 暴風  |          | 綾瀬市                          | 安政三年八月二五日の暴風に田越橋が大破して渡橋不能になり以後渡船となった。小坪村では一八〇軒の民家が高波に吞まれ、漁船も数艘流された。この時漁師一同新着場から見舞金として五〇両頂戴し、別に無利息で百両拝借した。又、別に纏船一同も五四両を拝借している。池子村は御林の松・杉三尺廻り以上の大木が一〇二本も倒れ、潰家屋二二軒もあった。その内全壊三軒に英勝寺から米一俵ずつの救米が下された。この暴風の、三浦・鎌倉郡那での倒壊家屋一二〇六、波船七九一、死者十六人と同年九月の毛利家文書に記されている。   | 『逗子市史 通史編 古代・中世・近世・近現代編』近世編第六章第三節『凶災と村人』                |
| 1856 | 9  | 23 | 安政3 | 8  | 25 | 神奈川 | 暴風  |          | 横須賀市                         | 安政三年八月二五日の夜に大風が吹き、この地域に大きな被害をもたらした。秋谷村における被害の状況調査については何種類が残されており、細部では若干の食い違いがあるものの、おおよそ本家(母屋)の全壊・流失が三三軒、同じく半壊が七軒、同じく大破が五軒(半壊と大破の違いの程度は不明)、物置・馬屋の全壊・流失が三七軒、土蔵の大破が一軒、橋の流失が三軒、船の流失が二九艘(うち鯉船五艘、小魚船二艘、地引網用の船一艘)、水車の被害二件であった。耕地は田畑九反七畝ほどが「波欠荒」(高波による崩落)の被害を蒙っている(耕地の約一・五%に相当)。馬は一頭が流失した。人的被害こそ免れたものの、高潮による田畑の塩害や多数の漁船流失といった生産手段に関する被害は計り知れないほどに大きなダメージを与えたはずであり、住居まで無した人々も多数いた。秋谷村の村役人は当時の長州藩預所役所に対して、百姓四軒分の御救い願いを提出している(当初は一九軒分の願いを提出しようとしたが、領主側の基準に合わなかったのだろうか、うち一五軒分は提出していない)。   | 『新横須賀市史 通史編 近現代』第七章第二節『三浦半島西側の村一秋谷村若命家文書を中心に』           |
| 1856 | 9  | 23 | 安政3 | 8  | 25 | 神奈川 | 暴風雨 |          | 橋樹郡青木町                       | 崩壊  | 『横浜近代史総合年表』   |
| 1856 | 9  | 23 | 安政3 | 8  | 25 | 群馬  | 洪水  |          | 大雨、橋弘(糸之瀬、利南、薄根村)            |   | 『群馬県気象災害史』  |
| 1856 | 9  | 23 | 安政3 | 8  | 25 | 埼玉  | 暴風  |          | 南寄りの大風により家屋等が倒壊、騎西町域では泥水が出る。 |   | 『新編埼玉県史』通史4、『越谷市史』通史上、『岩槻市史』通史編、『杉戸町史』、『監宮町史』、『騎西町史』通史編 |
| 1856 | 9  | 23 | 安政3 | 8  | 25 | 千葉  | 暴風  |          | 千葉県北東部(香取郡)                  | 8月25日夜暴風雨香取神宮老杉60余株折損す。其他各村亦損害す。  | 『千葉県気象災害史』  |
| 1856 | 9  | 23 | 安政3 | 8  | 25 | 東京  | 暴風  | 安政3年大風災  | 江戸市中全域                       | 江戸城中を始め市中の建物総てが破損する被害。高輪、洲崎、品川に高潮被害。本所地域は床上浸水。築地本願寺が倒壊したほか、永代橋が半壊する。前年の地震より広範囲の地域が被害を受け、約10万人の死者を出したといわれる。  | 『東京市史稿 震災編 第2』  |
| 1856 | 9  | 23 | 安政3 | 8  | 25 | 東京  | 暴風  | 安政3年の大風災 | 江戸、神奈川、南多摩郡ほか                | 強風により蓮光寺村・関戸村・寺方村など被害、江戸や神奈川で高潮や火災発生。谷保村40軒潰、府中六所宮社木過半折れ。   | 『特別展 災害と多摩』   |
| 1856 | 9  |    | 安政3 | 8  |    | 神奈川 | 暴風  |          | 寒川町                          | 八月には一変して大風雨が村むらを襲った。この時は「田方の義大強風御座候えば、一同倒れ如何に相成り候や相分り申さず、畑方義も業作吹き潰れ、蕎麦・大根等迄皆吹き切れ」(『町史』2史料116)という有様で、田畑はもとより住居の多くは倒壊または破損し、人びとは大損害を被った。この時の村むらの被害調査は、治安の観点からか寄場組合を単位として実施されており、寄場組合あての報告書が多く残っている。   | 『寒川町史6 通史編 原始・古代・中世・近世』                                 |
| 1856 | 10 | 6  | 安政3 | 9  | 8  | 神奈川 | 高潮  |          | 橋樹郡生妻村                       | 38軒   | 『横浜近代史総合年表』   |
| 1856 | 11 | 4  | 安政3 | 10 | 7  | 神奈川 | 地震  |          |                              |   | 『横浜近代史総合年表』   |

|      |    |    |     |    |               |     |     |              |        |   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|------|----|----|-----|----|---------------|-----|-----|--------------|--------|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 1856 | 11 | 4  | 安政3 | 10 | 7             | 埼玉  | 地震  |              |        | 不明  |  |  |  |  |  |  |  |  | 『新編埼玉県史』別編4自然  |
| 1856 |    |    | 安政3 |    |               | 千葉  | 洪水  |              |        | 千葉県   |  |  |  |  |  |  |  |  | 『千葉県気象災害史』   |
| 1857 | 4  | 25 | 安政4 | 4  | 12            | 神奈川 | 火災  |              | 戸塚宿矢部町 | 鎌倉郡矢部町  |  |  |  |  |  |  |  |  | 『横浜近代史総合年表』  |
| 1857 | 5  | 23 | 安政4 | 5  | 1             | 群馬  | 洪水  |              |        |   |  |  |  |  |  |  |  |  | 『群馬県気象災害史』   |
| 1857 | 6  | 14 | 安政4 | 5  | 23            | 千葉  | 暴風  |              |        | 千葉県   |  |  |  |  |  |  |  |  | 『千葉県気象災害史』   |
| 1857 | 7  | 8  | 安政4 | 5  | 17            | 神奈川 | 洪水  |              |        |   |  |  |  |  |  |  |  |  | 『横浜近代史総合年表』  |
| 1857 | 7  | 9  | 安政4 | 閏5 | 18            | 神奈川 | 洪水  |              |        | 平塚市   |  |  |  |  |  |  |  |  | 『平塚市史9 通史編 古代・中世・近世』<br>第二編第三章第六節三『村々の普請と水争い』  |
| 1857 | 7  | 19 | 安政4 | 閏5 | 28            | 神奈川 | 豪雨  |              |        | 詳細不明  |  |  |  |  |  |  |  |  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部  |
| 1857 | 7  |    | 安政4 | 6  |               | 神奈川 | その他 | 堤防決壊         |        | 大磯町   |  |  |  |  |  |  |  |  | 『大磯町史6 通史編 古代・中世・近世』<br>第三章第四節六『災害と普請』   |
| 1857 | 7  |    | 安政4 |    |               | 千葉  | 洪水  |              |        | 千葉県北東部(香取郡)   |  |  |  |  |  |  |  |  | 『千葉県気象災害史』、『香取郡誌』  |
| 1857 | 8  |    | 安政4 | 7  |               | 埼玉  | 洪水  |              |        | 鷲宮町   |  |  |  |  |  |  |  |  | 『鷲宮町史』通史編中巻  |
| 1857 | 8  |    | 安政4 | 7  |               | 千葉  | 洪水  |              |        | 手賀沼周辺   |  |  |  |  |  |  |  |  | 『手賀沼周辺の水害』   |
| 1858 | 1  | 9  | 安政4 | 11 | 25            | 神奈川 | 豪雨  |              |        | 詳細不明  |  |  |  |  |  |  |  |  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部  |
| 1858 | 3  | 24 | 安政5 | 2  | 10            | 東京  | 火事  | 安政5年2月10日大火  |        | 日本橋   |  |  |  |  |  |  |  |  | 『東京市史稿 変災編 第4』   |
| 1858 | 7  | 23 | 安政5 | 6  | 13            | 栃木  | 洪水  |              |        | 大久保村  |  |  |  |  |  |  |  |  | 『近代足利市史』第一巻、824-827頁   |
| 1858 | 8  |    | 安政5 | 7  |               | 神奈川 | その他 | コレラ大流行       |        | 神奈川県  |  |  |  |  |  |  |  |  | 『神奈川県史通史編3近世(2)』   |
| 1858 | 8  |    | 安政5 | 7  |               | 東京  | 洪水  |              |        | 多摩川中流部左岸  |  |  |  |  |  |  |  |  | 『多摩川誌』(昭島市史)   |
| 1858 | 8  |    | 安政5 | 7  |               | 山梨  | 洪水  |              |        | 天保の飢饉以来の大きな災害。畑作は皆無同様、田地も平年の3、4分にとどまる。                                    |  |  |  |  |  |  |  |  | 『大月市史』通史編  |
| 1858 | 8  |    | 安政5 | 7  |               | 山梨  | 疫病  |              |        | 強瀬村ほか   |  |  |  |  |  |  |  |  | 『大月市史』通史編  |
| 1858 | 9  | 4  | 安政5 | 7  | 27            | 埼玉  | 豪雨  |              |        | 熊谷市域  |  |  |  |  |  |  |  |  | 『騎西町史』通史編  |
| 1858 | 9  | 4  | 安政5 | 7  | 27<br>~<br>28 | 栃木  | 洪水  | 豪雨による        |        | 大久保村  |  |  |  |  |  |  |  |  | 『近代足利市史』第一巻、824-827頁   |
| 1858 | 9  | 5  | 安政5 | 7  | 28            | 群馬  | 洪水  |              |        | 渡良瀬川矢場堰引入口附近堤防破壊30余間原宿被害大(山田郡)<br>橋弘、下久屋河原押し流される(糸之瀬村)<br>畑2町、1.6反川欠(薄根村) |  |  |  |  |  |  |  |  | 『群馬県気象災害史』   |
| 1858 | 9  |    | 安政5 | 8  |               | 神奈川 | その他 | コレラの流行       |        | 綾瀬市   |  |  |  |  |  |  |  |  | 『綾瀬市史6 通史編 中世・近世』第四<br>章第四節四『コレラの流行と治療法』   |
| 1858 | 9  |    | 安政5 | 8  |               | 神奈川 | その他 | コレラ大流行       |        | 神奈川県  |  |  |  |  |  |  |  |  | 『藤沢市史 第五巻 通史編』   |
| 1858 | 9  |    | 安政5 | 8  |               | 山梨  | その他 | 疫病           |        | 古川戸村、曾雌村  |  |  |  |  |  |  |  |  | 『都留市史』通史編  |
| 1858 | 10 |    | 安政5 | 9  |               | 千葉  | 洪水  |              |        | 手賀沼周辺   |  |  |  |  |  |  |  |  | 『手賀沼周辺の水害』   |
| 1858 | 12 | 19 | 安政5 | 11 | 15            | 東京  | 火事  | 安政5年11月15日大火 |        | 神田、日本橋  |  |  |  |  |  |  |  |  | 『東京市史稿 変災編 第4』   |
| 1858 |    |    | 安政5 |    |               | 神奈川 | その他 | 堤防決壊         |        | 大磯町   |  |  |  |  |  |  |  |  | 『大磯町史6 通史編 古代・中世・近世』<br>第三章第四節六『災害と普請』   |
| 1858 |    |    | 安政5 |    |               | 千葉  | 洪水  |              |        | 千葉県北東部(香取郡)   |  |  |  |  |  |  |  |  | 『千葉県気象災害史』、『香取郡誌』  |
| 1858 |    |    | 安政5 |    |               | 千葉  | 暴風  |              |        | 大磯あり。   |  |  |  |  |  |  |  |  | 『千葉県気象災害史』   |
| 1859 | 1  | 11 | 安政5 | 12 | 8             | 埼玉  | 地震  |              |        | 岩槻  |  |  |  |  |  |  |  |  | 『新編埼玉県史』別編4自然  |
| 1859 | 3  | 26 | 安政6 | 2  | 22            | 東京  | 火事  | 安政6年2月22日大火  |        | 青山稲田茨州候下屋敷内と松平江州候屋敷内から出火、神社3か所、寺院50余か所、町家は35町が焼失                          |  |  |  |  |  |  |  |  | 『東京市史稿 変災編 第4』   |
| 1859 | 7  | 22 | 安政6 | 6  | 23            | 群馬  | 洪水  |              |        | 利根川佐貫村川俣にて100間破壊、埋没家屋3棟、浸水10日(邑楽郡)  |  |  |  |  |  |  |  |  | 『群馬県気象災害史』   |
| 1859 | 8  | 19 | 安政6 | 7  | 21            | 群馬  | 洪水  |              |        | 利根川梅島村梅原にて125間破壊住家11戸流出   |  |  |  |  |  |  |  |  | 『群馬県気象災害史』   |
| 1859 | 8  | 22 | 安政6 | 7  | 24            | 東京  | 洪水  |              |        | 多摩川中流部左岸・下流部左岸  |  |  |  |  |  |  |  |  | 『多摩川誌』(多摩川)76資料編 東急環<br>境浄化財団(昭島市史) 田山谷区の水<br>と河川)   |
| 1859 | 8  | 23 | 安政6 | 7  | 25            | 神奈川 | 豪雨  |              |        | 詳細不明  |  |  |  |  |  |  |  |  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部  |
| 1859 | 8  | 23 | 安政6 | 7  | 25            | 神奈川 | 洪水  |              |        | 海老名市  |  |  |  |  |  |  |  |  | 『海老名市史7 通史編 近世』  |
|      |    |    |     |    |               |     |     |              |        |   |  |  |  |  |  |  |  |  | 『朝より大風雨 家屋墻扉を損し 樹木を折 所々出水あり 近にも又出水あり堤を崩し田圃も傷ふ(武江年表 嘉永明治年間録 東京市史<br>「前代未聞」の大洪水と言われたのは安政六年(1859)七月の洪水で、社家明窓寺の過去帳の余白には「川上所々の堤が切れて東側の河<br>内(耕地の意)か」筋には、梁間三間・八間位の家が数々流れて来た。当社宇藤松あたりでも死者が出た。大谷村で三人、上河内村で二<br>人、恩馬村(本郷村)で二人が水死した。川筋には死者・家・木材がたぐさん流れて来た。村内はいずれも床上浸水となった。床上浸水は中新田<br>村では三尺(約九〇センチ)位、堰向(社家村の字名)では一尺から二尺(約三〇～六〇センチ)、当寺の庫裏や台所では七寸(約二〇センチ)<br>位である。畑作物は全滅、稲は四、五分が残った。村によっては稲も全滅で大凶作である」と記されている。 |

|      |    |    |      |    |    |     |     |             |  |  |   |
|------|----|----|------|----|----|-----|-----|-------------|--|--|---|
| 1859 | 8  | 23 | 安政6  | 7  | 25 | 神奈川 | 豪雨  |             | 藤沢市  | 安政六年(1859)の大水害は、三年の場合を上回る大きな被害を藤地域にもたらしている。小塚村の記録によると、農民たちは、領主役所より夫食、種籾、農具代の貸し付けを受けるほどの窮状におかれたことが知られる。   | 『藤沢市史 第五巻 通史編』                              |
| 1859 | 8  | 23 | 安政6  | 7  | 25 | 神奈川 | 暴風雨 |             | 鶴見川など  |  | 『横浜近代史総合年表』                                 |
| 1859 | 8  | 23 | 安政6  | 7  | 25 | 群馬  | 洪水  |             | 渡良瀬川赤岩通り流出、桐生川氾濫し原宿方面一面海のごとく、死者、家屋破壊有(山田郡)<br>利根川瀬川井村西南堤堰156間破壊、川俣・梅原両村の間104間破潰、この被害者10か村家屋36戸流出、溺死2名(邑楽郡)<br>例なき大出水、沼須、糸井河原流される(糸之瀬村)<br>暴風雨、70年来のもの(薄根村)<br>渡良瀬川西谷田村除川大巻にて182間破壊、同西谷田村離にて3か所75間破壊(邑楽郡) |  | 『群馬県気象災害史』                                  |
| 1859 | 8  | 23 | 安政6  | 7  | 25 | 埼玉  | 洪水  |             | 荒川・綾瀬川流域   | 連日の大雨で堤が切れ、流域一帯が浸水。  | 『岩槻市史』通史編、『越谷市史』通史上、『吹上町史』『騎西町史』通史編など       |
| 1859 | 8  | 23 | 安政6  | 7  | 25 | 千葉  | 洪水  |             | 千葉県西北部   | 7月25日大風雨あり。確定種破壊し当地方一帯泥濘す。人畜の被害多し。   | 『千葉県気象災害史』                                  |
| 1859 | 8  | 23 | 安政6  | 7  | 25 | 栃木  | 洪水  | 豪雨による       | 大久保村   |  | 『近代足利市史』第一巻、824-827頁                        |
| 1859 | 7  |    | 安政6  | 7  |    | 千葉  | 洪水  |             | 手賀沼周辺  | 利根川出水、柴崎村風水損により稀なる凶作。  | 『手賀沼周辺の水害』                                  |
| 1859 | 7  |    | 安政6  | 7  |    | 東京  | 洪水  |             | 多摩川中流部   | 多摩川大洪水。羽村堰破壊され玉川上水停止。中流部左岸44戸流失。下流部左岸和泉村堤500間など切断。   | 『多摩川誌』(昭島市史)(世田谷区の用水と河川)                    |
| 1859 | 8  |    | 安政6  | 8  |    | 千葉  | 洪水  |             | 手賀沼周辺  | 手賀沼田畑冠水。   | 『手賀沼周辺の水害』                                  |
| 1859 | 9  | 8  | 安政6  | 8  | 12 | 千葉  | 暴風  |             | 千葉県西北部   | 8月12日に至り亦大風雨あり。  | 『千葉県気象災害史』                                  |
| 1859 | 9  | 9  | 安政6  | 8  | 13 | 群馬  | 洪水  |             |  | 橋流出(糸之瀬、利南村)   | 『群馬県気象災害史』                                  |
| 1859 | 9  | 9  | 安政6  | 9  |    | 山梨  | 洪水  |             |  | 笛吹川差出水門より街道を押し流し水筋一帯水損を被る  | 『山梨県の気象』                                    |
| 1860 | 1  | 3  | 安政6  | 12 | 11 | 神奈川 | 火災  |             | 横浜   | 外国人商館焼失  | 『横浜近代史総合年表』                                 |
| 1859 |    |    | 安政年間 | 3  | 25 | 千葉  | 火事  |             | 木更津  | 安政年間の事なるも年不詳3月25日木更津村南町染物業島屋(姓名不詳)方より発火し、忽ち四隣に延焼し、折しき吹き荒ぶ南風は火勢を助け、黒煙天に漲り、其景況物凄く、村民死力を尽して消防に従事したるも、当時は消防器具の完備せざりしため、遂に八幡町、寺町、山手通を焼き払い、罹災戸数約300を算し村の河畔を失ふ大火事である。 | 『千葉県気象災害史』                                  |
| 1860 | 6  | 28 | 万延元  | 5  | 10 | 群馬  | 洪水  |             |  | 大水、大雨(糸之瀬村)<br>大水、大雨、沼須にて26棟、下小屋1棟、柴町12棟大破、碓石前殿、諏訪宮名木、地藏庵形木戸倒れる(利南村)<br>奥田の耕地3町9反流出(薄根村)<br>利根川大川村仙石上中瀬にて35間破壊(邑楽郡)  | 『群馬県気象災害史』                                  |
| 1860 | 6  | 29 | 万延元  | 5  | 11 | 神奈川 | 豪雨  |             | 詳細不明   | 十一日雨 大風雨 十二日大風 十三日小雨 晝後より時々大風殊に此節之水 旁市川渡逆流溢溢之由(東京市史稿)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部                         |
| 1860 | 9  | 9  | 万延元  | 9  | 9  | 神奈川 | 暴風雨 |             | 横浜   | 土蔵崩壊   | 『横浜近代史総合年表』                                 |
| 1860 | 9  | 9  | 万延元  | 7  | 24 | 神奈川 | 豪雨  |             | 詳細不明   | 廿二日より雨 廿四日朝より北大風雨 終日止まず 家屋を損壊し塙を倒し樹木を折り 海上には覆被漂蕩の船多かりしと聞ゆ 夜に入りて鎮まる(武江年表)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部                         |
| 1860 | 9  | 12 | 万延元  | 7  | 27 | 埼玉  | 洪水  |             | 羽生   | 利根川の堤防が破壊。   | 『羽生市史』上巻                                    |
| 1860 | 10 |    | 万延元  | 9  |    | 山梨  | 豪雨  |             |  | 大風雨、郡内出水あり   | 『山梨県の気象』                                    |
| 1860 | 12 |    | 万延元  | 11 |    | 栃木  | 暴風  |             | 大久保村   |  | 『近代足利市史』第一巻、824-827頁                        |
| 1860 |    |    | 万延元  |    |    | 埼玉  | 洪水  |             | 吹上町域   |  | 『吹上町史』                                      |
| 1861 | 2  | 19 | 文久元  | 1  | 10 | 神奈川 | 火災  |             | 横浜南仲通  | 506戸焼失   | 『横浜近代史総合年表』                                 |
| 1861 | 3  |    | 文久元  | 2  |    | 埼玉  | 火事  |             | 所沢   | 60戸焼失  | 『所沢市史』通史編下                                  |
| 1861 | 11 | 7  | 文久元  | 10 | 5  | 神奈川 | 豪雨  |             | 詳細不明   | 夜より曉迄 大風雨 家屋を傷損す(武江年表)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部                         |
| 1861 |    |    | 文久元  |    |    | 千葉  | 洪水  |             | 手賀沼周辺  | 手賀沼の新田に水害。   | 『手賀沼周辺の水害』                                  |
| 1861 |    |    | 文久元  |    |    | 群馬  | 洪水  |             |  | 洪水(薄根村)  | 『群馬県気象災害史』                                  |
| 1862 | 1  |    | 文久2  | 1  |    | 埼玉  | 火事  |             | 所沢   | 67戸焼失。   | 『所沢市史』通史編下                                  |
| 1862 | 4  | 17 | 文久2  | 3  | 19 | 栃木  | 暴風  |             | 大久保村   |  | 『近代足利市史』第一巻、824-827頁                        |
| 1862 | 5  | 7  | 文久2  | 4  | 9  | 神奈川 | 火災  |             | 横浜太田町・本町など   |  | 『横浜近代史総合年表』                                 |
| 1862 | 7  | 12 | 文久2  | 6  | 16 | 栃木  | 豪雨  |             | 大久保村   |  | 『近代足利市史』第一巻、824-827頁                        |
| 1862 | 8  | 19 | 文久2  | 7  | 24 | 栃木  | 暴風  |             | 大久保村   |  | 『近代足利市史』第一巻、824-827頁                        |
| 1862 | 8  | 20 | 文久2  | 7  | 25 | 栃木  | 洪水  |             | 大久保村   |  | 『近代足利市史』第一巻、824-827頁                        |
| 1862 | 9  | 16 | 文久2  | 8  | 23 | 栃木  | 洪水  |             | 大久保村   |  | 『近代足利市史』第一巻、824-827頁                        |
| 1862 | 10 |    | 文久2  | 9  |    | 山梨  | 洪水  |             |  | 笛吹川増水、差出水門破れて下流村民水害を被る、郡内地方、河口湖氾濫  | 『山梨県の気象』                                    |
| 1862 |    |    | 文久2  |    |    | 東京  | 洪水  |             | 多摩川下流部左岸   | 多摩川洪水で、下流部左岸、和泉村160間決壊。  | 『多摩川誌』(多摩川76資料編 東急環境浄化財団)(昭島市史)(世田谷区の用水と河川) |
| 1862 |    |    | 文久2  |    |    | 東京  | 洪水  |             |  | 多摩川洪水で、下流左岸、和泉村160間決壊  | 『多摩川誌』(世田谷区の用水と河川)                          |
| 1862 |    |    | 文久2  |    |    | 山梨  | 洪水  |             | 笛吹川下流、河口湖  | 笛吹川増水し、下流水害。河口湖氾濫し2丈余の深さの切れ所を生ず。   | 『山梨県水害史』                                    |
| 1863 | 3  | 3  | 文久3  | 1  | 14 | 栃木  | 火事  |             | 大久保村   |  | 『近代足利市史』第一巻、824-827頁                        |
| 1863 | 7  | 13 | 文久3  | 5  | 28 | 群馬  | 洪水  |             |  | 桐生川6尺余大出水、田畑流出山崩あり(山田郡)<br>田畑被害1.9反(富士見村)  | 『群馬県気象災害史』                                  |
| 1863 | 6  |    | 文久3  | 5  |    | 栃木  | その他 | 干害          | 大久保村   |  | 『近代足利市史』第一巻、824-827頁                        |
| 1863 | 9  |    | 文久3  | 8  |    | 東京  | 洪水  |             | 多摩川下流左岸  | 多摩川洪水で下流左岸、和泉村58間決壊。   | 『多摩川誌』(世田谷区の用水と河川)                          |
| 1863 | 9  |    | 文久3  | 8  |    | 栃木  | 洪水  |             | 大久保村   |  | 『近代足利市史』第一巻、824-827頁                        |
| 1863 | 11 | 30 | 文久3  | 10 | 20 | 神奈川 | 火災  |             | 海岸通り   |  | 『横浜近代史総合年表』                                 |
| 1863 | 12 | 12 | 文久3  | 11 | 2  | 神奈川 | 火災  |             | 橋樹郡神奈川台町   |  | 『横浜近代史総合年表』                                 |
| 1863 | 12 | 19 | 文久3  | 11 | 9  | 群馬  | 豪雪  |             |  | 雪3尺降る(糸之瀬村)  | 『群馬県気象災害史』                                  |
| 1863 |    |    | 文久3  |    |    | 栃木  | 火事  |             | 足利市内の中町  | ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1~3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期のため、火災が拡大  | 『近代足利市史』第一巻、966~968頁                        |
| 1864 | 1  | 2  | 文久3  | 11 | 23 | 神奈川 | 火災  | 神奈川大火       | 橋樹郡神奈川町  |  | 『横浜近代史総合年表』                                 |
| 1864 | 2  | 23 | 元治元  | 1  | 16 | 神奈川 | 火災  |             | 横浜   | J.アルマンド=ジュニア商会   | 『横浜近代史総合年表』                                 |
| 1864 | 4  | 19 | 元治元  | 3  | 14 | 東京  | 火事  | 元治元年3月14日大火 | 日本橋  | 瀬戸物町付近で出火、約59町焼失   | 『横浜近代史総合年表』                                 |
| 1864 | 8  | 19 | 元治元  | 7  | 18 | 埼玉  | 洪水  |             | 埼玉県東部  | 7~8月に連続して暴風雨となり、堤が連続して決壊。  | 『東京市史稿 震災編 第4』                              |
| 1864 | 9  | 8  | 元治元  | 8  | 8  | 神奈川 | 暴風  |             |  | 八日夜より南よりの風強まり翌日昼前北西に変る 屋上崩壊大破するところもあった(武江年表、日本貿易新聞)  | 『吹上町史』『鷺沼町史』                                |
| 1864 | 9  | 9  | 元治元  | 8  | 9  | 群馬  | 洪水  |             |  | 詳細不明<br>大出水、橋皆落(糸之瀬・利南村)<br>渡良瀬川西谷田村離船渡下にて60間破壊、1戸流出(邑楽郡)<br>畑0.6反欠(薄根村)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部<br>『群馬県気象災害史』           |
| 1864 | 9  | 9  | 元治元  | 8  | 9  | 埼玉  | 洪水  |             | 幸手領  | 領内の権現堂川が溢水。  | 『幸手市史』通史編 I                                 |
| 1864 | 9  | 9  | 元治元  | 8  | 9  | 栃木  | 洪水  | 豪雨、暴風併発     | 大久保村   |  | 『近代足利市史』第一巻、824-827頁                        |
| 1864 | 9  | 25 | 元治元  | 8  | 25 | 栃木  | 洪水  |             | 大久保村   |  | 『近代足利市史』第一巻、824-827頁                        |

|      |    |     |    |    |     |     |    |                    |  |   |
|------|----|-----|----|----|-----|-----|----|--------------------|--|---|
| 1864 | 9  | 元治元 | 8  |    | 東京  | 洪水  |    | 多摩川下流左岸            | 多摩川洪水で下流左岸、和泉村堤160間決壊し、一円に冠水する。  | 『多摩川誌』(世田谷区の用水と河川)                        |
| 1864 | 10 | 元治元 | 9  | 8  | 神奈川 | 暴風雨 |    | 横浜                 |  | 『横浜近代史総合年表』                               |
| 1865 | 5  | 慶応元 | 5  |    | 千葉  | 洪水  |    | 手賀沼周辺              | 布施村冠水。   | 『手賀沼周辺の水害』                                |
| 1865 | 6  | 慶応元 | 5  | 18 | 群馬  | 洪水  |    | 大瀧水時久保川にて2名溺死(薄根村) |  | 『群馬県気象災害史』                                |
| 1865 | 6  | 慶応元 | 5  |    | 東京  | 洪水  |    | 多摩川下流左岸            | 多摩川出水し、下流左岸倍方村大堤1町20間にわたり大決壊。田畑には土砂が押し入る   | 『多摩川誌』(世田谷区の用水と河川)                        |
| 1865 | 8  | 慶応元 | 6  | 15 | 神奈川 | 洪水  |    | 深川                 | 夜 風雨烈しく明方弥強く 深川辺高潮漲りて低き所床の上へ五尺許り水乗る近在村々洪水溢す 溺死者多し(武江年表)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部                       |
| 1865 | 8  | 慶応元 | 6  | 15 | 東京  | 洪水  |    | 本所、深川              | 本所地堰が浸水被害を受け、深川に高潮発生、溺死者多数   | 『東京市史稿 震災編 第2』                            |
| 1865 | 9  | 慶応元 | 8  |    | 千葉  | 洪水  |    | 手賀沼周辺              | 大室村冠水。   | 『手賀沼周辺の水害』                                |
| 1866 | 9  | 慶応2 | 8  |    | 埼玉  | 洪水  |    | 駒西町                | 大雨で畑等が浸水。  | 『駒西町史』通史編                                 |
| 1866 | 9  | 慶応2 | 8  | 6  | 神奈川 | 豪雨  |    | 大川                 | 六日朝 七日終日大雨 夜に入大風雨にて大川出水(武江年表)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部                       |
| 1866 | 9  | 慶応2 | 8  | 6  | 群馬  | 暴風  |    |                    | 辰巳風、沼須にて21棟、栄町5棟倒壊、大破27、新町5(利南村)   | 『群馬県気象災害史』                                |
| 1866 | 9  | 慶応2 | 8  | 7  | 東京  | 洪水  |    |                    | 8月7日より8日の台風で多摩川出水、下河原地区浸水。   | 『特別展 災害と多摩』                               |
| 1866 | 10 | 慶応2 | 9  |    | 山梨  | 洪水  |    |                    | 洪水。  | 『山梨県の気象』                                  |
| 1866 | 11 | 慶応2 | 10 | 20 | 神奈川 | 火事  |    | 横浜 豚屋火事            | 神奈川県   | 『神奈川県史概説下巻』                               |
| 1866 | 11 | 慶応2 | 10 | 20 | 神奈川 | 火災  |    | 豚屋火事・関内大火          | 横浜   | 『横浜近代史総合年表』                               |
| 1866 | 12 | 慶応2 | 11 | 10 | 東京  | 火事  |    | 慶応二年11月10日大火       | 神田   | 『東京市史稿 震災編 第4』                            |
| 1866 |    | 慶応2 |    |    | 千葉  | 洪水  |    | 手賀沼周辺              | 元乗物町より出火、153町焼失、焼死怪我人多し  | 『手賀沼周辺の水害』                                |
| 1867 | 10 | 慶応3 | 9  | 12 | 神奈川 | 火災  |    | 戸塚宿矢部町大火           | 鎌倉郡矢部町   | 『横浜近代史総合年表』                               |
| 1868 | 1  | 慶応4 | 1  | 7  | 神奈川 | 火災  |    | 橘樹郡神奈川町            | 1200戸焼失  | 『横浜近代史総合年表』                               |
| 1868 | 6  | 慶応4 | 5  | 6  | 埼玉  | 豪雨  |    | 幸手領                | 大雨で水田や麦畑が水没。   | 『幸手市史』通史編 I                               |
| 1868 | 6  | 慶応4 | 5  | 8  | 千葉  | 洪水  |    | 千葉県北東部(香取郡)        | 栗山川出水、田圃を害す。水量8尺余。   | 『千葉県気象災害史』                                |
| 1868 | 6  | 慶応4 | 5  |    | 千葉  | 洪水  |    | 手賀沼周辺              | 5月頃から霖雨続き、9月利根川出水、手賀沼満水。   | 『手賀沼周辺の水害』                                |
| 1868 | 8  | 慶応4 | 7  |    | 千葉  | 洪水  |    | 千葉県北東部(香取郡)        | 7月より8月に至るの間霖雨沿岸を浸し被害少からず。水量9尺余。  | 『千葉県気象災害史』                                |
| 1868 | 9  | 慶応4 | 7  | 18 | 神奈川 | 洪水  |    | 平塚市                | 慶応四年(1868)七月十八日は「稀成」洪水で、北金目村持場大堤三か所が根洗いされ大破に及んだ。このため北金目始め、水二七か所の田畑・家居まで水浸の状態になった。水が引いたあと、村方より多数人足が出て懸命に水防作業を実施したが、一向に欠陥れ所は復旧しなかった。とりあえず急水留だけでも大政奪還された新政府に出席しようとしたが、「御多端之御時節」の折延び延びになっていた。  | 『平塚市史9 通史編 古代・中世・近世』第二編第三章第六節三『村々の普請と水争い』 |
| 1868 | 9  | 慶応4 | 7  | 18 | 東京  | 洪水  |    | 多摩川中流              | 大雨。和泉村堤315間決壊。   | 『多摩川誌』(狛江市水害史)                            |
| 1868 | 9  | 慶応4 | 7  | 19 | 埼玉  | 洪水  |    | 埼玉県東部              | 各地で破壊・出水。  | 『吹上町史』『吉見町史』『幸手市史』通史編1『鷲宮町史』『駒西町史』通史編     |
| 1868 | 9  | 慶応4 | 7  | 23 | 群馬  | 洪水  |    |                    | 利根川梅島村梅原下屋敷にて145間破壊し家屋5棟流出(邑楽郡)<br>連日の豪雨のため山崩れ滑り起り、大沢沢大洪水となる、道路橋梁破壊、死傷者十数名、家屋流出13戸、耕地流出(新治村)<br>田1反川欠(薄根村)<br>渡良瀬川海老瀬村にて45間破壊(邑楽郡)   | 『群馬県気象災害史』                                |
| 1868 | 9  | 慶応4 | 7  |    | 神奈川 | 洪水  |    | 茅ヶ崎市               | 東征軍が江戸へ向かったあと、世情が騒然としているとき洪水に見舞われた。近代まれな洪水と記録されているほどで、田端村(寒川町)から萩園村へかけ、堤防三〇間(約五四〇メートル)の踏路が決壊して下流域一帯は濁水に覆われた。柳島村では床上浸水が続出する状態であって、農作物が全滅したのはいうまでもない。<br>菊池小兵衛が萩園村名主となったのは、その翌年である。したがって洪水によって大打撃を受けたあとの村政を引継いだ。かれの治績を讃える記録の一節に、「先年頻々洪水アリ、相模川漲溢シテ堤防ヲ決潰シ同川沿岸タル藪阿其ノ人畜を害シ田畑ヲ荒廢シテ慘憺タルモノアリ」と記されている。こうした被害が繰り返されても明治維新の政情の定まらないうちは、国また県費によって堤防工事を施工することは不可能であった。 | 『茅ヶ崎市史5概説編』『近代の幕明け』一〜3『政治と農村指導』           |
| 1868 | 10 | 慶応4 | 8  | 26 | 千葉  | 暴風  | 海難 | 銚子沖                | 8月26日二里幕府の軍艦三ヶ保丸暴風雨に遭い下総国銚子黒生浦の暗礁に触れて沈没す。死者十数人。  | 『千葉県気象災害史』                                |
| 1868 |    | 明治元 |    |    | 茨城県 | 洪水  |    | 茨城県                | 夏に大洪水、利根川流域で被害   | 『総和町史』通史編 近代・現代、『海道市史』下巻                  |
| 1868 |    | 明治元 |    |    | 栃木  | 洪水  |    |                    |  | 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁                    |
| 1868 |    | 明治元 |    |    | 栃木  | 洪水  |    | 下羽田村               | 渡良瀬川の堤防決壊  | 『佐野市史』(佐野市、1979年)、244-245                 |
| 1868 |    | 明治元 |    |    | 栃木  | 洪水  |    | 高橋村                | 旗川の堤防決壊  | 『佐野市史』(佐野市、1979年)、244-245                 |
| 1869 | 2  | 明治2 | 1  | 3  | 千葉  | 暴風  | 海難 | 勝浦沖                | 正月3日熊本藩御用船上総国夷隅郡川津村南東端華立巖にて大風雨に遇いて沈没死者百数十人也。   | 『千葉県気象災害史』                                |
| 1869 | 2  | 明治2 | 1  | 3  | 栃木  | 地震  |    |                    |  | 『真岡市史』(真岡市、1988年)、42頁                     |
| 1869 | 5  | 明治2 | 4  | 12 | 栃木  | 火事  |    |                    |  | 『日光市史』下巻(日光市、1979年)、412                   |
| 1869 | 6  | 明治2 | 5  | 13 | 栃木  | 火事  |    |                    |  | 『日光市史』下巻(日光市、1979年)、412                   |
| 1869 | 夏  | 明治2 | 夏  |    | 千葉  | その他 | 不作 | 千葉県北東部(香取郡)        | 夏雨量殊に多く禾穀登らず。  | 『千葉県気象災害史』                                |
| 1869 | 8  | 明治2 | 7  | 12 | 神奈川 | 豪雨  |    |                    | 十三日朝五半時頃より大風雨にて家屋破壊多し(武江年表)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部                       |
| 1869 | 8  | 明治2 | 7  | 13 | 千葉  | 洪水  |    | 手賀沼周辺              | 烈風雨、利根川・手賀沼出水。   | 『手賀沼周辺の水害』                                |
| 1869 | 8  | 明治2 | 7  | 13 | 神奈川 | 暴風雨 |    |                    |  | 『横浜近代史総合年表』                               |
| 1869 | 8  | 明治2 | 7  | 13 | 群馬  | 洪水  |    |                    | 新川出来る(山田郡)<br>大出水(糸之瀬村)<br>大出水、沼須横町水押、天明より84年目の大水(利南村)<br>渡良瀬川西谷田村除川にて165間破壊、同西谷田村西岡新田にて100間破壊、同海老瀬村沖伊谷田にて56間破壊(邑楽郡)   | 『群馬県気象災害史』                                |
| 1869 | 8  | 明治2 | 7  | 13 | 埼玉  | 洪水  |    | 荒川・江戸川流域           | 大雨で各河川から出水。  | 『吹上町史』『三郷市史』通史編 II『幸手市史』通史編2『所沢市史』通史編下、な  |
| 1869 | 10 | 明治2 | 9  | 20 | 千葉  | 洪水  |    | 千葉県北西部             | 9月20日利根川出水し当地方に水害あり。   | 『千葉県気象災害史』                                |
| 1869 |    | 明治2 |    |    | 栃木  | 洪水  |    |                    |  | 『小山市史』通史編 III 近現代(小山市、1987年)、495-497頁     |
| 1869 |    | 明治2 |    |    | 栃木  | 洪水  |    |                    |  | 『小山市史』通史編 III 近現代(小山市、1987年)、495-497頁     |
| 1869 |    | 明治2 |    |    | 栃木  | 洪水  |    | 下羽田村               | 渡良瀬川の堤防決壊  | 『佐野市史』(佐野市、1979年)、244-245                 |
| 1869 |    | 明治2 |    |    | 栃木  | 洪水  |    |                    |  | 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁                    |
| 1870 | 1  | 明治2 | 12 | 12 | 東京  | 火事  |    | 神田相生町20火災          | 神田相生町  | 『東京の消防百年の歩み』                              |
| 1870 | 1  | 明治2 | 12 | 28 | 東京  | 火事  |    | 京橋区元数寄屋町2丁目火災      | 京橋区元数寄屋町   | 『東京の消防百年の歩み』                              |
| 1870 |    | 明治3 | 1  | 18 | 栃木  | 火事  |    |                    | 本城の寿楽院   | 『近代足利市史』第一巻、966~968頁                      |
| 1870 | 3  | 明治3 | 2  | 1  | 栃木  | 火事  |    |                    | ローンク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1~3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期なため、火災が拡大  | 『真岡市史』(真岡市、1988年)、42頁                     |
| 1870 | 3  | 明治3 | 2  | 2  | 神奈川 | 火災  |    | 野毛町・吉田町大火          | 横浜野毛町・吉田町  | 『横浜近代史総合年表』                               |

|      |    |    |     |    |    |     |     |                 |                                  |  |   |   |
|------|----|----|-----|----|----|-----|-----|-----------------|----------------------------------|--|---|---|
| 1870 | 3  | 11 | 明治3 | 2  | 10 | 埼玉  | 火事  |                 | 草加宿                              |  | 夕刻に発生した火災が北風にあおられ延焼。  | 『埼玉県行政史』1、『草加市史』通史編                             |
| 1870 | 3  | 19 | 明治3 | 2  | 18 | 埼玉  | 洪水  |                 | 横見郡                              |  | 大風雨で堤が切れ出水、暴風で家財や食料が流される。   | 『吉見町史』  |
| 1870 | 4  |    | 明治3 | 3  |    | 茨城県 | 火事  |                 | 石岡市                              |  | 若松町から出火、青木町などへ延焼、500戸焼失   | 『石岡市史』下巻  |
| 1870 | 5  | 4  | 明治3 | 4  | 4  | 埼玉  | 火事  |                 | 加須町                              |  | 30戸が全焼。   | 『羽生市史』下巻  |
| 1870 | 8  | 14 | 明治3 | 7  | 18 | 埼玉  | 洪水  |                 | 埼玉県東部                            |  | 7月上旬から断続的に大雨が降り、各地で出水。  | 『吹上町史』『北埼玉郡史』『栗橋市史』『三郷市史』通史編Ⅱ、『久喜市栗橋町史』通史編 下など。 |
| 1870 | 8  | 15 | 明治3 | 7  | 19 | 群馬  | 洪水  |                 |                                  |  | 大風、大水、沼須橋流出(糸之瀬村)<br>暴風雨のため、白川井野川氾濫、死者1(長野村)<br>利根川、千江田村斗合田にて240間破堤、渡良瀬川海老瀬村仲伊谷田にて68間破堤、同西谷田村除川にて250間破堤、同西谷田村西岡新田にて65間破堤                              | 『群馬県気象災害史』                                      |
| 1870 | 8  |    | 明治3 | 9  |    | 茨城県 | 洪水  |                 | 古河市                              |  | 渡良瀬川の堤防が決壊し、古河城の城内へ水は入る   | 『古河市史』通史編                                       |
| 1870 | 8  |    | 明治3 | 7  |    | 茨城県 | 洪水  |                 | 中利根川流域                           |  | 暴風雨と洪水、家屋の流失・浸水123軒   | 『取手市史』通史編Ⅲ                                      |
| 1870 | 8  |    | 明治3 | 7  |    | 千葉  | 洪水  |                 | 手賀沼周辺                            |  | 7月中旬豪雨、21日未明市佐堤防決壊、手賀沼大洪水、湖北村堤防決壊。  | 『手賀沼周辺の水害』                                      |
| 1870 | 9  | 3  | 明治3 | 8  | 8  | 埼玉  | 暴風  |                 | 鴻巣宿                              |  | 午後10時頃雷雨と竜巻が発生。   | 『埼玉県行政史』1                                       |
| 1870 | 10 | 1  | 明治3 | 9  | 7  | 神奈川 | 豪雨  |                 | 吉田八丁蔵                            |  | 8日暴風雨烈しく吉田八丁蔵百十六戸の潰家と死者一名を出す(横浜開港五十年史、武江年表)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部                             |
| 1870 | 10 | 2  | 明治3 | 9  | 8  | 神奈川 | 暴風雨 |                 | 横浜吉田町                            |  | 116軒倒壊  | 『横浜近代史総合年表』                                     |
| 1870 | 10 |    | 明治3 | 9  | 中  | 千葉  | 洪水  |                 | 手賀沼周辺                            |  | 9月中旬、手賀沼満水、水田冠水。  | 『手賀沼周辺の水害』                                      |
| 1870 | 10 | 12 | 明治3 | 9  | 18 | 群馬  | 洪水  |                 |                                  |  | 大風、橋流出(糸之瀬村)  | 『群馬県気象災害史』                                      |
| 1870 | 10 | 12 | 明治3 | 9  | 18 | 千葉  | 洪水  |                 | 千葉県北部(利根川)                       |  | 9月18日利根川出水あり。沿岸を浸し被害少からず。   | 『千葉県気象災害史』                                      |
| 1870 | 10 | 29 | 明治3 | 10 | 5  | 栃木  | 火事  |                 |                                  |  | 日本橋区難波町19火災   | 『真岡市史』(真岡市、1988年)、42頁                           |
| 1871 | 2  | 11 | 明治3 | 12 | 22 | 東京  | 火事  | 日本橋区難波町         | 日本橋区難波町                          |  | 米屋より出火、全焼1,180戸、焼失面積60,291平方メートル  | 『東京の消防百年の歩み』                                    |
| 1870 |    |    | 明治3 |    |    | 栃木  | 洪水  |                 |                                  |  |   | 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、1987年)、495-497頁               |
| 1870 |    |    | 明治3 |    |    | 栃木  | 洪水  |                 |                                  |  |   | 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁                          |
| 1870 |    |    | 明治3 |    |    | 栃木  | 洪水  |                 | 下羽田村                             |  | 渡良瀬川の堤防決壊   | 『佐野市史』(佐野市、1979年)、244-245                       |
| 1870 |    |    | 明治3 |    |    | 栃木  | 洪水  |                 | 横野村                              |  | 秋山川の堤防決壊  | 『佐野市史』(佐野市、1979年)、244-245                       |
| 1871 | 1  | 3  | 明治3 | 11 | 13 | 神奈川 | 火災  |                 | 横浜南仲通・本町・弁天通                     |  |   | 『横浜近代史総合年表』                                     |
| 1871 | 3  | 8  | 明治4 | 1  | 18 | 神奈川 | 火災  |                 | 横浜太田町・入船町・駒形町                    |  |   | 『横浜近代史総合年表』                                     |
| 1871 | 5  | 9  | 明治4 | 3  | 20 | 神奈川 | 火災  |                 | 横浜馬車道・小舟町                        |  |   | 『横浜近代史総合年表』                                     |
| 1871 | 5  | 19 | 明治4 | 4  | 1  | 神奈川 | 火災  |                 | 横浜緑町                             |  |   | 『横浜近代史総合年表』                                     |
| 1871 | 7  | 5  | 明治4 | 5  | 18 | 群馬  | 洪水  |                 |                                  |  | 大水、沼須橋流出(糸之瀬村)<br>大水、土橋、船橋流失(利南村)<br>渡良瀬川海老瀬村仲伊谷田にて28間破堤  | 『群馬県気象災害史』                                      |
| 1871 | 7  | 16 | 明治4 | 5  | 29 | 東京  | 火事  | 浅草区新吉原江戸町2丁目火災  | 浅草区新吉原江戸町二丁目、角町、揚屋町、京町1,2丁目、五十軒町 |  | 豆腐屋より出火、吉原遊郭のほぼ3分の2が焼失、全焼673戸   | 『東京の消防百年の歩み』                                    |
| 1871 | 9  | 3  | 明治4 | 7  | 19 | 神奈川 | 高潮  |                 | 深川鉄砲洲・沙村・逆井・堀江・猫ざね・行徳            |  | 朝より大風雨 深川鉄砲洲 沙村 逆井 堀江 猫ざね 行徳 海嘯(中略) 御府内も所々潰家多く即死怪我人多かりし凡十里四方程の荒なり(武江年表)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表1部                             |
| 1871 | 10 | 10 | 明治4 | 9  | 26 | 神奈川 | 水害  |                 | 石川橋                              |  |   | 『横浜近代史総合年表』                                     |
| 1871 | 10 | 20 | 明治4 | 9  | 7  | 栃木  | 豪雨  |                 |                                  |  | 落雷を伴う   | 『宇都宮市史』近・現代編Ⅱ(宇都宮市、1981年)、290-294頁              |
| 1871 | 10 |    | 明治4 | 9  |    | 埼玉  | 洪水  |                 | 富士見市                             |  | 市域の堤防が破損。   | 『富士市史』通史編 下巻                                    |
| 1871 | 12 | 9  | 明治4 | 10 | 27 | 神奈川 | 火災  |                 | 横浜吉原町・吉田町                        |  | 死者20人   | 『横浜近代史総合年表』                                     |
| 1871 |    |    | 明治4 |    |    | 栃木  | 洪水  |                 |                                  |  |   | 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁                          |
| 1871 |    |    | 明治4 |    |    | 栃木  | 洪水  |                 |                                  |  |   | 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、1987年)、495-497頁               |
| 1872 | 4  | 3  | 明治5 | 2  | 26 | 神奈川 | 火災  |                 | 橋本郡保土ヶ谷町                         |  | 保土ヶ谷駅大火   | 『横浜近代史総合年表』                                     |
| 1872 | 4  | 3  | 明治5 | 2  | 26 | 東京  | 火事  | 麹町区祝田町火災(銀座の大火) | 銀座御堀端から薬地にかけての41か町               |  | 旧会津藩邸より出火、各省官邸地、諸官員邸宅、諸公藩邸を多く焼失、死者8名、罹災者19,872名、全焼4,879戸  | 『東京の消防百年の歩み』                                    |
| 1872 | 4  |    | 明治5 | 3  |    | 埼玉  | 洪水  |                 | 富士見市                             |  | 市域の堤防が破損。   | 『富士市史』通史編 下巻                                    |
| 1872 | 8  | 5  | 明治5 | 7  | 2  | 群馬  | 洪水  |                 |                                  |  | 利根川氾濫、古巻地方被害  | 『群馬県気象災害史』                                      |
| 1872 | 8  | 25 | 明治5 | 7  | 22 | 千葉  | 暴風  |                 | 千葉県中西部(木更津)                      |  | 7月22日午後4時頃より南東風強く、猛雨相なり次第に烈しく7時過ぎ南風に転じ、9時頃より風雨共漸々軽軟翌晩に至る。暴風雨にて村々の人の死傷、作物の損害、家屋の破損、山村の倒木及び海岸村々押沙にて堤防の損所等あり。  | 『千葉県気象災害史』                                      |
| 1872 | 8  | 29 | 明治5 | 7  | 26 | 茨城県 | 火事  | 水戸城火災           | 水戸城                              |  | 水戸城物見櫓以外すべて焼失   | 『茨城県史年表』  |
| 1872 | 9  | 9  | 明治5 | 8  | 7  | 群馬  | 洪水  |                 |                                  |  | 8日より大雪雨、渡良瀬川一丈余の増水、須永にて3名押し流される。(山田郡)   | 『群馬県気象災害史』                                      |
| 1873 | 9  |    | 明治6 | 9  |    | 茨城県 | 洪水  |                 | 常総市                              |  | 暴風雨のため小谷沼排水路決壊  | 『水海道市史』下巻                                       |
| 1873 | 2  | 15 | 明治6 |    |    | 埼玉  | 火事  |                 | 鴻巣宿                              |  | 夜の火で宿の中心部が全焼。   | 『埼玉県行政史』1                                       |
| 1873 | 3  | 22 | 明治6 |    |    | 神奈川 | 火事  |                 | 横浜市                              |  | 22日22時過ぎ、横浜相生町3丁目より出火、末広町1、3丁目、相生町2、3、4丁目、高砂町、尾上町各1、2、3丁目、住吉町、常盤町1、2、3丁目、真砂町3丁目、港町1、2丁目を焼失した。焼失戸数1157戸、焼死者1名、北よりの風が強かった記録がある。(横浜開港50年史、東京日々新聞、横浜歴史年表) | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部                             |
| 1873 | 3  | 22 | 明治6 |    |    | 神奈川 | 火災  |                 | 横浜相生町・港町                         |  | 1577戸焼失   | 『横浜近代史総合年表』                                     |
| 1873 | 3  |    | 明治6 |    |    | 千葉  | その他 | 干ばつ             |                                  |  | 上総国武射、山辺、長柄、3郡は3月より7月まで降雨甚稀なり。  | 『千葉県気象災害史』                                      |
| 1873 | 4  | 30 | 明治6 |    |    | 千葉  | 暴風  |                 | 千葉県北西部(習志野)                      |  | 明治天皇千葉県下総国習志野に於て近衛兵の演習を御統監のをり4月30日夜中頃から暴風雨になる。  | 『千葉県気象災害史』                                      |
| 1873 | 夏  |    | 明治6 |    |    | 千葉  | その他 | 干ばつ             |                                  |  | 夏旱す。  | 『千葉県気象災害史』                                      |
| 1873 | 8  |    | 明治6 |    |    | 千葉  | 洪水  |                 | 手賀沼周辺                            |  | 利根川出水、六軒および木下前坑樋破堤。   | 『手賀沼周辺の水害』                                      |
| 1873 | 9  | 21 | 明治6 |    |    | 神奈川 | 豪雨  |                 | 横浜市・久良岐郡                         |  | 21日より23日にかけて暴風雨あり、横浜吉田町及久良岐郡中村等最も甚しく近傍の諸川の水深4、5尺を増して地上に氾濫し、野毛、平沼両川も決壊して附近の市街濁水横行し野毛山、石川、中村の山がけ崩壊し、人家54が倒壊し床上浸水の家屋900戸、死者6名。(横浜開港50年史、東京日々新聞、横浜毎日新聞)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部                             |
| 1873 | 9  | 22 | 明治6 |    |    | 神奈川 | 水害  |                 | 横浜                               |  | 床上浸水900戸・死者6人   | 『横浜近代史総合年表』                                     |
| 1873 | 9  | 22 | 明治6 |    |    | 埼玉  | 洪水  |                 | 吹上町域                             |  | 暴風雨で荒川が氾濫。  | 『吹上町史』  |
| 1873 | 9  | 24 | 明治6 |    |    | 千葉  | 洪水  |                 | 千葉県北部(利根川)                       |  | 利根川13尺出水。   | 『千葉県気象災害史』                                      |
| 1873 | 12 | 9  | 明治6 |    |    | 東京  | 火事  | 神田区東福田町4火災      | 神田区東福田町                          |  | 古紙卸業より出火、全焼4,952戸   | 『東京の消防百年の歩み』                                    |
| 1874 |    |    | 明治7 |    |    | 群馬  | その他 |                 |                                  |  | 12か村の麦穂巨雹に打ち砕かれ、92町余枯折し桑の芽も3分どおり凋落した(上毛新聞、東京日日新聞)   | 『群馬県気象災害史』                                      |
| 1874 | 2  | 8  | 明治7 |    |    | 神奈川 | 火災  |                 | 横浜・フランス病院                        |  |   | 『横浜近代史総合年表』                                     |
| 1874 | 3  | 9  | 明治7 |    |    | 埼玉  | 火事  |                 | 羽生町                              |  | 全焼17戸。  | 『羽生市史』下巻  |
| 1874 | 3  | 15 | 明治7 |    |    | 神奈川 | 火災  |                 | 横浜日ノ出町                           |  | 69戸焼失。  | 『横浜近代史総合年表』                                     |

|      |    |    |      |  |     |     |  |                             |  |  |
|------|----|----|------|--|-----|-----|--|-----------------------------|--|--|
| 1874 |    |    | 明治7  |  | 茨城県 | 火事  |  | 鉾田町                         | 大火、74戸焼失   | 『鉾田町史』通史編・下巻                                     |
| 1874 | 4  | 5  | 明治7  |  | 栃木  | 火事  |  | 田中の医王寺                      | ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1〜3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期のため、火災が拡大  | 『近代足利市史』第一巻、966〜968頁                             |
| 1874 | 7  | 10 | 明治7  |  | 神奈川 | 暴風雨 |  | 横浜石川町                       | 崖崩れ・33個倒壊・死者2人   | 『横浜近代史総合年表』                                      |
| 1874 | 10 | 2  | 明治7  |  | 埼玉  | 火事  |  | 越ヶ谷宿                        | 未明に発生した火災が折からの烈風で延焼。近隣2村を含む広範囲が焼失。   | 『埼玉県警察史』1、『埼玉県行政史』1、『越谷市史』通史編2                   |
| 1874 |    |    | 明治7  |  | 栃木  | 洪水  |  | 村上村                         | 旗川の堤防決壊  | 『佐野市史』(佐野市、1979年)、244-245                        |
| 1875 | 2  | 5  | 明治8  |  | 神奈川 | 暴風雨 |  | 横浜                          |  | 『横浜近代史総合年表』                                      |
| 1875 | 2  | 7  | 明治8  |  | 神奈川 | 火災  |  | 横浜元町・諏訪町                    | 506戸焼失   | 『横浜近代史総合年表』                                      |
| 1875 | 2  | 7  | 明治8  |  | 埼玉  | 火事  |  | 所沢                          | 51戸と土蔵物置32焼失。  | 『所沢市史』通史編下                                       |
| 1875 | 3  | 3  | 明治8  |  | 千葉  | 火事  |  | 千葉津                         | 3月3日大栗津村74番宅居住齋藤三之助外180件焼失。  | 『千葉県気象災害史』                                       |
| 1875 | 8  | 10 | 明治8  |  | 神奈川 | 水害  |  | 鶴見川・早瀬川流域                   |  | 『横浜近代史総合年表』                                      |
| 1875 | 8  | 10 | 明治8  |  | 群馬  | 洪水  |  | 橋本郡各村                       | 片品川大水(糸之瀬村)<br>渡良瀬川西谷田村除川にて117間破堤<br>同海老瀬村仲伊谷田にて56間破堤(邑楽郡)   | 『群馬県気象災害史』                                       |
| 1875 | 8  | 10 | 明治8  |  | 東京  | 豪雨  |  | 寺方村、落合村                     | 暴風雨による。寺方村では大栗川出水、土砂崩発生。落合村では土砂崩れにより4名死亡、全半壊7軒。  | 『特別展 災害と多摩』                                      |
| 1875 | 11 |    | 明治8  |  | 栃木  | 洪水  |  |                             |  | 『宇都宮市史』近・現代編Ⅱ(宇都宮市、1981年)、290-294頁               |
| 1875 | 12 | 12 | 明治8  |  | 東京  | 火事  |  | 浅草区新吉原江戸町1-25火災             | 新吉原1丁目、仲之町、江戸町2丁目、揚屋町、京町1.2丁目、伏見町、角町   | 『東京の消防百年の歩み』                                     |
| 1875 | 12 | 13 | 明治8  |  | 栃木  | 火事  |  | 旧御陣屋                        | ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1〜3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期のため、火災が拡大  | 『近代足利市史』第一巻、966〜968頁                             |
| 1875 |    |    | 明治8  |  | 栃木  | 洪水  |  | 下羽田村                        | 渡良瀬川の堤防決壊  | 『佐野市史』(佐野市、1979年)、244-245                        |
| 1875 |    |    | 明治8  |  | 栃木  | 洪水  |  |                             |  | 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁                           |
| 1875 |    |    | 明治8  |  | 栃木  | 洪水  |  |                             |  | 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、1987年)、495-497頁                |
| 1875 |    |    | 明治8  |  | 千葉  | 洪水  |  | 手賀沼周辺                       | リンドウらにより低水工事起工。  | 『手賀沼周辺の水害』                                       |
| 1876 | 3  | 11 | 明治9  |  | 栃木  | 火事  |  | 足利市三丁目                      | ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1〜3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期のため、火災が拡大  | 『近代足利市史』第一巻、966〜968頁                             |
| 1876 | 3  | 13 | 明治9  |  | 神奈川 | 水害  |  | 横浜桜木町                       | 倒壊21棟・81戸  | 『横浜近代史総合年表』                                      |
| 1876 | 9  | 14 | 明治9  |  | 山梨  | 洪水  |  | 荒川流域、桂川流域、富士川流域、釜無川流域、笛吹川流域 | 9月14日より降雨、16日暴風となる。荒川・桂川・富士川・釜無川・笛吹川が増水となる。死者7人。流失家屋83戸、堤防決壊676箇所(延長2万2111間)。  | 『山梨県水害史』   |
| 1876 | 9  | 17 | 明治9  |  | 群馬  | 洪水  |  |                             | 大風、大水(糸之瀬村)  | 『群馬県気象災害史』                                       |
| 1876 | 9  | 17 | 明治9  |  | 千葉  | 洪水  |  | 千葉県北部(利根川)                  | 9月17日利根川13尺出水。   | 『千葉県気象災害史』                                       |
| 1876 | 9  | 18 | 明治9  |  | 埼玉  | 洪水  |  | 埼玉県内                        | 豪雨により権現堂川など各河川が決壊。   | 『埼玉県行政史』1、『日光市史』下巻(日光市、1977年)、412                |
| 1876 | 9  | 18 | 明治9  |  | 栃木  | 火事  |  |                             |  | 『東京の消防百年の歩み』                                     |
| 1876 | 10 | 3  | 明治9  |  | 東京  | 火事  |  | 神田区神田三河3-3火災                | 神田区神田三河  | 風呂屋より出火、全焼687戸、焼損面積26,070平方メートル                  |
| 1876 | 10 | 30 | 明治9  |  | 埼玉  | 火事  |  | 越ヶ谷大沢宿                      |  | 『埼玉県行政史』1、『千葉県気象災害史』                             |
| 1876 | 秋  |    | 明治9  |  | 千葉  | 火事  |  | 千葉                          | 木更津  | 秋木津博徳通称神徳の市(今松川樓のある所)より発火、仲町、田面通に延焼し50余戸を焼き払いたり。 |
| 1876 | 11 | 29 | 明治9  |  | 東京  | 火事  |  | 日本橋区数寄屋町2火災(数寄屋橋の大火)        | 日本橋区数寄屋町近傍79か町   | 株営業より出火、罹災者20,000名余、全焼8,550戸、焼損面積231,865平方メートル   |
| 1877 | 1  | 22 | 明治10 |  | 埼玉  | 火事  |  | 本庄宿                         | 宿内の寺から出火し延焼。   | 『埼玉県行政史』1、『千葉県気象災害史』                             |
| 1877 | 2  | 20 | 明治10 |  | 埼玉  | 火事  |  | 深谷宿                         | 農家からの出火が延焼し、深谷宿と隣村の西島村が焼ける。  | 『埼玉県行政史』1、『横浜近代史総合年表』                            |
| 1877 | 2  | 28 | 明治10 |  | 神奈川 | 火災  |  | 横浜霞町2丁目                     | 200戸焼失   | 『横浜近代史総合年表』                                      |
| 1877 | 3  | 17 | 明治10 |  | 神奈川 | 火災  |  | 横浜元町                        | 230戸焼失   | 『横浜近代史総合年表』                                      |
| 1877 | 3  | 28 | 明治10 |  | 神奈川 | 火災  |  | 横浜井大通                       | 140戸焼失   | 『横浜近代史総合年表』                                      |
| 1877 | 4  | 29 | 明治10 |  | 東京  | 火事  |  | 神田区神田花園1火災                  | 神田区神田花園  | 火除地線人形興業場より出火、全焼490戸、焼損面積16,761平方メートル            |
| 1877 | 6  | 11 | 明治10 |  | 神奈川 | 暴風雨 |  | 横浜港                         |  | 『横浜近代史総合年表』                                      |
| 1877 | 7  | 26 | 明治10 |  | 神奈川 | 洪水  |  | 平塚市                         | 明治十年七月二十六日の夜から二十七日朝にかけての強風と降り続ける雨による被害が生じた。金目川に合流する市域を縦横に走っている諸川の「水害表書上」を見ると被害の大きさがよく分かる。丸島村では二七日の真夜中には水位が六尺(一・八m)増え水に浸かった田畑は、およそ二八町歩(約二・七ha)を数えていた。堤の切れた所は、延べ九間三尺(約一・七m)で決壊した箇所が五か所所で延べ〇間(約一・八m)であった。また、玉川・鈴川・谷川の流れている豊田本郷村。平等寺村・小嶺村・宮下村では二七日の午前七時には水位は平常時より九尺(約二・七m)の高さに達し、水浸しになった水田が二三町六反歩(約二・三ha)、畑が三二町九反六畝歩(約三二・七ha)に達していた。さらに、下島村・打間木村では谷川・玉川が溢れ二七日の午前九時は、平水より八尺(約二・四m)水嵩が増し、水を冠った水田が八町三反六畝歩(約八・三ha)畑が五町二反六畝歩(約五・一ha)となっていた。 | 『平塚市史』10 通史編 近代・現代』第一編第四章第二節『治水・水利の取決め』          |
| 1877 | 7  | 26 | 明治10 |  | 神奈川 | 暴風雨 |  | 横浜港                         | 大風、大水、橋落(糸之瀬村)   | 『横浜近代史総合年表』                                      |
| 1877 | 7  | 26 | 明治10 |  | 群馬  | 洪水  |  |                             |  | 『群馬県気象災害史』                                       |
| 1877 | 8  | 26 | 明治10 |  | 神奈川 | 洪水  |  | 津久井郡                        | 間の川氾濫し、右岸の崖崩れにより倉庫1、家屋の破損流失各1、床下浸水20戸、死者1(津久井郡勢誌)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部                              |
| 1877 | 9  | 21 | 明治10 |  | 神奈川 | 火災  |  | 神奈川駅伊豆町                     | 80戸焼失  | 『横浜近代史総合年表』                                      |
| 1877 | 10 | 11 | 明治10 |  | 神奈川 | 暴風  |  | 横浜市                         | 11日暴風あり横浜市内被害多し、長者町、不老町、福富町は取りわけ甚だ多く、河岸の倉庫、瓦斯燈など破損多し、突風ありて小舟空中に捲き上り大破、港内の艦船にも被害あり。死者2、傷者11、船の破損数隻、風による倒壊物件多し。埼玉、栃木、千葉県内もこの風でかなりの死傷者ありたり。(東京日々新聞)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部                              |
| 1877 | 10 | 11 | 明治10 |  | 埼玉  | 洪水  |  | 埼玉県内                        | 詳細不明   | 『埼玉県行政史』1、『久喜市史』通史編下                             |
| 1878 | 3  | 9  | 明治11 |  | 埼玉  | 火事  |  | 久喜町                         | 強風で火災が延焼。  | 『東京の消防百年の歩み』                                     |
| 1878 | 3  | 17 | 明治11 |  | 東京  | 火事  |  | 神田区神田黒門町5火災                 | 神田区神田黒門町   | 住宅より出火、死者2名、全焼5,120戸、焼損面積153,816平方メートル           |
| 1878 | 3  | 22 | 明治11 |  | 埼玉  | 火事  |  | 大宮郷                         | 塵芥捨て場から出た火災が人家に延焼。   | 『埼玉県警察史』1、『埼玉県行政史』1、『埼玉県行政史』1、『群馬県気象災害史』         |
| 1878 | 3  | 27 | 明治11 |  | 埼玉  | 火事  |  | 秩父郡浦山村                      | 詳細不明   | 『埼玉県行政史』1、『群馬県気象災害史』                             |
| 1878 | 6  | 29 | 明治11 |  | 群馬  | その他 |  | 伊香保                         | 午後5時ごろにわかに烈風吹き、強雨おこり、直径1寸程の雹が礫を投げるように降る。家屋の破損多く4階造りの新築家屋倒れ、金刀比羅山に山崩れあり、鯉茶屋の池を埋め、鯉5千を埋める  | 『群馬県気象災害史』                                       |
| 1878 | 8  |    | 明治11 |  | 茨城県 | 蝗被害 |  | 行方郡潮来村                      | 蝗の大量発生で農作物の多大な被害(『行方郡郷土史』)   | 『茨城県史年表』   |
| 1878 | 9  | 4  | 明治11 |  | 群馬  | 洪水  |  |                             | 碓氷峠坂本駅などで豪雨のため山崩れ多く往来止めとなる(郵便報知)   | 『群馬県気象災害史』                                       |
| 1878 | 9  | 10 | 明治11 |  | 群馬  | 洪水  |  |                             | 暴風雨(薄根村)   | 『群馬県気象災害史』                                       |
| 1878 | 9  | 14 | 明治11 |  | 茨城県 | 豪雨  |  | 伊奈町                         | 大雨で谷井田村内の田畑冠水  | 『伊奈町近代・現代史年表』                                    |
| 1878 | 9  | 14 | 明治11 |  | 神奈川 | 豪雨  |  | 橋本郡                         | 14日札幌より暴風雨となり15日に及び16日各河川の増水氾濫により各地で被害あり。15日橋本郡橋、綱島辺は夥しく出水、川崎辺は六郷川の水溢れ田畑の浸水多し、四等巡査1名流され行方不明。程ヶ谷在の芝生村では山崩れあり死傷者あるも不詳。16日未明六郷橋、鶴見橋同時流失。同日馬入川満水近傍の人家流失溺死3名、酒匂橋も落つ。県内八王子近在は14日からの風雨にて河川出水、山崩れにて家潰れしもの数戸、死者あり傷者あれど不詳、橋落ち交通社絶えたり。16日早朝鶴見浦田辺鉄路水没17日夕刻まで鉄道不通となる。(東京日々新聞)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部                              |

|      |     |    |         |  |     |     |                      |  |  |                                      |
|------|-----|----|---------|--|-----|-----|----------------------|--|--|--------------------------------------|
| 1878 | 9   | 14 | 明治11    |  | 東京  | 洪水  | 明治11年水害              | 在原、南葛飾、北豊島4郡および下谷、浅草、山谷など下町一帯  | 暴風により多摩川、荒川、綾瀬川が増水   | 『東京の消防百年の歩み』                         |
| 1878 | 9   | 15 | 明治11    |  | 茨城県 | 洪水  |                      | 鉢田町  | 台風により増水、田畑水没   |                                      |
| 1878 | 9   | 15 | 明治11    |  | 神奈川 | 暴風雨 |                      | 神奈川県   | 六郷川氾濫  | 『横浜近代史総合年表』                          |
| 1878 | 9   | 15 | 明治11    |  | 埼玉  | 洪水  |                      | 富士見市   | 利根川・荒川などが決壊  | 『富士市市史』通史編 下巻                        |
| 1878 | 9   | 15 | 明治11    |  | 東京  | 洪水  |                      | 大栗川、多摩川流域  | 和村では大栗川の出水で1名水死、家1軒・水車小屋1軒・橋5か所が流され堰山が崩れる。一ノ宮村と関戸村の堤防が100間にわたって破れ、川倉などが流失する。   | 『特別展 災害と多摩』                          |
| 1878 | 9   |    | 明治11    |  | 埼玉  | 洪水  |                      | 浦和市・東松山市   | 荒川が増水し出水。都幾川が氾濫。   | 『浦和市史』通史編Ⅲ『東松山市史』                    |
| 1878 | 12  | 1  | 明治11    |  | 神奈川 | 火災  |                      | 神奈川西ノ町   | 400戸焼失   | 『横浜近代史総合年表』                          |
| 1878 |     |    | 明治11    |  | 埼玉  | 火事  |                      | 熊谷町  | 市内「大津屋」から出火し付近を類焼。   | 『熊谷市史』後篇                             |
| 1879 |     |    | 明治12    |  | 群馬  | 洪水  |                      | 群馬(薄根村)  | 暴風雨  | 『群馬県気象災害史』                           |
| 1879 | 1   | 12 | 明治12    |  | 神奈川 | 火災  | 元町大火                 | 横浜元町   | 255戸焼失   | 『群馬近代史総合年表』                          |
| 1879 | 5   | 9  | 明治12    |  | 神奈川 | 火災  |                      | 横浜相生町6丁目   | 10戸焼失  | 『横浜近代史総合年表』                          |
| 1879 | 12  | 3  | 明治12    |  | 神奈川 | 地震  |                      |  |  | 『横浜近代史総合年表』                          |
| 1879 | 12  | 16 | 明治12    |  | 神奈川 | 火災  |                      | 神奈川駿青木町  | 300戸焼失   | 『横浜近代史総合年表』                          |
| 1879 | 12  | 26 | 明治12    |  | 東京  | 火事  | 日本橋箔屋町16火災(日本橋の大火)   | 日本橋箔屋町   | 左官職より出火、死者24名、負傷者84名、全焼10,613戸、焼損面積2244,972平方メートル  | 『東京の消防百年の歩み』                         |
| 1879 | ～80 |    | 明治12～13 |  | 栃木  | その他 | 鉱毒                   | 渡良瀬川   | 鉱毒により、漁獲量減少  | 『近代足利市史』第一巻、1428頁                    |
| 1880 | 1   | 30 | 明治13    |  | 神奈川 | 火事  |                      | 横須賀市   | 明治一三年に起きた長井村の大火は、塵芥(ごみ)捨て場の不審火が火元であったため、同村では罹災者や関係者、戸長が連名で「常に火取除しに無之海辺芥捨場より発火候趣に付、全怪火と奉存候」と、所管する横須賀警察署三崎分署宛てに届け出て、警察の検視活動が行われた(資1-633)。  | 『新横須賀市史 通史編 近現代』第六章 第二節『軍港の形成と災害・救援』 |
| 1880 | 1   | 30 | 明治13    |  | 神奈川 | 火災  |                      | 三浦郡長井村   | 全焼232戸   | 『横須賀市史』                              |
| 1880 | 2   | 3  | 明治13    |  | 東京  | 火事  | 日本橋区橋町               | 日本橋区橋町   | 住宅より出火、全焼1,776戸、焼損面積50,600平方メートル   | 『東京の消防百年の歩み』                         |
| 1880 | 2   | 22 | 明治13    |  | 神奈川 | 地震  |                      | 横浜地方   |  | 『横浜近代史総合年表』                          |
| 1880 | 2   |    | 明治13    |  | 埼玉  | 火事  |                      | 所沢   | 66棟全焼。   | 『所沢市史』通史編下                           |
| 1880 | 5   | 4  | 明治13    |  | 神奈川 | 火災  |                      | 横浜伊勢佐木町・吉田町  |  | 『横浜近代史総合年表』                          |
| 1880 | 6   | 16 | 明治13    |  | 神奈川 | 火災  |                      | 横浜浜町2丁目  | 70戸焼失  | 『横浜近代史総合年表』                          |
| 1880 | 7   |    | 明治13    |  | 群馬  | 洪水  |                      | 福岡村戸沢橋流出(山田郡)  | 福岡村戸沢橋流出(山田郡)  | 『群馬県気象災害史』                           |
| 1880 | 7   |    | 明治13    |  |     |     |                      | 暴風雨(薄根村)   |  |                                      |
| 1880 | 7   |    | 明治13    |  |     |     |                      | 渡良瀬川氾濫   |  |                                      |
| 1880 | 7   |    | 明治13    |  |     |     |                      | 石油置場海岸   |  | 『横浜近代史総合年表』                          |
| 1880 | 7   |    | 明治13    |  |     |     |                      | 石油積載船火災  |  | 『横浜近代史総合年表』                          |
| 1880 | 10  | 3  | 明治13    |  | 神奈川 | 豪雨  |                      | 横浜市  | 3日夜から風雨強まり4日未明最も烈しく同日6時頃より天気回復す。崖崩れ6箇所、堤防陥落2箇所、潰家大破共130戸、日本船小船50隻中破、死者2名<br>横浜大岡川続きの地出水、本町、辨天町浸水4日朝まで家屋の床上浸水続く。万代町、扇町、松蔭町潰家多し。<br>福富町、長者町、若葉町は雨水漲溢し床上3尺余を浸せり県下各部の下線暴漲。関の川氾濫床上浸水10戸。<br>(横浜開港50年史、東京日々新聞、摘要類函、津久井郡勢誌) | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部                  |
| 1880 | 10  | 3  | 明治13    |  | 埼玉  | 暴風  |                      | 吹上町域   | 樹木や鳥居が倒壊、寺院1大破。  | 『吹上町史』                               |
| 1880 | 10  | 3  | 明治13    |  | 千葉  | 高潮  | 暴風                   | 千葉県中北部   | 10月3日大風あり(香取郡)。10月3日暴風の為海嘯を起こし家屋の破損流失するもの多し。4名溺死(市原郡八幡町)。  | 『千葉県気象災害史』                           |
| 1880 | 10  | 4  | 明治13    |  | 神奈川 | 暴風雨 |                      | 横浜   | 崖崩れ6か所、堤防陥落2か所、倒壊大破139戸、死者2人   | 『横浜近代史総合年表』                          |
| 1880 | 11  | 9  | 明治13    |  | 栃木  | 火事  |                      | 織姫神社   | ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1～3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期のため、火災が拡大  | 『近代足利市史』第一巻、966～968頁                 |
| 1880 | 11  | 16 | 明治13    |  | 神奈川 | 火災  |                      | 生妻村  |  | 『横浜近代史総合年表』                          |
| 1880 | 12  | 9  | 明治13    |  | 栃木  | 火事  | 池北屋火事                | 足利町一丁目、二丁目、昌平町、横町、東町   | ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1～3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期のため、火災が拡大<br>第二国立銀行等200戸焼失   | 『近代足利市史』第一巻、966～968頁                 |
| 1880 | 12  | 10 | 明治13    |  | 神奈川 | 火災  |                      | 南仲通4丁目   |  | 『横浜近代史総合年表』                          |
| 1880 | 12  | 18 | 明治13    |  | 神奈川 | 火災  |                      | 吉田町  |  | 『横浜近代史総合年表』                          |
| 1880 | 12  | 21 | 明治13    |  | 神奈川 | 火災  |                      | 前田橋通屋留地  | 200戸焼失   | 『横浜近代史総合年表』                          |
| 1880 | 12  | 28 | 明治13    |  | 神奈川 | 火災  |                      | 横浜福富町・伊勢佐木町  | 250戸焼失   | 『横浜近代史総合年表』                          |
| 1880 | 12  | 30 | 明治13    |  | 東京  | 火事  | 神田区鍛冶町35火災           | 神田区鍛冶町   | 住宅より出火、全焼7,751戸、焼損面積82,830平方メートル   | 『東京の消防百年の歩み』                         |
| 1880 |     |    | 明治13    |  | 栃木  | 洪水  |                      | 渡良瀬川   |  | 『宇都宮市史』近・現代編Ⅱ(宇都宮市、1981年)、290-294頁   |
| 1880 |     |    | 明治13    |  | 栃木  | 洪水  |                      | 高山村  | 渡良瀬川の堤防決壊  | 『佐野市史』(佐野市、1979年)、244-245            |
| 1881 |     |    | 明治14    |  | 群馬  | 洪水  |                      | 群馬(薄根村)  | 暴風雨  | 『群馬県気象災害史』                           |
| 1881 | 1   | 26 | 明治14    |  | 東京  | 火事  | 神田区松枝町22火災(神田松枝町の大火) | 神田、日本橋、本所、深川の4区52か町  | 神田区松枝町から出火した火は、北西の強風にあおられて東神田一帯を焼きつくし、日本橋馬喰町、横山町へと延焼し、神田川沿いの元柳町、吉川町から面圍橋を越えて本所、深川に及んだ。罹災者36,542名、全焼10,637戸、焼損面積421,400平方メートル<br>1月某日小見川新田町に火を発生し150戸に延焼し西風烈しく黒部川を越えて小学校に及ぶ。  | 『東京の消防百年の歩み』                         |
| 1881 | 1   |    | 明治14    |  | 千葉  | 火事  |                      | 小見川  |  | 『千葉県気象災害史』                           |
| 1881 | 2   | 11 | 明治14    |  | 東京  | 火事  | 神田区柳町1火災             | 神田区柳町  | 髪結業、全焼7,751戸、焼損面積291,482平方メートル   | 『東京の消防百年の歩み』                         |
| 1881 | 2   | 21 | 明治14    |  | 東京  | 火事  | 四谷区筆筒町22火災           | 四谷区筆筒町   | 住宅より出火、全焼1,499戸、焼損面積67,218平方メートル   | 『東京の消防百年の歩み』                         |
| 1881 | 4   | 29 | 明治14    |  | 神奈川 | 火災  |                      | 宇安村  |  | 『横浜近代史総合年表』                          |
| 1881 | 4   |    | 明治14    |  | 茨城県 | 火事  |                      | 笠間市  |  | 『笠間市史』下巻                             |
| 1881 | 5   | 7  | 明治14    |  | 神奈川 | 暴風  |                      | 笠間小学校火災  | 笠間小学校が火事で焼失  | 『横浜近代史総合年表』                          |
| 1881 |     |    | 明治14    |  | 栃木  | 洪水  |                      | 末吉町・長者町  | 家屋倒壊   | 『横浜近代史総合年表』                          |
| 1882 | 1   |    | 明治15    |  | 栃木  | 火事  |                      |  |  | 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、1987年)、495-497頁    |
| 1884 | 2   | 19 | 明治17    |  | 神奈川 | 火災  |                      | 本町通50番   | 倉庫焼失   | 『横浜近代史総合年表』                          |
| 1882 | 2   | 25 | 明治15    |  | 神奈川 | 火災  |                      | 真砂町  | 137戸焼失   | 『横浜近代史総合年表』                          |
| 1882 | 3   | 17 | 明治15    |  | 東京  | 火災  | 大久野焼け                | 大久野村、平井村   | 大久野村字幸神より出火があったが、おろしもの暴風により平井村まで延焼した。焼失民家210軒、焼失寺社11。  | 『日の出町史』通史編下巻                         |
| 1882 | 5   | 8  | 明治15    |  | 東京  | 火事  | 神田区美土代町42火災          | 神田区美土代町  | 住宅より出火、全焼441戸、焼損面積10,342平方メートル   | 『東京の消防百年の歩み』                         |
| 1882 | 5   |    | 明治15    |  | 埼玉  | その他 |                      | 東松山市   | 降雹により農作物に被害。   |                                      |
| 1882 | 6   | 4  | 明治15    |  | 茨城県 | 洪水  |                      | 伊奈町  | 谷井田村で堰急破による稲作被害  | 『伊奈町近代・現代史年表』                        |
| 1882 | 9   | 29 | 明治15    |  | 山梨  | 洪水  |                      | 9月29日より10月1日まで猛雨。各河川出水。死者6人。家屋破損4411戸、堤防決壊4411箇所(延長3万825間)、道路流没309箇所(延長6万1510間)。 |  | 『山梨県水害史』                             |
| 1882 | 9   |    | 明治15    |  | 神奈川 | 洪水  |                      | 茅ヶ崎市   | 相模川の沿岸各村が洪水に無関係であったわけではない。各村がそれぞれ出資し共同事業を計画した矢先の災害であった。被害が前回以上の範囲に及んだのはいうまでもない。ようやく県も復旧費を支出して修復を急いだ。   | 『茅ヶ崎市史5概説編』『近代の幕明け』-3『政治と農村指導』       |
| 1882 | 10  | 1  | 明治15    |  | 埼玉  | 洪水  |                      | 荒川流域   | 荒川が氾濫。   | 『吹上町史』『北埼玉郡史』                        |



|      |    |    |      |  |     |     |             |   |  |
|------|----|----|------|--|-----|-----|-------------|---|--|
| 1882 | 10 | 2  | 明治15 |  | 群馬  | 洪水  |             | 赤谷川増水5尺、利根川増水7尺、田流出0.7反(桃野村)<br>暴風雨(薄根村)  | 『群馬県気象災害史』                             |
| 1882 | 10 | 15 | 明治15 |  | 千葉  | 暴風  | 千葉県北東部(香取郡) | 10月15日本郡地方大風。   | 『千葉県気象災害史』                             |
| 1882 | 10 | 29 | 明治15 |  | 千葉  | 洪水  | 千葉県北部(利根川)  | 10月29日利根川12尺5寸出水。   | 『千葉県気象災害史』                             |
| 1883 | 11 | 9  | 明治16 |  | 神奈川 | 火災  | 横浜元町1丁目     | 145戸焼失  | 『横浜近代史総合年表』                            |
| 1882 | 12 | 27 | 明治15 |  | 神奈川 | 火災  | 横浜          |   | 『横浜近代史総合年表』                            |
| 1882 |    |    | 明治15 |  | 埼玉  | 洪水  | 名栗町域        |   |  |
| 1883 | 8  | 25 | 明治16 |  | 埼玉  | 暴風  | 熊谷市         | 暴風雨により農作物への被害甚大。9月27日にも同規模の暴風雨あり。   | 『熊谷市史』後篇                               |
| 1883 | 10 | 8  | 明治16 |  | 埼玉  | 洪水  | 荒川が洪水。      |   | 『吹上町史』                                 |
| 1883 | 11 | 9  | 明治16 |  | 神奈川 | 火災  | 横浜市         | 2時40分横浜元町1丁目31番地から出火、折柄風強く延焼445戸消失6時鎮火、負傷者3名。出火地は俗に谷戸台又はランヤメン台と言う所。<br>(東京日々新聞、横浜歴史年表)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部                    |
| 1883 | 11 | 23 | 明治16 |  | 埼玉  | 火事  | 不動岡村        | 62戸を焼失。   | 『羽生市史』下巻『加須市史』通史編                      |
| 1883 | 12 | 18 | 明治16 |  | 千葉  | 火事  | 東金          | 12月18日午前1時東金止宿より出火し折からの南西の烈風にて新宿まで延焼す。焼失個数384、棟数2000余、郡役所、警察署共に灰燼に帰<br>ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1~3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期な<br>ため、火災が拡大  | 『千葉県気象災害史』                             |
| 1884 | 2  | 18 | 明治17 |  | 栃木  | 火事  | 横町          |   | 『近代足利市史』第一巻、966~968頁                   |
| 1884 | 5  | 13 | 明治17 |  | 茨城県 | 火事  | 水戸市         | 1200戸余焼失  | 『茨城県史年表』                               |
| 1884 | 7  | 23 | 明治17 |  | 神奈川 | 火災  | 横浜鶴岡2丁目     | 39戸焼失   | 『横浜近代史総合年表』                            |
| 1884 | 9  | 15 | 明治17 |  | 茨城県 | 暴風雨 | 伊奈町         | 大暴風雨により谷田部町の鳥名小学校が倒壊  | 『伊奈町近代史年表』                             |
| 1884 | 9  | 15 | 明治17 |  | 神奈川 | 豪雨  | 横浜市         | 紀伊半島付近に上陸し、北東進し浜松から東京北部を通して東方海上に去った台風。<br>横浜で損害の甚だしかったのは真金町、野毛町、戸部町、高島町、常磐町等で真金町遊郭で潰家多く野毛、戸部両町の官舎街破壊するもの<br>多し。太田、寿岡小学校倒壊せり。潰家153戸、死者2名あり。相模川増水氾濫し家屋の倒壊、農作物の被害甚だしくこのため度々失うもの<br>多く、高座、愛甲、大住の3郡の暴民峰起する騒ぎあり。<br>横須賀全壊家屋180戸あり。<br>(横浜開港50年史、東京日々新聞、横須賀市史、厚木郷土史、戸塚郷土史)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部                    |
| 1884 | 9  | 15 | 明治17 |  | 神奈川 | 暴風  | 横浜市         | 横浜では台風がまだ海上にあった14日20時頃から雨が降りだし、台風が上陸した15日6時頃から次第に南東風が強まり、10時頃には急速に<br>強くなった。最も接近したと思われる14時から15時までに、横須賀では南東風から南南西風に変わり風雨ともに激しく16時には、南南西の風<br>82mile(約37m/s)を観測した。<br>雨による被害は僅少で風による被害が多かった。台風の接近した14時頃東京湾ではちょうど大潮日の満潮時にあったため横浜港は4~5尺<br>(1.2~1.5m)に達する高潮におそわれ、停泊中の外国船と日本船91隻が接触破壊、沈没、流失した。<br>県の被害表では死者10、負傷者41、行方不明2、住家の全壊1080戸、半壊2225戸など。<br>(横浜開港50年史、東京日々新聞、横須賀市史、厚木郷土史、戸塚郷土史) | 『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部                    |
| 1884 | 9  | 15 | 明治17 |  | 神奈川 | 暴風  | 茅ヶ崎市        | 洪水から二年後の十七年九月十五日、すさまじい台風に襲われ、県下の死傷者五一名、家屋全半壊三三〇〇戸に達した。このとき、当地の<br>堤学校(小出小学校の前身)校舎も倒壊し、このために以後は分散教育をせざるを得ない悲運に具舞われている。この台風のさまを高田の<br>水越家の記録は、「早朝から東南風が吹き荒れていたが、時間がたつにつれて荒狂い、屋からは真南に変わった。とたんに石のついでで打<br>つような雨が降り続いた。やがて風は西に変わったが、それとともに付近の樹木がばたばたと倒れ始め、家も傾くようであった」と、そのすさま<br>じさを記している。相模川堤防は藪園の台河原で決壊し、村々の作物の九割が収穫不能となった。   | 『茅ヶ崎市史5概説編』『近代の幕明け』<br>一『政治と農村指導』      |
| 1884 | 9  | 15 | 明治17 |  | 神奈川 | 暴風雨 | 横浜          | 寿学校倒壊、死者4人  | 『横浜近代史総合年表』                            |
| 1884 | 9  | 15 | 明治17 |  | 群馬  | 洪水  |             | 洪水(薄根村)   | 『群馬県気象災害史』                             |
| 1884 | 9  | 15 | 明治17 |  | 東京  | 洪水  | 明治17年水害     | 赤谷川増水5尺、利根川増水7尺、田流出2.3反川除5カ所(桃野村)   | 『東京の消防百年の歩み』                           |
| 1884 | 9  | 18 | 明治17 |  | 千葉  | 洪水  | 千葉県北部(利根川)  | 台風の連続襲来により荒川、隅田川などの河川が決壊、死者19名、全壊家屋1,700戸、浸水家屋多数、9月15日~18日まで  | 『千葉県気象災害史』                             |
| 1884 | 9  |    | 明治17 |  | 千葉  | 洪水  | 手賀沼周辺       | 9月18日利根川15尺出水。  | 『手賀沼周辺の水害』                             |
| 1884 | 10 | 15 | 明治17 |  | 埼玉  | 地震  | 不明          | 台風、利根川出水15尺5寸。  | 『新編埼玉県史』別編4自然                          |
| 1884 | 11 | 5  | 明治17 |  | 神奈川 | 火災  | 横浜伊勢佐木町1丁目  | 790戸焼失  | 『横浜近代史総合年表』                            |
| 1884 |    |    | 明治17 |  | 栃木  | 暴風  | 栃木県         |   | 『栃木県史通史編』第六巻、168-170頁                  |
| 1885 | 3  | 13 | 明治18 |  | 東京  | 火事  | 日本橋区坂本町17火災 | 湯屋より出火、負傷者25名、全壊1,220戸、焼損面積51,183平方メートル   | 『東京の消防百年の歩み』                           |
| 1885 | 3  | 14 | 明治18 |  | 栃木  | 火事  | 法玄寺         | ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1~3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期な<br>ため、火災が拡大   | 『近代足利市史』第一巻、966~968頁                   |
| 1885 | 3  | 20 | 明治18 |  | 神奈川 | 暴風雨 | 生妻村         | オセアニック号座礁   | 『横浜近代史総合年表』                            |
| 1885 | 3  | 21 | 明治18 |  | 栃木  | 火事  | 山川町         | ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1~3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期な<br>ため、火災が拡大   | 『近代足利市史』第一巻、966~968頁                   |
| 1885 | 3  |    | 明治18 |  | 埼玉  | 火事  | 所沢          | 62戸が全壊。   | 『所沢市史』通史編下                             |
| 1885 | 3  |    | 明治18 |  | 栃木  | 火事  |             |   | 『宇都宮市史』近・現代編Ⅱ(宇都宮市、<br>1981年)、283-289頁 |
| 1885 | 4  | 6  | 明治18 |  | 群馬  | その他 | 矢場川村、毛里田村   | 午後3時頃降雹約7寸降る、妻皆無作、その他被害激甚(山田郡)  | 『群馬県気象災害史』                             |
| 1885 | 5  | 7  | 明治18 |  | 埼玉  | 火事  | 杉戸町         | タノコ屋からの出火が延焼し、杉戸宿ほとんどを焼失。   | 『杉戸町史』                                 |
| 1885 | 5  | 15 | 明治18 |  | 群馬  | その他 | 矢場川村、毛里田村   | 降雹およそ1時間、1銭銅貨大積雹約4.5寸大小雹、桑被害大(山田郡)  | 『群馬県気象災害史』                             |
| 1885 | 6  | 1  | 明治18 |  | 神奈川 | 水害  | 横浜          | 伊勢山等崖崩れ続出   | 『横浜近代史総合年表』                            |
| 1885 | 6  | 30 | 明治18 |  | 神奈川 | 豪雨  | 手賀沼周辺       | 伊勢山等崖崩れ続出   | 『横浜近代史総合年表』                            |
| 1885 | 6  |    | 明治18 |  | 千葉  | 洪水  | 千葉          | 下旬より連日降雨、利根川出水13尺。  | 『手賀沼周辺の水害』                             |
| 1885 | 7  | 1  | 明治18 |  | 神奈川 | 豪雨  | 相模・酒匂・多摩川流域 | 県内各地は29日以来の雨について、1日~2日にかけて通った台風による大雨で、各河川の増水、出水が相次ぎ、洪水、山がけくずれ等によ<br>る被害が増大した。<br>県内は1日払曉から強雨で、14時頃からは風も強まり夜半に至った。2日未明雨は止んだが風は2日夕方まで強かった。<br>横浜付近では山くずれによる死傷者や、家屋の全壊が多く、各河川流域では橋梁の落下、焼失、堤防破壊、氾濫による被害が多かった。<br>ことに相模、酒匂、多摩川流域の被害が大きかった。<br>県の被害表では死者9、負傷者38、住家の全壊104戸、半壊6戸、山くずれ19カ所など。<br>(東京日々新聞)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部                    |
| 1885 | 7  | 1  | 明治18 |  | 群馬  | 洪水  |             | 洪水(糸之瀬、薄根村)   | 『群馬県気象災害史』                             |
| 1885 | 7  | 1  | 明治18 |  | 千葉  | 洪水  | 千葉県北東部(香取郡) | 赤谷川3尺、利根川4尺増水、川除7ヶ所大破損(桃野村)   | 『千葉県気象災害史』                             |
| 1885 | 7  | 1  | 明治18 |  | 東京  | 洪水  | 明治18年水害     | 6月下旬より降雨連日。7月1日大風雨利根川洪水あり。3日神崎橋向地先の堤防破壊し、北岸押砂等の村落2357町余歩の浸害あり。干渴地<br>方の出水亦甚だしく大いに禾穀を害す。   | 『東京の消防百年の歩み』                           |
| 1885 | 7  | 1  | 明治18 |  | 栃木  | 洪水  | 豪雨による       | 台風により千住大橋、吾妻橋、六郷橋など主要な橋が流出、東京府下に浸水家屋多数発生、7月1日~3日まで  | 『宇都宮市史』近・現代編Ⅱ(宇都宮市、<br>1981年)、290-294頁 |
| 1885 | 7  |    | 明治18 |  | 埼玉  | 洪水  | 騎西町         | 利根川が洪水。   | 『騎西町史』通史編                              |

|      |    |    |      |    |     |     |              |  |   |   |
|------|----|----|------|----|-----|-----|--------------|--|---|---|
| 1885 | 8  | 7  | 明治18 |    | 千葉  | 洪水  |              | 千葉県北東部(香取郡)  | 8月7日八筋川字元洲地先の堤防破壊し14ヶ村耕地1716町を浸し防禦5昼夜にして漸く余勢を殺ぐを得たり。  | 『千葉県気象災害史』  |
| 1885 | 8  |    | 明治18 |    | 山梨  | 洪水  |              |  | 降雨による河川膨張。死傷者29人。家屋破壊300戸、浸水2011戸、堤防決壊598箇所(延長1万5965間)、道路陥没461箇所(延長1万6667間)、橋梁流出212箇所。  | 『山梨県水害史』  |
| 1885 | 10 | 15 | 明治18 |    | 神奈川 | 暴風  |              | 横浜港内   | 15日午後から北寄りの強風吹く16日未明殊に強かつたが同日昼頃止む。横浜港内船艀1隻沈没、死者1、負傷者名。(東京日々新聞)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部                                     |
| 1885 | 10 | 16 | 明治18 |    | 埼玉  | 洪水  |              | 荒川流域   | 暴風雨で荒川が氾濫。  | 『埼玉県気象災害史』  |
| 1885 |    |    | 明治18 |    | 栃木  | 洪水  |              |  |   | 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、1987年)、495-497頁                       |
| 1886 | 1  | 11 | 明治19 |    | 栃木  | 火事  |              | 山川町  | ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1~3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期のため、火災が拡大   | 『近代足利市史』第一巻、966~968頁                                    |
| 1886 | 2  | 19 | 明治19 |    | 栃木  | 火事  |              | 助戸定年寺  | ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1~3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期のため、火災が拡大   | 『近代足利市史』第一巻、966~968頁                                    |
| 1886 | 3  | 13 | 明治19 |    | 栃木  | 火事  |              | 行道山淨因寺   | ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1~3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期のため、火災が拡大   | 『近代足利市史』第一巻、966~968頁                                    |
| 1886 | 4  | 9  | 明治19 |    | 神奈川 | 火災  |              | 杉田村  |   | 『横浜近代史総合年表』   |
| 1886 | 6  | 2  | 明治19 |    | 千葉  | その他 | 干ばつ          | 千葉県北東部(香取郡)  | 6月より降雨なく入野、清和、大寺、秋田、万力、万歳、諸村被害尤も甚しく龜折の地2759町歩に及ぶ。   | 『千葉県気象災害史』  |
| 1886 | 9  | 20 | 明治19 |    | 神奈川 | 火事  |              | 横浜市  | 20日3時半頃横浜福富町3丁目81番地の物置から発火、同3丁目、2丁目、吉田町2丁目まで延焼、6時50分鎮火す。全焼590戸、半焼25戸、死者1名、原因放火。(東京日々新聞、横浜歴史年表)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部                                     |
| 1886 | 9  | 20 | 明治19 |    | 神奈川 | 火災  |              | 横浜福富町3丁目   | 類焼5000戸   | 『横浜近代史総合年表』   |
| 1886 | 9  | 24 | 明治19 |    | 群馬  | 洪水  |              |  | 暴風、洪水(薄根村)  | 『群馬県気象災害史』  |
| 1887 | 12 | 19 | 明治20 |    | 東京  | 火事  | 日本橋区蛸殻町2-15火 | 日本橋区蛸殻町  | 中村座より出火、全焼886戸、焼損面積18,856平方メートル   | 『東京の消防百年の歩み』  |
| 1886 | 12 | 30 | 明治19 |    | 茨城県 | 火事  | 水戸大火         | 水戸市  | 1800戸余焼失  | 『茨城県史年表』  |
| 1887 | 1  | 15 | 明治20 |    | 埼玉  | 地震  |              |  | 不明  | 『新編埼玉県史』別編4自然   |
| 1887 | 2  | 1  | 明治20 |    | 神奈川 | 火災  |              | 横浜太田町2丁目   | 10戸焼失   | 『横浜近代史総合年表』   |
| 1887 | 3  | 28 | 明治20 |    | 茨城県 | 火事  |              | 鉢田町  | 大火、270戸焼失   | 『鉢田町史』通史編・下巻  |
| 1887 | 3  | 29 | 明治20 |    | 千葉  | 火事  |              | 神崎   | 3月29日神崎町火を失し風力殊に甚しく数戸に延焼す。  | 『千葉県気象災害史』  |
| 1887 | 3  | 30 | 明治20 |    | 栃木  | 火事  |              |  |   | 『いまいち市史』通史編Ⅴ(今市市、2005年)、447-449頁                        |
| 1887 | 4  | 4  | 明治20 |    | 埼玉  | 火事  |              | 庄和町  | 西宝珠花村の仙元横町から出火し、近隣へ延焼。  | 『庄和町の百年』  |
| 1887 | 5  | 23 | 明治20 |    | 群馬  | 洪水  |              | 相馬村、室田町  | 相馬村で雹害、被害大洪水(薄根村)   | 『群馬県気象災害史』  |
| 1887 | 6  | 23 | 明治20 |    | 埼玉  | 豪雨  |              | 北・中葛飾郡   | 暴風雨により田畑への被害甚大。   | 『三郷市史』通史編Ⅱ  |
| 1887 | 6  |    | 明治20 |    | 埼玉  | その他 |              | 秩父郡内   | 降雹により農作物に被害   | 『新編埼玉県史』通史5   |
| 1887 | 8  | 16 | 明治20 |    | 神奈川 | 暴風  |              | 横浜港内   | 16日16時頃より突風吹き雨を交う17時半頃より風おさまる(寒前線による強風のごとし)。横浜港内における被害多し、小型客船および運送船の沈没6隻、大破2隻、負傷者数名あり。(東京日々新聞、横浜開港50年史)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部                                     |
| 1887 | 8  | 16 | 明治20 |    | 神奈川 | 暴風雨 |              | 横浜港  | 船舶大破  | 『横浜近代史総合年表』   |
| 1887 | 11 | 13 | 明治20 |    | 神奈川 | 火災  |              | 横浜元町2丁目  | 全焼101戸  | 『横浜近代史総合年表』   |
| 1887 | 12 | 3  | 明治20 |    | 神奈川 | 火災  |              | 居留地143番  |   | 『横浜近代史総合年表』   |
| 1887 | 12 | 4  | 明治20 |    | 神奈川 | 火災  |              | 居留地132番  |   | 『横浜近代史総合年表』   |
| 1887 | 12 | 5  | 明治20 |    | 神奈川 | 火災  |              | 横浜浪花町  | 吉田学校等57戸焼失  | 『横浜近代史総合年表』   |
| 1888 | 1  | 8  | 明治21 |    | 栃木  | 火事  |              |  | 栃木県庁舎消失。強風により被害拡大。  | 『栃木県の歴史』(山川出版社、1998年)、332頁、『宇都宮市史』近・現代Ⅰ(宇都宮市、1980年)、92頁 |
| 1888 | 1  | 16 | 明治21 |    | 千葉  | 火事  |              | 小見川  | 1月16日小見川村火災あり。西風烈しく120戸に延焼す。  | 『千葉県気象災害史』  |
| 1888 | 1  | 21 | 明治21 |    | 神奈川 | 火災  |              | 横浜石川町3丁目   | 250戸焼失  | 『横浜近代史総合年表』   |
| 1888 | 1  | 31 | 明治21 |    | 神奈川 | 火災  | 野毛町大火        | 横浜野毛町  | 全焼1120戸   | 『横浜近代史総合年表』   |
| 1888 | 2  | 11 | 明治21 |    | 埼玉  | 火事  |              | 芳野村  | 村内谷中で火災。  | 『埼玉県警察史』1『浦和市史』通史編Ⅲ                                     |
| 1888 | 3  | 15 | 明治21 |    | 埼玉  | 火事  |              | 浦和宿  | 正午に発生した火災が折からの暴風で延焼。全市街の3分の2を焼失。  | 『近代足利市史』第一巻、966~968頁                                    |
| 1888 | 3  | 19 | 明治21 |    | 栃木  | 火事  |              | 借宿   | ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1~3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期のため、火災が拡大   |   |
| 1888 | 5  | 22 | 明治21 |    | 東京  | 火事  | 神田区鍋町29火災    | 神田区鍋町  | 住宅より出火、全焼886戸、焼損面積18,856平方メートル  | 『東京の消防百年の歩み』  |
| 1888 | 5  |    | 明治21 |    | 栃木  | 火事  |              |  |   | 『宇都宮市史』近・現代編Ⅱ(宇都宮市、1981年)、283-289頁                      |
| 1888 | 7  | 15 | 明治21 |    | 群馬  | 洪水  |              | 県南東部   | 新川氾濫、桐生川氾濫(山田郡)   | 『群馬県気象災害史』  |
| 1888 | 7  | 24 | 明治21 |    | 千葉  | 洪水  |              | 渡良瀬川、桐生川氾濫   |   | 『千葉県気象災害史』  |
| 1888 | 7  | 25 | 明治21 |    | 群馬  | 洪水  |              | 山田郡  | 7月24日利根川出水15尺。  | 『群馬県気象災害史』  |
| 1888 | 7  |    | 明治21 | 7  | 千葉  | 洪水  |              | 桐生川保井堤防流没、今泉辺流出、倒壊家屋12、大破10余、橋梁流出、耕宅地被害13町5反、山林崩壊数百か所(山田郡) |   | 『群馬県気象災害史』  |
| 1888 | 10 | 6  | 明治21 |    | 千葉  | 洪水  |              | 手賀沼周辺  | 利根川出水15尺5寸。   | 『手賀沼周辺の水害』  |
| 1888 | 10 |    | 明治21 |    | 千葉  | 洪水  |              | 千葉県北東部(利根川)  | 10月6日利根川出水15尺。降水量100mmを観測す。   | 『千葉県気象災害史』  |
| 1888 | 10 |    | 明治21 | 10 | 千葉  | 洪水  |              | 手賀沼周辺  | 利根川出水15尺5寸。   | 『手賀沼周辺の水害』  |
| 1889 | 2  | 1  | 明治22 |    | 神奈川 | 火事  |              | 横須賀市   | 明治二年の大火は放火が原因で、強風のため火勢が増して湊町から汐留町、汐入町へと延焼し、元町の手前でようやく食い止めた。消火に際しては、警察のほか鎮守府からも水兵が駆けつけている。水兵は鎮守府や海軍機関への延焼を防ぐために横須賀鎮守府から出動していたのであるが、住民にとっては、火災時における「本港の恩人」と呼ぶべき存在であった。一方、罹災者に対しては、避難所が設置され、戸長役場の職員などにより炊き出しが行われる一方、地域名望家から救恤金が寄せられ、罹災者に分配されている。横須賀で大火が多い理由の一つに、中心部が人家稠密であり、一方は丘陵で一方は海面という地理条件のために火災時の消防活動が困難であるということがあり、そこから横須賀の区画改正の意見がしばしば登場している(資1-634)。この大火の主な地域は横須賀湊町・汐入町、被害状況は全焼362戸とされている。 | 『新編横須賀市史』通史編 近現代』第六章 第二節『軍港の形成と災害・救援』                   |
| 1889 | 2  | 18 | 明治22 |    | 埼玉  | 地震  |              | 不明   |   | 『新編埼玉県史』別編4自然   |
| 1889 | 3  | 2  | 明治22 |    | 神奈川 | 火災  |              | 翁町3丁目  | 全焼72戸、半焼26戸   | 『横浜近代史総合年表』   |
| 1889 | 5  | 25 | 明治22 |    | 埼玉  | 火事  |              | 浦和市  | 三室村で8戸全焼。   | 『浦和市史』通史編Ⅲ  |
| 1889 | 7  | 15 | 明治22 |    | 群馬  | 洪水  |              |  | 渡良瀬川借宿(栃木側)土手500間破壊(山田郡)  | 『群馬県気象災害史』  |
| 1889 | 9  | 10 | 明治22 |    | 茨城県 | 暴風雨 |              | 水戸市  | 洪水(薄根村)   | 『茨城県史年表』  |
| 1889 | 9  | 10 | 明治22 |    | 埼玉  | 洪水  |              | 三郷市・八潮市・羽生市  | 12日那珂川氾濫し水戸市下水浸水  | 『三郷市史』通史編Ⅱ、『八潮市史』通史編Ⅱ                                   |
|      |    |    |      |    |     |     |              |  | 暴風雨により大規模に出水。   |   |

|      |    |      |      |    |     |     |                   |                              |   |   |
|------|----|------|------|----|-----|-----|-------------------|------------------------------|---|---|
| 1889 | 9  | 11   | 明治22 |    | 神奈川 | 豪雨  |                   | 橋樹郡・愛甲郡・三浦郡                  | この台風による暴風雨では県内を流れる多摩川、相模川、酒匂川が増水し各河川の流域では堤防が決壊し、家屋の床上浸水、流失、田畑の流失、埋没など河川沿いに被害をだしたほか山くずれ、がけくずれも少なくなかった。また強風により家屋の全半壊などの被害をだした。特に被害が大きかったのは橋樹郡、愛甲郡、三浦郡などであった。また公共施設にもかなりの被害をだしており、出水により鉄軌道の損壊、風による電線の切断などがあった。<br>県の被害表では死者1、負傷者3、住家の全壊40戸、半壊686戸、山くずれ8ヵ所など。<br>(戸塚郷土史、東京日々新聞) | 『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部   |
| 1889 | 9  | 11   | 明治22 |    | 神奈川 | 豪雨  |                   | 海老名市                         | 大暴風雨。相模川氾濫被害多シ。(萩原静夫『海老名村郷土年表』1984より作成)   | 『海老名市史8 通史編 近代・現代』  |
| 1889 | 9  | 11   | 明治22 |    | 神奈川 | 暴風雨 |                   | 鶴見                           | 列車不通  | 『横浜近代史総合年表』   |
| 1889 | 9  | 11   | 明治22 |    | 群馬  | 洪水  |                   |                              | 近年にない大風、大水(糸之瀬村)<br>横町大荒(利南村)<br>大暴風雨洪水(薄根村)  | 『群馬県気象災害史』  |
| 1889 | 9  | 11   | 明治22 |    | 東京  | 洪水  | 明治22年水害           | 東京府下                         | 台風により多摩川、荒川が決壊、床上浸水家屋128戸、家屋全壊166戸、家屋半壊89戸、家屋破損4,269戸、船舶破損流失23隻(東京市内)、  | 『東京の消防百年の歩み』  |
| 1889 | 9  | 23   | 明治22 |    | 栃木  | 火事  |                   |                              | 9月11日～12日まで   | 『いまいち市史』通史編V(今市市、2005年)、447-449頁  |
| 1889 | 9  | 30   | 明治22 |    | 群馬  | 洪水  |                   |                              | 洪水(薄根村)   | 『群馬県気象災害史』  |
| 1889 | 9  | 30   | 明治22 |    | 埼玉  | 洪水  |                   | 富士見市                         |   |   |
| 1890 | 2  | 8    | 明治23 |    | 神奈川 | 火災  |                   | 保土ヶ谷町字帷子山下                   | 214戸焼失  | 『横浜近代史総合年表』   |
| 1890 | 2  | 27   | 明治23 |    | 東京  | 火事  | 浅草区三軒町24火災(浅草の大火) | 浅草区三軒町から寿町、新福雷町、新猿屋町、黒船町、駒形町 | 新炭商より出火、死者1名、負傷者7名、全焼1,469戸、焼損面積34,205平方メートル  | 『東京の消防百年の歩み』  |
| 1890 | 4  | 12   | 明治23 |    | 千葉  | 火事  |                   | 木更津                          | 4月12日午後9時20分頃桜井村小泉卯之助方から発火し折からの北風にあおられ忽ち22戸を焼失して鎮火したと思う間もなく、今度木更津街仲片町松久酒店の裏長屋大塚銀蔵方から発火し各所に飛火し南片町、下谷町、弁天町、南町(西側のみ)、新田町、貝淵に延焼して漸く鎮火した。焼失戸数479軒。   | 『千葉県気象災害史』  |
| 1890 | 6  | 23   | 明治23 |    | 東京  | 火事  | 本郷区春木町2-9火災       | 本郷区春木町                       | 焼豆腐より出火、負傷者16名、全焼914戸、焼損面積34,205平方メートル  | 『東京の消防百年の歩み』  |
| 1890 | 7  | 23   | 明治23 |    | 群馬  | 洪水  |                   |                              | 渡良瀬川新宿にて氾濫、岡登引入口欠潰、境野にて床上浸水2尺余(山田郡)<br>桐生市洪水  | 『群馬県気象災害史』  |
| 1890 | 8  | 2    | 明治23 |    | 神奈川 | 暴風雨 |                   |                              | 船舶事故  | 『横浜近代史総合年表』   |
| 1890 | 8  | 7    | 明治23 |    | 茨城県 | 暴風雨 |                   |                              | 那珂川・久慈川増水、県北各地に洪水被害   | 『茨城県史年表』  |
| 1890 | 8  | 23   | 明治23 |    | 茨城県 | 洪水  |                   |                              | 結城市   | 『結城市史』第6巻・近現代通史編  |
| 1890 | 8  | 23   | 明治23 |    | 神奈川 | 暴風雨 |                   |                              | 鶴見川   | 『横浜近代史総合年表』   |
| 1890 | 8  | 23   | 明治23 |    | 群馬  | 洪水  |                   |                              | 渡良瀬川海老瀬村伊豆谷にて50間破堤、同西谷田村除川にて165間破堤(邑楽郡)<br>大洪水(京ヶ島村、芳賀村、糸之瀬村、薄根村)<br>渡良瀬川氾濫   | 『群馬県気象災害史』  |
| 1890 | 8  | 23   | 明治23 |    | 埼玉  | 洪水  |                   | 利根川・荒川流域                     | 利根川と荒川の堤防が決壊  | 『新編埼玉県史』通史5、『新編埼玉県史』別編4自然、『埼玉県行政史』1、『埼玉県警察史』1   |
| 1890 | 8  | 23   | 明治23 |    | 埼玉  | 洪水  |                   | 綾瀬川・古蹟田川流域                   | 岩礫一円が浸水。  | 『岩槻市史』通史編   |
| 1890 | 8  | 23   | 明治23 |    | 埼玉  | その他 | 足尾鉾毒問題            |                              | 洪水に伴い足尾鉾山から流出した鉾毒が沿岸地域の農作物や自然に被害をもたらす。  | 『埼玉県行政史』1   |
| 1890 | 8  | 23   | 明治23 |    | 千葉  | 洪水  |                   | 千葉県北部(利根川)                   | 8月23日中利根川14尺出水。   | 『千葉県気象災害史』  |
| 1890 | 8  | 23   | 明治23 |    | 千葉  | 洪水  |                   | 千葉県北部(利根川)                   | 8月23日から利根川の水量が次第に増加、同日午後開宿逆川の堤防が決壊、中利根の東南一面が浸水、下利根川に合流、明治初年では最大の水害。   | 『千葉県の歴史 通史編 近現代1』   |
| 1890 | 8  | 27   | 明治23 |    | 千葉  | 洪水  |                   | 千葉県北部(利根川)                   | 8月中旬より利根川出水し27日十六島被害す。  | 『千葉県気象災害史』  |
| 1890 | 8  | 30   | 明治23 |    | 神奈川 | 暴風雨 |                   |                              | 高島町5丁目  | 『横浜近代史総合年表』   |
| 1890 | 8  | 30   | 明治23 |    | 千葉  | 洪水  |                   |                              | 手賀沼周辺   | 『手賀沼周辺の水害』  |
| 1890 | 8  | 30   | 明治23 |    | 栃木  | 洪水  | 渡良瀬川大洪水、鉾毒被害を併発   | 渡良瀬川沿岸                       | 8月20～23日台風、24日六軒塚樋破堤、手賀沼大洪水。<br>洪水による鉾毒被害   | 『栃木県農地改革史』(栃木県農務部、1954年)、9-19頁、『佐野市史』(佐野市、1979年)、499頁、『小山市史』通史編III 近現代(小山市、1987年)、495-497、509 |
| 1890 | 11 | 18   | 明治23 |    | 神奈川 | 暴風雨 |                   |                              | 船舶事故  | 『横浜近代史総合年表』   |
| 1890 | 11 | 25   | 明治23 |    | 神奈川 | 火災  |                   |                              | 尋常師範学校火災  | 『横浜近代史総合年表』   |
| 1890 | 11 | 30   | 明治23 |    | 神奈川 | 火事  |                   | 横須賀町                         | 30日3時30分横須賀町の浴場から出火、折柄北よりの強風で火勢四方へ延焼8時10分鎮火。全焼839戸、焼死8名、半焼8戸、負傷者8名。<br>(横須賀市史、東京日々新聞)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部   |
| 1890 | 11 | 30   | 明治23 |    | 神奈川 | 火事  |                   | 横須賀町                         | 3時30分横須賀町浴場から出火、折柄の北よりの季節風のため、火勢は忽ち四方へ延焼、横須賀の町全体に広がって焼き尽し、8時10分鎮火した。<br>被害状況は全焼839戸、半焼8戸、焼死者8人、負傷者8人。<br>(横須賀市史、東京日々新聞)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』大火の部   |
| 1890 | 12 | 15   | 明治23 |    | 神奈川 | 火災  |                   | 横浜真砂町                        | 私立真砂小学校火災、全焼16戸   | 『横浜近代史総合年表』   |
| 1890 | 12 | 15   | 明治23 |    | 栃木  | 洪水  |                   |                              |   | 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁  |
| 1891 | 1  | 23   | 明治24 |    | 東京  | 火事  | 浅草区吉原町219火災       | 浅草区吉原町                       | 住宅より出火、負傷者8名、全焼77戸、焼損面積13,940平方メートル   | 『東京の消防百年の歩み』  |
| 1891 | 2  | 21   | 明治24 |    | 神奈川 | 火災  |                   | 横浜元町4丁目                      | 全焼218戸  | 『横浜近代史総合年表』   |
| 1891 | 3  | 9    | 明治24 |    | 神奈川 | 火災  |                   | 横浜元町5丁目                      | 全焼45戸   | 『横浜近代史総合年表』   |
| 1891 | 5  | 20   | 明治24 |    | 埼玉  | その他 |                   | 八潮市域                         | 水不足により田植えが不能に。  | 『八潮市史』通史編II   |
| 1891 | 6  | 21   | 明治24 |    | 埼玉  | 洪水  |                   | 羽生市                          | 市域の堤防で多数欠所。   | 『羽生市史』下巻  |
| 1891 | 6  | 21   | 明治24 | 6  | 千葉  | 洪水  |                   | 手賀沼周辺                        | 六軒塚樋廃止、木下前込樋を鉄扉コンクリート造に改造竣工。  | 『手賀沼周辺の水害』  |
| 1891 | 7  | 明治24 |      | 群馬 | 洪水  |     |                   | 渡良瀬川所々堤防破堤(山田郡)              |   | 『群馬県気象災害史』  |
| 1891 | 9  | 30   | 明治24 |    | 神奈川 | 暴風雨 |                   |                              | 横浜港   | 『横浜近代史総合年表』   |
| 1891 | 9  | 30   | 明治24 |    | 群馬  | 洪水  |                   |                              | 田2町3反川欠及び石砂入、畑2町5反川欠及び石砂入(薄根)   | 『群馬県気象災害史』  |
| 1891 | 9  | 30   | 明治24 |    | 埼玉  | 暴風  |                   |                              | 吹上町域  | 『吹上町史』  |
| 1891 | 10 | 明治24 |      | 栃木 | 火事  |     |                   |                              | 暴風で家屋が倒壊。   |   |
| 1891 | 12 | 3    | 明治24 |    | 神奈川 | 火事  |                   | 大磯町                          | 3日1時頃東海道大磯町役場から出火、同役場は勿論、近接の地福寺および大住、陶綾郡役所、神奈川県直税分署に延焼これら建物全部焼失、2時鎮火す。巡査2名負傷す。(東京日々新聞)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部   |
| 1891 | 12 | 24   | 明治24 |    | 山梨  | 地震  |                   | 駿河、甲斐、相模国境付近                 | 震災に近い地方では土地の小陥落道路の破壊等あり。  | 『山梨県の気象』  |
| 1892 | 1  | 20   | 明治25 |    | 神奈川 | 火災  |                   | 福富町1丁目                       | 全焼56戸、半焼15戸   | 『横浜近代史総合年表』   |
| 1892 | 2  | 28   | 明治25 |    | 栃木  | 火事  | 辻豊の大火             | 井草、大門通、通一、二丁目、昌平町            | ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1～3月は西北季節風(那須おろし)、男体おろしが吹き、乾燥期なため、火災が拡大   | 『近代足利市史』第一巻、966、1418頁   |
| 1892 | 2  | 29   | 明治25 |    | 東京  | 火事  |                   | 調布町                          | 放火により居宅37戸と「物置の類」20棟を焼失。  | 『調布市史』下   |

|      |    |    |      |  |     |     |                  |                  |  |   |                                   |
|------|----|----|------|--|-----|-----|------------------|------------------|--|---|-----------------------------------|
| 1892 | 2  | 29 | 明治25 |  | 東京  | 火災  |                  |                  |  | 放火により居宅37戸と「物置の類」120棟を焼失。   | 『調布市史』下                           |
| 1892 | 3  | 27 | 明治25 |  | 神奈川 | 火災  |                  | 橋樹郡保土ヶ谷町         |  | 65棟焼失   | 『横浜近代史総合年表』                       |
| 1892 | 4  |    | 明治25 |  | 群馬  | 洪水  |                  |                  |  | 大洪水(利南村)  | 『群馬県気象災害史』                        |
| 1892 | 4  | 2  | 明治25 |  | 栃木  | 火事  |                  | 雪輪町              |  | ローソク・行灯の使用、わらぶき・木造の家屋、消防設備の幼稚さに加え、1〜3月は西北季節風(那須おろし、男体おろし)が吹き、乾燥期のため、火災が拡大   | 『近代足利市史』第一巻、966〜968頁              |
| 1892 | 4  | 10 | 明治25 |  | 東京  | 火事  | 神田区猿樂町1火災(神田の大火) | 神田区猿樂町           |  | 飲食店より出火、死者24名、負傷者36名、全焼4,620戸、焼損面積149,206平方メートル   | 『東京の消防百年の歩み』                      |
| 1892 | 5  | 15 | 明治25 |  | 群馬  | 洪水  |                  | 碓氷峠              |  | 10日ごろより連日の雨のため、第16号トンネル東口の国道に接する崖の高さ15間巾20間が崩れ、そのため工事用丸太70本、煉瓦7000個が谷へ落ち、工事の宿泊所1棟全壊、3棟半壊、4人圧死、3人負傷(時事新報)  | 『群馬県気象災害史』                        |
| 1892 | 5  |    | 明治25 |  | 千葉  | 洪水  |                  | 手賀沼周辺            |  | 5月下旬、手賀沼洪水。   | 『手賀沼周辺の水害』                        |
| 1892 | 6  | 3  | 明治25 |  | 埼玉  | 地震  |                  | 不明               |  | 不明  | 『新編埼玉県史』別編4自然                     |
| 1892 | 6  | 27 | 明治25 |  | 神奈川 | 火災  |                  | 横浜富士見町2丁目        |  | 焼失83戸   | 『横浜近代史総合年表』                       |
| 1892 | 7  | 23 | 明治25 |  | 埼玉  | 洪水  |                  | 江戸川流域            |  | 洪水により八木郷村と江戸川東岸の飛び地(松戸市)に被害。  | 『三郷市史』通史編Ⅱ                        |
| 1892 | 7  | 23 | 明治25 |  | 山梨  | 洪水  |                  | 笛吹川流域、釜無川流域、桂川流域 |  | 7月22日より降雨あり23日も激しく続き、各河川出水する。死者6人。家屋破損560戸、浸水4905戸、堤防決壊183箇所(延長5933間)、道路流殍1538箇所(延長7万187間)、橋梁流破1215箇所。  | 『山梨県水害史』                          |
| 1892 | 7  | 24 | 明治25 |  | 群馬  | 洪水  |                  | 群馬郡              |  | 暴風雨により、白川、井野川、烏川が氾濫、床上浸水22戸、田畑流出13町、土砂流入19町、冠水50町(長野村)大風雨諸川氾濫、農作物の損害、家屋の流出、道路橋梁の破壊多く、白川殊に甚し(京ヶ島村)   | 『群馬県気象災害史』                        |
| 1892 | 8  | 24 | 明治25 |  | 千葉  | 洪水  |                  | 千葉県北部(利根川)       |  | 8月24日利根川13尺出水。  | 『千葉県気象災害史』                        |
| 1892 | 9  |    | 明治25 |  | 茨城県 | 暴風雨 |                  | 北浦沿岸             |  | 19日以後の降雨にて北浦沿岸の田に浸水、殊に早稲の被害甚大   | 『茨城県史年表』                          |
| 1892 | 12 | 7  | 明治25 |  | 神奈川 | 火災  |                  | 横浜元町1丁目          |  | 98戸   | 『横浜近代史総合年表』                       |
| 1892 | 12 | 28 | 明治25 |  | 千葉  | 火事  |                  | 佐原               |  | 12月28日佐原町協橋近傍より出火し北西風の烈しさに会し小野川を越え諸町に延焼す。戸数大約700余戸本郡未嘗有の大火なり。   | 『千葉県気象災害史』                        |
| 1892 |    |    | 明治25 |  | 埼玉  | 洪水  |                  | 北足立郡             |  |   | 『北足立郡誌』                           |
| 1893 | 3  | 17 | 明治26 |  | 埼玉  | 火事  |                  | 川越町              |  | 川越町の中央部を焼失。   | 『埼玉県警察史』1                         |
| 1893 | 3  | 18 | 明治26 |  | 埼玉  | 火事  |                  | 羽生市              |  | 67棟全焼   | 『羽生市史』下巻                          |
| 1893 | 4  | 25 | 明治26 |  | 千葉  | その他 | 降雪               |                  |  | 4月25日皁子に霽降る。目方五分(小豆大)。  | 『千葉県気象災害史』                        |
| 1893 | 5  | 6  | 明治26 |  | 埼玉  | その他 |                  | 埼玉県内             |  | 県下全域で霜害が発生、県西部を中心に農業被害甚大。   | 『新編埼玉県史』通史5、『埼玉県行政史』1、            |
| 1893 | 6  | 4  | 明治26 |  | 神奈川 | 火災  |                  | 居留地              |  | スミス・ペイカー商会出火  | 『横浜近代史総合年表』                       |
| 1893 | 11 | 18 | 明治26 |  | 東京  | 火災  |                  | 下布田              |  | 下布田より出火して、全焼13戸・半焼2戸の被害を出した。  | 『調布市史』下                           |
| 1894 | 4  | 2  | 明治27 |  | 神奈川 | 火災  |                  | 永楽町遊郭            |  | 貸座敷7戸・一般家屋43戸焼失   | 『横浜近代史総合年表』                       |
| 1894 | 5  |    | 明治27 |  | 神奈川 | その他 | 干ばつ              | 海老名市             |  | 1894年の干ばつは、五月初めから七月十日まで降雨が全く無く「種田出来粟蒔等毛一切出来ス…陸(薩)摩芋種付不格候」と「早魁記載証」に記されており、農家にとって深刻な状況をもたらした(『市史4』資料88)。  | 『横浜近代史総合年表』                       |
| 1894 | 6  | 17 | 明治27 |  | 神奈川 | 火事  |                  | 横浜市              |  | 17日13時20分頃、横浜元町5丁目の谷(石川)より出火、南寄りの風に煽られ、見る間に火災は四方に広がり、元町5丁目から4丁目、3丁目、石川仲町1丁目へ燃え移り、なお石川町全域を焼き尽くす勢であった。17時すぎ鎮火したが、この付近は貧民多く、罹災者のため、一時元町学校が救済所となった。   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』大火の部               |
| 1894 | 6  | 17 | 明治27 |  | 神奈川 | 火災  |                  | 横浜元町5丁目          |  | 被害状況は全焼1064戸、半焼46戸、重傷者10余人。(横浜開港50年史、東京日々新聞、横浜歴史年表)   | 『横浜近代史総合年表』                       |
| 1894 | 6  | 20 | 明治27 |  | 神奈川 | 地震  | 東国地震(M7.0)       | 横浜市・橋樹郡          |  | 全焼1064戸<br>明治27年6月20日14時4分発震、震央東京付近、最大震度6(烈震)、横浜・川崎も烈震、そのほか県内各地震度5(強震)M7.3(注:メモ参照)神奈川県内では東部の沿岸地方が最も強く横浜、橋樹郡の沿岸部に被害最も多く、その他の地方は強震ではあったが被害は軽微であった。横浜では初期の震動で人々は殆んど外へ飛び出したと言われ、瓦の墜落、硝子窓の破損、土蔵のくずれ、水道鉄管の破裂などがあった。居留地246番地の茶焙屋敷の屋根、煉瓦が落下崩壊し死者3、重傷者7、軽傷者17人を出した。また川崎大師河原の国昌寺の石垣(高さ9尺、長さ30間)が崩壊し、小学校焼りの生徒3人が下敷となり即死した惨事があった。(東国地震観測、東京日々新聞、横浜歴史年表) | 『神奈川県災害誌(自然災害)』地震の部               |
| 1894 | 6  | 20 | 明治27 |  | 神奈川 | 地震  |                  | 横浜・川崎            |  | 20日14時4分頃関東東南部を中心に強震あり震度6<br>県下横浜・川崎地区で被害あり死者6人傷者25人<br>屋根・煙突等の破損50ヶ所あり。安政江戸地震以来の烈震という。(審査予防評議会編東国地震観測、横浜歴史年表、東京日々新聞)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部               |
| 1894 | 6  | 20 | 明治27 |  | 神奈川 | 地震  | 東国地震             | 神奈川県             |  | 明治に入っては明治二十四年十月濃尾大地震の後三年、二十七年六月二十日に東国の地に地震が起こった他は、この地方に著しい地震はなかった。  | 『神奈川県史概説下巻』                       |
| 1894 | 6  | 20 | 明治27 |  | 埼玉  | 地震  |                  | 埼玉県南部            |  | 川口・鳩ヶ谷で家屋等破損、鴻巣・川口・越谷で砂泥噴出。飯能で山崩れ。  | 『新編埼玉県史』別編4自然                     |
| 1894 | 6  | 20 | 明治27 |  | 東京  | 地震  | 明治27年地震          | 東京、神奈川、埼玉        |  | マグニチュード7.5、明治期最大の地震、本所、深川、築地、日本橋区を中心に被害が生じる。死者24名、負傷者171名、全半壊4,968戸   | 『東京の消防百年の歩み』                      |
| 1894 | 7  |    | 明治27 |  | 千葉  | その他 | 干ばつ              | 銚子               |  | 7月旱害あり。7月8日より28日まで降水なし。   | 『千葉県気象災害史』                        |
| 1894 | 8  | 10 | 明治27 |  | 群馬  | 洪水  |                  | 県内各地             |  | 洪水(芳賀村)、暴風雨(薄根村)、渡良瀬川海老瀬村伊谷田にて55間破壊(邑楽郡)  | 『群馬県気象災害史』                        |
| 1894 | 8  | 11 | 明治27 |  | 茨城県 | 洪水  |                  | 古賀町周辺            |  | 伊賀袋・悪戸新田など渡良瀬川堤防が決壊、古河で浸水家屋400戸、流失家屋7戸、潰家5戸   | 『総和町史』通史編 近代・現代、『古河市史』通史編         |
| 1894 | 8  | 12 | 明治27 |  | 埼玉  | 洪水  |                  | 幸手市              |  | 暴風雨により江戸川川の堤が決壊、幸手や下流の庄和町・春日部市域も浸水。   | 『幸手市史』通史編Ⅱ                        |
| 1894 | 8  | 12 | 明治27 |  | 千葉  | 洪水  |                  | 千葉県北部(利根川)       |  | 8月12日利根川14尺5寸出水。  | 『千葉県気象災害史』                        |
| 1894 | 8  |    | 明治27 |  | 千葉  | 洪水  |                  | 手賀沼周辺            |  | 利根川洪水、富勢村堤防決壊。  | 『手賀沼周辺の水害』                        |
| 1894 | 10 | 7  | 明治27 |  | 埼玉  | 地震  |                  | 不明               |  | 不明  | 『新編埼玉県史』別編4自然                     |
| 1894 | 12 | 13 | 明治27 |  | 神奈川 | 火災  |                  | 横浜尾上町1丁目         |  | 全焼65戸   | 『横浜近代史総合年表』                       |
| 1894 |    |    | 明治27 |  | 栃木  | 洪水  |                  | /                |  | /   | 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁            |
| 1894 |    |    | 明治27 |  | 栃木  | その他 | 台風               |                  |  |   | 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、1987年)、495-497頁 |
| 1895 | 1  | 18 | 明治28 |  | 茨城県 | 地震  |                  | 茨城県              |  | 午後10時57分茨城県地域に烈震、死傷者・家屋の倒壊多数  | 『茨城県史年表』                          |
| 1895 | 1  | 18 | 明治28 |  | 埼玉  | 地震  |                  | 元荒川              |  | 元荒川堤防に亀裂。   | 『新編埼玉県史』別編4自然                     |
| 1895 | 5  | 9  | 明治28 |  | 神奈川 | 火災  |                  | 横浜千代崎町           |  | 全焼79戸   | 『横浜近代史総合年表』                       |
| 1895 | 6  | 11 | 明治28 |  | 群馬  | 洪水  |                  |                  |  | 連日の大雨にて大洪水となり、田幸より氾濫し、中田地をおよそ深さ4.5尺に流れる、家屋流失5戸(川田村)   | 『群馬県気象災害史』                        |
| 1895 | 7  | 24 | 明治29 |  | 神奈川 | 暴風雨 |                  | 横浜               |  | 電信不通  | 『横浜近代史総合年表』                       |
| 1895 | 8  | 9  | 明治28 |  | 千葉  | 洪水  |                  | 千葉県北部(利根川)       |  | 8月9日利根川17尺出水。   | 『千葉県気象災害史』                        |
| 1895 | 8  |    | 明治28 |  | 千葉  | 洪水  |                  | 手賀沼周辺            |  | 利根川出水17尺。   | 『手賀沼周辺の水害』                        |
| 1895 | 10 | 13 | 明治28 |  | 茨城県 | 火事  | 大津町大火            | 大津町              |  | 町の大半が焼失   | 『北茨城市史』下巻                         |
| 1895 | 12 | 6  | 明治28 |  | 茨城県 | 火事  |                  | 西茨城郡笠間町          |  | 戸数130、棟数230、土蔵15焼失  | 『茨城県史年表』、『笠間市史』下巻                 |

|      |    |    |      |  |     |     |                     |                          |  |   |
|------|----|----|------|--|-----|-----|---------------------|--------------------------|--|---|
| 1895 | 12 | 7  | 明治28 |  | 茨城県 | 津波  |                     | 太平洋沿岸地域                  | 太平洋沿岸地域に津波襲来、被害甚大、「六十年來の大津嘯」   | 『茨城県史年表』、『銚田町史』通史編・下巻ほか                     |
| 1895 | 12 | 12 | 明治28 |  | 東京  | 火事  | 芝区金杉3-10火災          | 芝区金杉                     | 薬種商より出火、負傷者6名、全焼876戸、焼損面積21,757平方メートル  | 『東京の消防百年の歩み』                                |
| 1895 |    |    | 明治28 |  | 栃木  | その他 | 台風                  |                          |  | 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、1987年)、499頁               |
| 1896 | 4  | 10 | 明治29 |  | 東京  | 火事  | 浅草区浅草公園地六区4-1火災     | 浅草区浅草公園地六区               | 観物小屋より出火、負傷者15名、全焼186戸、焼損面積33,797平方メートル  | 『東京の消防百年の歩み』                                |
| 1896 | 5  | 24 | 明治29 |  | 神奈川 | その他 | 霞(ひょう)              | 海老名市                     | 5月24日大ニ雹ヲ降ラス。上今泉・柏ヶ谷農作物ノ被害殊ニ甚シク慘状ヲ極ム。(萩原静夫『海老名村郷土年表』1984より作成)  | 『海老名市史8 通史編 近代・現代』                          |
| 1896 | 6  |    | 明治29 |  | 栃木  | 津波  | 三陸地方大海嘯             |                          |  | 『足利市史』上巻、1088頁                              |
| 1896 | 7  | 21 | 明治29 |  | 群馬  | 洪水  |                     | 利根郡                      | 大水、箕石橋落、戸鹿野橋破損(利南村)<br>利根、赤谷川大洪水、月夜野橋流出、田畑流出12町、溺死1(桃野村)<br>大水(糸之瀬村、薄根村)   | 『群馬県気象災害史』                                  |
| 1896 | 7  | 21 | 明治29 |  | 栃木  | 洪水  |                     |                          |  | 『近代足利市史』第一巻、1438頁                           |
| 1896 | 7  | 22 | 明治29 |  | 千葉  | 洪水  |                     | 千葉県北西部(利根川・江戸川)          | 7月22日利根川、利根運河河口28尺、富勢地先14尺出水、江戸川関閘地先16尺から26尺、利根運河28尺から60尺出水。   | 『千葉県気象災害史』                                  |
| 1896 | 7  |    | 明治29 |  | 千葉  | 洪水  |                     | 利根川出水。                   | 利根川出水。   | 『手賀沼周辺の水害』                                  |
| 1896 | 7  |    | 明治29 |  | 埼玉  | 洪水  |                     | 江戸川流域で洪水が発生。鯨毒が流域に流れ込む。  | 江戸川流域で洪水が発生。鯨毒が流域に流れ込む。  | 『埼玉県行政史』1、『吉川市史』通史編2、『騎西町史』通史編              |
| 1896 | 8  | 19 | 明治29 |  | 群馬  | 洪水  |                     | 利根郡                      | 村内の各河川沿線全部流出(川田村)<br>洪水(薄根村)   | 『群馬県気象災害史』                                  |
| 1896 | 9  | 4  | 明治29 |  | 神奈川 | 豪雨  |                     | 相模川・酒匂川・他                | 本州中部に前線停滞し低気圧も前線を通して、中部地方を中心に各地に大雨を降らした。県内相模川、酒匂川筋増水のため、堤防切れ多数あり、川背川、川音川筋も堤防切れあり、松田、国府津間汽車止る。酒匂橋、煉瓦橋破損す、死者1、流失家屋3戸。(東京日々新聞)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部                         |
| 1896 | 9  | 8  | 明治29 |  | 群馬  | 洪水  |                     | 県内全域                     | 渡良瀬川一本木地先堤防全部流出(山田郡)<br>大風雨、大洪水(京ヶ島村)<br>7日～11日連日大風雨、諸川大増水、近年にない暴威をふるい被害甚大(中川村)<br>11日西谷田村離妻生にて64間破堤、同村除川稲荷穴にて75間破堤、同村西岡神明西にて127間破堤、同村海老瀬村小橋土入にて20間破堤、溺死5人、家屋流出16戸、家屋全壊76戸、半壊168戸、床上浸水2959戸、床下浸水809戸、その他被害大(邑楽郡)<br>近來稀有の大洪水   | 『群馬県気象災害史』                                  |
| 1896 | 9  | 8  | 明治29 |  | 栃木  | 洪水  |                     | 渡良瀬川沿岸                   | 鯨毒被害   | 『栃木県史通史編』第六巻、422-426頁、<br>『近代足利市史』第一巻、1438頁 |
| 1896 | 9  | 9  | 明治29 |  | 千葉  | 洪水  |                     | 手賀沼周辺                    | 9日台風、利根川大洪水、青山地先の堤防決壊(青山決壊はあるいは39年か)   | 『手賀沼周辺の水害』                                  |
| 1896 | 9  | 10 | 明治29 |  | 千葉  | 洪水  |                     | 千葉県北部(利根川)               | 9月10日利根運河31尺出水。霖雨9月11日利根川出水し沿岸諸町村を浸し、金江津、十三間戸区の堤防を破壊し人家を流し田圃を害し推して常陸国に及ぼす。秋霖雨利根川出水堤防を破壊し人家を流し田圃を害す。  | 『千葉県気象災害史』                                  |
| 1896 | 9  | 11 | 明治29 |  | 茨城県 | 洪水  |                     | 小貝川・下利根川流域               | 大水害  | 『牛久市史』近現代Ⅱ                                  |
| 1896 | 9  | 11 | 明治29 |  | 東京  | 洪水  | 明治29年水害             | 東京府下                     | 二度の台風により多摩川、荒川、中川などが決壊、罹災者44,000余名、浸水家屋9,300戸、9月11日～17日まで  | 『東京の消防百年の歩み』                                |
| 1896 | 9  | 12 | 明治29 |  | 埼玉  | 洪水  |                     | 埼玉県内                     | 江戸川と渡良瀬川が各地で破壊し、東京まで流水。  | 『吉川市史』通史編2、『三郷市史』通史                         |
| 1896 | 9  | 12 | 明治29 |  | 山梨  | 洪水  |                     | 釜無川流域                    | 7月20日よりの雨が続き河川増水する。7月21日に富士見村など浸水。豪雨により諸川出水。洪水は9月8日より12日にわたる。死者33人。流失破損家屋500余戸、浸水家屋4792戸、堤防欠潰392箇所(延長8655間)、道路流没2445箇所(延長12万493間)。   | 『山梨県水害史』                                    |
| 1896 |    |    | 明治29 |  | 栃木  | 洪水  |                     |                          | 鯨毒被害を併発  |   |
| 1896 |    |    | 明治29 |  | 栃木  | 洪水  |                     |                          |  | 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、1987年)、495-497、512頁       |
| 1897 | 1  | 17 | 明治30 |  | 埼玉  | 地震  |                     | 利根川流域                    | 利根川流域で岸壁に亀裂。   | 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁                      |
| 1897 | 4  | 22 | 明治30 |  | 東京  | 火事  | 八王子の大火              | 八王子町                     | 大横町より出火、折しもの強風により妙楽寺へ飛び火。死者42名、焼失3100余戸。   | 『特別展 災害と多摩』                                 |
| 1897 | 8  | 12 | 明治32 |  | 神奈川 | 火災  | 雲井町大火               | 横浜雲井町                    |  | 『横浜近代史総合年表』                                 |
| 1897 | 9  | 8  | 明治30 |  | 神奈川 | 暴風  |                     | 横浜市・久良岐郡・愛甲郡・中部・足柄上郡・三浦郡 | 県内では台風が四国沖に達した8日夕刻頃から雨が降り始め、夜に入り次第に風雨ともに強まり9日2時すぎには南々東風がさらに強まって10m/s以上となり6時には横浜で最大風速南西風20.9m/s、最低気圧737.7mmHg(983.5mb)を観測した。その後は風雨ともに次第に朝まり10時頃から天気は急速に回復した。台風が中心が県の北部を通ったため風が強く、県北西部の山沿い地方では短時間に150mm以上の雨が降ったため各河川の増水が目立ったが浸水等による被害は少なく、強風による被害が多かった。県の被害表では死者3、家屋の全壊25、がけくずれ10など。(神奈川県測候所特別報告、東京日々新聞、戸塚郷土史) | 『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部                         |
| 1897 | 9  | 8  | 明治30 |  | 神奈川 | 豪雨  |                     | 海老名市                     | 大暴風雨、家屋ノ破壊農作物ノ被害甚大ナリ。(萩原静夫『海老名村郷土年表』1984より作成)  | 『海老名市史8 通史編 近代・現代』                          |
| 1897 | 9  | 9  | 明治30 |  | 神奈川 | 暴風雨 |                     |                          |  | 『横浜近代史総合年表』                                 |
| 1897 | 9  | 9  | 明治30 |  | 群馬  | 洪水  | 台風                  |                          | 渡良瀬川出水14尺余、八斗島堤防破堤20間余、他にも被害あり(毎日新聞)   | 『群馬県気象災害史』                                  |
| 1897 | 9  | 9  | 明治30 |  | 千葉  | 洪水  |                     | 千葉県北部(利根川)               | 9月9日利根川18尺出水。  | 『千葉県気象災害史』                                  |
| 1897 | 9  | 30 | 明治30 |  | 神奈川 | 暴風雨 |                     |                          |  | 『横浜近代史総合年表』                                 |
| 1896 | 10 | 30 | 明治29 |  | 神奈川 | 火災  |                     | 横浜                       | 千歳座  | 『横浜近代史総合年表』                                 |
| 1897 | 12 | 22 | 明治30 |  | 神奈川 | 火災  |                     | 横浜停車場                    | 倉庫4棟焼失   | 『横浜近代史総合年表』                                 |
| 1897 |    |    | 明治30 |  | 栃木  | 洪水  |                     |                          |  | 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、1987年)、495-497頁           |
| 1898 | 3  | 23 | 明治31 |  | 東京  | 火事  | 本郷区春木町2-55火災(本郷の大火) | 本郷区春木町                   | 漬物商より出火、死者2名、負傷者42名、全焼1,478戸、焼損面積43,567平方メートル  | 『東京の消防百年の歩み』                                |
| 1898 | 5  | 22 | 明治31 |  | 山梨  | 火災  |                     | 明見村                      | 養蚕用の火鉢が紙帳に燃え移り、折からの強風にあおられる。焼失家屋43戸。   | 『富士吉田市史』資料編第三巻現代                            |
| 1898 | 6  | 5  | 明治31 |  | 神奈川 | 洪水  |                     | 足柄上郡・同下郡・中部・高座郡          | この大雨で県内各河川は何れも出水氾濫し、各地で被害が出た。しかし風による被害は、殆どなかった。足柄上、下両郡は降水量300mm以上となり、中野、厚木は200mm以上となった。そのほかの地方でも150～2000mmの降雨があった。このため被害の大きかった地方は足柄上郡、同下郡、中部、高座郡であった。県の被害表では死者10、負傷者5、住家の全壊14戸、半壊6戸、堤防決壊4か所、山くずれ68か所など。(測候所特別報告、東京日々新聞)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』低気圧の部                        |
| 1898 | 6  |    | 明治31 |  | 千葉  | 洪水  |                     | 手賀沼周辺                    | 6・8・9月、度重なる出水、9月7日我孫子堤防決壊、布川破堤。  | 『手賀沼周辺の水害』                                  |
| 1898 | 7  |    | 明治31 |  | 千葉  | 洪水  |                     | 千葉県北東部(香取郡)              | 7月中旬大雨しばしば降り利根川洪水、金江津の堤防を破壊し十六島及び常陸地方を浸す。  | 『千葉県気象災害史』、『香取郡誌』                           |
| 1898 | 8  | 15 | 明治31 |  | 栃木  | 火事  |                     |                          |  | 『いまいち市史』通史編V(今市市、2005年)、447-449頁            |
| 1898 | 8  | 24 | 明治31 |  | 埼玉  | 洪水  |                     | 荒川流域                     | 8月・9月と連続で暴風雨。  | 『吹上町史』、『行田市史』、『騎西町史』通史編『羽生市史』下巻             |
| 1898 | 8  | 24 | 明治31 |  | 東京  | 洪水  |                     | 多摩川流域                    | 8月24日～26日多摩川出水。調布町布田堤決壊、二ヶ領組合メ切元付決壊。   | 『多摩川誌』、『稲毛川崎二ヶ領用水水績』                        |
| 1898 | 8  | 26 | 明治31 |  | 神奈川 | その他 | 大雷                  | 海老名市                     | 国分大権・中新田山王社ノ老松其他数カ所ニ落雷ス。(萩原静夫『海老名村郷土年表』1984より作成)   | 『海老名市史8 通史編 近代・現代』                          |

|      |    |      |      |     |          |          |                  |  |                                      |
|------|----|------|------|-----|----------|----------|------------------|--|--------------------------------------|
| 1898 | 9  | 明治31 |      | 千葉  | 洪水       |          | 千葉県北東部(香取郡)      | 9月中旬より霖雨、利根川出水、沿岸諸町村を浸し多少の被害あり、米国登らず。  | 『千葉県気象災害史』                           |
| 1898 | 9  | 6    | 明治31 |     | 神奈川      | 洪水       | 馬入川河口            | 横浜では6日早朝から天気は不安定となり、午後に入って次第に風も強まった。7日早朝には19.5m/s(SSW)の風を観測した。強風は6時間以上続き降水量は61.2mmとあまり多くなかった。県内では相模川中流の中野で200mm以上だったが、その他の地方は100mm以下かせいぜい50~60mm程度だったので一部を除き被害は軽微であった。しかし相模川上流地方で局地的に豪雨に見舞われ洪水となったため、下流の馬入川河口ではかなりの被害を出し、橋梁が流失して交通が杜絶するなどの惨状を呈した。県の被害表では死者2、負傷者18、行方不明1、住家の全壊74戸、半壊42戸、流失13戸、橋梁の流失・破損174ヵ所、堤防の決壊・破損6441間など。(測候所雑纂・測候所特別報告)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部                  |
| 1898 | 9  | 6    | 明治31 |     | 群馬       | 洪水       | 台風               | 県全域<br>渡良瀬川西谷田村除巻川にて135間破堤、家屋流出48戸、浸水2029戸(邑楽郡)<br>渡良瀬川一本木砂山にて200間余破堤(山田郡)<br>使者4名、建物流失21戸、崩壊16戸、破損78戸、浸水167戸、橋梁流失9、堤防流失6、川除41、道路150、耕地500町(群馬郡)<br>吾妻川岩島より下流の橋梁全部流失(吾妻郡)<br>利根川大川村仙石にて2ヶ所25間破堤(邑楽郡)<br>糸之瀬村丸岩弁天が流失(糸之瀬村)<br>大水(利南村、薄根村)   | 『群馬県気象災害史』                           |
| 1898 | 9  | 7    | 明治31 |     | 山梨       | 洪水       |                  | 北巨摩郡、中巨摩郡、南巨摩郡、西山梨郡、東山梨郡、東八代郡、西八代郡、南都留郡、北都留郡<br>9月5日より大風吹き豪雨滝のごとし、7日に至り風雨鎮まるが、大小の河川は大洪水となる。赤痢の伝染もおこる。死者150人余。流失家屋450余戸、浸水家屋無数。   | 『山梨県水害史』                             |
| 1898 | 9  | 明治31 |      | 埼玉  | 爆発       |          | 騎西町              | 神社の祭礼で花火が爆発。   | 『騎西町史』通史編                            |
| 1898 | 9  | 明治31 |      | 栃木  | 洪水       |          | 鬼怒川沿岸            |  | 『栃木県史通史編』第六卷、440-448頁                |
| 1898 |    | 明治31 |      | 栃木  | 洪水       |          |                  |  | 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、1987年)、495-497頁    |
| 1899 | 2  | 27   | 明治32 | 茨城県 | 豪雨       |          | 伊奈町              | 豪雨のため小貝川が増水、耕作物に被害   | 『伊奈町近代・現代史年表』                        |
| 1899 | 2  | 明治32 |      | 埼玉  | 火事       | 芋金火事     | 越谷谷町             | 被害不明   | 『越谷市史』通史下、『埼玉県行政史』1                  |
| 1899 | 2  | 29   | 明治32 | 茨城県 | 迅雷・豪雨・降雹 |          | 西茨城郡             | 農作物に被害甚大   | 『茨城県史年表』                             |
| 1899 | 7  | 25   | 明治32 | 茨城県 | 暴風雨      |          | 久慈郡・那珂郡・西茨城郡     | 洪水、農作物に被害甚大  | 『茨城県史年表』                             |
| 1899 | 8  | 12   | 明治32 | 神奈川 | 火事       |          | 横浜市              | 全焼3158戸、半焼49戸、焼死者11、負傷者10、損害額500万円以上<br>夏型気圧配置続き高温多雨の晴天続きで当日も南よりの風平均11.7m/sを記録している。<br>(横浜開港50年史、横浜歴史年表、東京日々新聞)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部                  |
| 1899 | 8  | 12   | 明治32 | 神奈川 | 火事       | 横浜大火     | 神奈川県             | 明治三十二年八月十二日関外雲井町一丁目から出て、伊勢佐木町界隈一円を焼き払った雲井町火事。  | 『神奈川県史概説下巻』                          |
| 1899 | 8  | 12   | 明治32 | 神奈川 | 火事       |          | 横浜市              | 横浜開港以来と言われる火事。<br>12日の夜20時30分すぎ、横浜繁華街伊勢佐木町西部の雲井町1丁目銭湯勝盛館付近から出火、日中からの南西の強風にあおられて見る間に大火となり、13日3時30分鎮火するまで実に7時間にわたる延焼で市内区画の29ヶ町を焼き尽くし、罹災者は7000人を超えたと言われる。その状況はまさに焦熱地獄であった。消火作業も火災地区付近を流れる大岡川、中村川、日の出川等の川水を十分活用出来る蒸気ポンプの台数もわずかに警察署1台、居留地用1台のみで、各消防署のポンプは水道給水管利用のもので十分な消化ができなかった。市役所では学校・教会など、緊急対策として避難所を設けて罹災者の収容に努めた。<br>被害状況は全焼3158戸、半焼49戸、焼死者11人、負傷者10人、損害額は500万円以上、原因は風呂屋の煙突の飛火。<br>(横浜開港50年史、東京日々新聞、横浜歴史年表) | 『神奈川県災害誌(自然災害)』大火の部                  |
| 1899 | 9  | 8    | 明治32 | 群馬  | 洪水       | 台風       |                  | 薄根村  | 『群馬県気象災害史』                           |
| 1899 | 9  | 30   | 明治32 | 茨城県 | 洪水       |          | 伊奈町              | 暴風雨により小貝川出水  | 『伊奈町近代・現代史年表』                        |
| 1899 | 10 | 7    | 明治32 | 神奈川 | 暴風       |          | 横須賀市             | 明治三二年一〇月七日の台風では神奈川県内で暴風・洪水・高波による被害が発生しており、市域でも浦賀町川間にあった東京石川島造船所の製罐工場の屋根瓦が吹き飛んで負傷者三人を出したほか、浸水、屋根の破損、漁船の流失などの被害があった(『神奈川県気象災害誌』)   | 『新編横須賀市史 通史編 近現代』第六章第二節『軍港の形成と災害・救援』 |
| 1899 | 10 | 7    | 明治32 | 群馬  | 洪水       | 台風       |                  | 薄根村  | 『群馬県気象災害史』                           |
| 1899 | 10 | 7    | 明治32 | 千葉  | 暴風       |          | 千葉県北東部(香取郡)      | 10月7日大風家屋を破り樹木を折損し被害夥し。銚子測候所では南南東36.8m/sを観測す。  | 『千葉県気象災害史』                           |
| 1899 |    | 明治32 |      | 埼玉  | 火事       |          | 騎西町              | 大火で130戸が焼失。  | 『騎西町史』通史編                            |
| 1900 |    | 明治33 |      | 茨城県 | 火事       |          | 常総市              | 水海道町役場が火災で焼失   | 『水海道市史』下巻                            |
| 1900 | 2  | 12   | 明治33 | 神奈川 | 火災       | 平沼町大火    |                  |  | 『横浜近代史総合年表』                          |
| 1900 | 2  | 23   | 明治33 | 神奈川 | 火災       |          | 横浜賑町2丁目          | 325棟全焼   | 『横浜近代史総合年表』                          |
| 1900 | 3  | 4    | 明治33 | 伊奈町 | 地震       |          | 伊奈町              | 地震が2度発生  | 『伊奈町近代・現代史年表』                        |
| 1900 | 4  | 22   | 明治33 | 千葉  | 洪水       |          | 千葉県北部(利根川)       | 4月22日利根川11尺出水。   | 『千葉県気象災害史』                           |
| 1900 | 6  | 4    | 明治33 | 東京  | 火事       | 麻布区六本木火災 | 麻布区六本木           | 負傷者1名、全焼198戸、焼損面積31.697平方メートル  | 『東京の消防百年の歩み』                         |
| 1900 | 9  | 1    | 明治33 | 神奈川 | 火災       |          | 常盤町1丁目           | 横浜共同電燈発電所焼失  | 『横浜近代史総合年表』                          |
| 1900 | 9  | 28   | 明治33 | 群馬  | 暴風       | 台風       |                  | 9時ごろより風雨激しく倒壊家屋7、8軒、人畜被害なし(下川瀬村、薄根村)   | 『群馬県気象災害史』                           |
| 1900 | 9  | 28   | 明治33 | 埼玉  | 暴風       |          | 埼玉県内             |  | 『新編埼玉県史』別編4自然                        |
| 1900 | 9  | 29   | 明治33 | 千葉  | 洪水       |          | 千葉県北部(利根川)       | 9月29日利根川8尺出水。  | 『千葉県気象災害史』                           |
| 1900 | 10 | 3    | 明治33 | 神奈川 | 火災       |          | 羽衣座              | 全焼21戸  | 『横浜近代史総合年表』                          |
| 1900 | 10 | 8    | 明治33 | 千葉  | 洪水       |          | 千葉県北部(利根川)       | 10月8日利根川10尺5寸出水。   | 『千葉県気象災害史』                           |
| 1900 | 12 | 25   | 明治33 | 埼玉  | 火事       |          | 浦和市              | 10戸全焼。   | 『浦和市史』通史編Ⅲ                           |
| 1900 |    | 明治33 |      | 千葉  | 洪水       |          | 手賀沼周辺            | 利根川改修工事(第1期佐原一銚子間)着工。  | 『手賀沼周辺の水害』                           |
| 1901 |    | 明治34 |      | 群馬  | 洪水       |          | 薄根村              |  | 『群馬県気象災害史』                           |
| 1901 | 2  | 16   | 明治34 | 神奈川 | 火事       |          | 三浦郡              | 焼死者2、負傷者6、全町823戸の内全焼592戸<br>16日21時半頃、三浦郡三崎町入船町の貨座敷伊勢松楼から出火、折柄の強い南西風のため4ヶ町を全焼し17日3時頃鎮火した。<br>(三崎町史、東京日々新聞、三浦郡誌)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部                  |
| 1901 | 2  | 16   | 明治34 | 神奈川 | 火事       |          | 三浦郡三崎町           | 16日21時半頃、三浦郡三崎町入船町の貨座敷伊勢松楼から出火、折柄の強い南西風に全町7ヶ町(戸数823戸)のうち、目抜通りの入船、長崎、ハナグシ、海南町を全焼した日の出町を半焼するという大きな火事となった。そして翌17日3時頃鎮火した。この間に焼失した戸数は全町823戸の内592戸(三崎町史による)に及び、焼死者2人、軽傷者6人、また公共建物は郵便電信局は焼失したが、その他の警察署、町役場、小学校、病院等は類焼をまぬがれた。<br>(三崎町史、三浦郡誌、東京日々新聞)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』大火の部                  |
| 1901 | 3  | 29   | 明治34 | 茨城県 | 暴風雨      |          | 東茨城郡磯浜町・那珂郡湊・平磯町 | 出船漁船多数難破、死亡者多数   | 『茨城県史年表』                             |
| 1901 | 8  | 25   | 明治34 | 千葉  | 洪水       |          | 千葉県北部(利根川)       | 8月25日利根川11尺出水。   | 『千葉県気象災害史』                           |
| 1901 | 8  | 明治34 |      | 千葉  | 洪水       |          | 手賀沼周辺            | 下利根川洪水。  | 『手賀沼周辺の水害』                           |
| 1901 |    | 明治34 |      | 栃木  | その他      | 飢毒       |                  |  | 『近代足利市史』第一巻、1419頁                    |
| 1902 | 2  | 26   | 明治35 | 千葉  | 火事       |          | 木更津              | 2月26日夜木更津町仲片町、南片町に延焼し弁天町に飛火して遂に50余戸の罹災戸数を出す大火となる。  | 『千葉県気象災害史』                           |
| 1902 | 3  | 1    | 明治35 | 千葉  | 竜巻       |          | 千葉県北東部(海上郡)      | 下総国海上郡三川村宇三川屋敷破壊20余戸、飯岡町で樹木・家屋の損害あり。   | 『千葉県気象災害史』                           |
| 1902 | 3  | 24   | 明治35 | 茨城県 | 火事       |          | 久慈郡久慈町           | 70戸焼失  | 『茨城県史年表』                             |

|      |   |    |      |  |     |     |             |                           |  |  |
|------|---|----|------|--|-----|-----|-------------|---------------------------|--|--|
| 1902 | 5 | 12 | 明治35 |  | 神奈川 | 火災  | 石川町大火       | 横浜石川町                     | 235戸焼失   | 『横浜近代史総合年表』  |
| 1902 | 5 | 25 | 明治35 |  | 山梨  | 地震  |             | 甲斐東部南都留郡                  | 路面の亀裂、土蔵にも多少の損害あり。   | 『山梨県の気象』   |
| 1902 | 7 |    | 明治35 |  | 群馬  | 洪水  |             | 県南東部                      | 渡良瀬川洪水大間々に相当の被害あり<br>渡良瀬川高津戸橋が危険にさらされる(山田郡)  | 『群馬県気象災害史』   |
| 1902 | 8 | 5  | 明治35 |  | 神奈川 | 水害  |             | 鶴見川・大岡川                   |  | 『横浜近代史総合年表』  |
| 1902 | 8 | 7  | 明治35 |  | 神奈川 | 洪水  |             | 足柄上郡・同下郡                  | 県西部の川は上流で決壊し足柄上、下両郡の被害は甚だしく、死者10人、負傷者17人を出し、家屋の全壊12戸、半壊は42戸、破損家屋63戸を数え、堤防決壊は259ヶ所にも達した。<br>雨量は早川流域が最も多く、酒匂川がこれにつぎ、相模川上流はほぼ同じ、花水川、境川これについだ。<br>(測候所気象雑纂、足柄上郡誌、気象月報、気象要覧)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』低気圧の部   |
| 1902 | 8 | 7  | 明治35 |  | 東京  | 洪水  | 明治35年水害     | 北豊島郡、南足立郡、浅草、本所、下谷、深川、牛込区 | 台風の影響による集中豪雨で荒川、隅田川その他河川が氾濫、床上浸水家屋2,009戸、床下浸水家屋8,543戸、船舶、道路に被害多数(東京市内)、8月7日～9日まで   | 『東京の消防百年の歩み』   |
| 1902 | 8 | 10 | 明治35 |  | 千葉  | 洪水  |             | 千葉県北部(利根川)                | 8月10日利根川14尺出水。   | 『千葉県気象災害史』   |
| 1902 | 夏 |    | 明治35 |  | 神奈川 | その他 | 霖雨(りんう)     | 海老名市                      | 妻作五分減、米作三割減。(萩原静夫『海老名村郷土年表』1984より作成)   | 『海老名市史8 通史編 近代・現代』   |
| 1902 | 9 |    | 明治35 |  | 群馬  | 洪水  |             | 薄根村                       |  | 『群馬県気象災害史』   |
| 1902 | 9 | 7  | 明治35 |  | 埼玉  | 洪水  |             | 騎西町・羽生市                   | 利根川が氾濫。  | 『騎西町史』通史編『羽生市史』下巻  |
| 1902 | 9 | 19 | 明治35 |  | 千葉  | その他 | 降雹          | 千葉県東部                     | 9月19日印旛、山武、匝瑳、夷隅の諸郡で降雹の為に田畑の損害甚大。  | 『千葉県気象災害史』   |
| 1902 | 9 | 27 | 明治35 |  | 群馬  | 洪水  | 台風          | 県全域                       | 死者10名、家屋流出47、足尾線一部流失、巨木の倒伏等多数(気象要覧33号)<br>群馬郡での耕地被害1500町(群馬郡)<br>渡良瀬川境野三つ堀辺床上浸水2尺5寸以上、流死3人、流失家屋1棟、高津戸橋危険(山田郡)<br>京ヶ島出水甚だしく、1500町(中川村)<br>ほかにも糸之瀬村、利南村、薄根村にも被害あり  | 『群馬県気象災害史』   |
| 1902 | 9 | 28 | 明治35 |  | 茨城県 | 暴風雨 |             | 茨城県                       | 大暴風雨により県下に大被害、死者111、全壊2万戸余   | 『茨城県史年表』、『結城市史』第6巻・近現代通史編  |
| 1902 | 9 | 28 | 明治35 |  | 神奈川 | 高潮  |             | 足柄下郡・中郡                   | 横浜では28日早朝より強風となり、以後次第に強まって8時には34.1m/sを観測した。<br>気圧は720.5mmHg(960.8mb)となり、風向は順転して変わったが29日夕刻まで36時間もの長時間連続して吹きまわった。雨量は少なく、県内でも多い所で70mm前後、とくに県西部では少なく、40mm以下であった。しかし風害は甚大で、とくに、湘南方面の高潮では死者60人、負傷者369人、行方不明12人を出し、家屋流失773戸、浸水は床上床下合わせて1,660戸に及んだ。<br>船舶の流失も136隻、破損423隻で全隻数の約半分に被害を出し、この被害は、大磯より西方一帯に集中し、とくに国府津以西は最もひどいものであった。<br>波高は酒匂川以南は、激浪が海岸をこえて、4～5町の速きに達した。国府津が被害の分岐点で、これより東では次第に低く、大磯では1丈余と言われた。<br>(測候所雑纂、気象月報、横浜開港50年史、足柄下郡史) | 『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部  |
| 1902 | 9 | 28 | 明治35 |  | 神奈川 | 暴風雨 |             | 横浜港                       |  | 『横浜近代史総合年表』  |
| 1902 | 9 | 28 | 明治35 |  | 千葉  | 暴風  | 台風          | 千葉県全域                     | 9月28日大暴風雨あり。農作物家屋塙壁の被害甚多く樹木は到る処に倒れ一時は交通途絶の有様なりしも幸人畜の傷害なし(千葉県誌)。<br>9月28日朝より風雨あり、午前8、9時の間に至り次第に猛威を奮ひ、大樹を折損し家屋を倒壊し四辺の状は刻一刻と惨状を呈し神代、東条[城?]等(現・東庄町)の小学校倒壊するもの数校に及び其他の損害は実に枚挙に遑ならず(香取郡誌)。<br>9月28日房総の地、大風雨あり、人畜の死傷夥し(海上郡誌)。<br>9月28日暴風の為に巨大なる老松、俗に12大枝に分る故に十二本松と呼ぶ松倒る(鶴枝村[現・茂原市]誌)。   | 『千葉県気象災害史』   |
| 1902 | 9 | 28 | 明治35 |  | 栃木  | 洪水  | 台風による。崖崩れ併発 |                           |  | 『宇都宮市史』近・現代編Ⅱ(宇都宮市、1981年)、290-294頁   |
| 1902 | 9 |    | 明治35 |  | 千葉  | 洪水  |             | 手賀沼周辺                     | 台風、房総半島を通過、手賀沼内水洪水。  | 『手賀沼周辺の水害』   |
| 1902 | 9 |    | 明治35 |  | 栃木  | 洪水  | 鉱毒被害を併発     | 渡良瀬川沿岸                    |  | 『近代足利市史』第一巻、1449頁  |
| 1902 | 9 |    | 明治35 |  | 栃木  | 豪雨  | 暴風を伴う       |                           |  | 『いまいち市史』通史編Ⅴ(今市市、2005年)、308-311、449-451頁   |
| 1902 | 9 |    | 明治35 |  | 栃木  | 暴風  | 台風による       |                           |  | 『日光市史』下巻(日光市、1979年)、385  |
| 1902 |   |    | 明治35 |  | 栃木  | 洪水  |             | /                         | 特に大規模な被害   | 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁   |
| 1902 |   |    | 明治35 |  | 栃木  | 洪水  | 足尾台風        | 足尾、日光付近                   |  | 『栃木県史通史編』第六巻、440-448頁、<br>『栃木県土木史』(栃木県土木部、2001年)、386-400頁、『鹿沼市史』後編(鹿沼市役所、1968年)、145頁 |
| 1902 |   |    | 明治35 |  | 栃木  | 暴風  | 大暴風雨        | 栃木県                       |  | 『栃木県史通史編』第七巻、685～689頁  |
| 1902 |   |    | 明治35 |  | 栃木  | 火事  |             |                           |  | 『宇都宮市史』近・現代編Ⅱ(宇都宮市、1981年)、283-289頁   |
| 1903 | 5 | 26 | 明治36 |  | 千葉  | その他 | 雷雨          | 千葉県中西部                    | 5月26日雷雨により上総国八幡町落雷死傷者あり、同日木更津降雹著しく積量2寸。  | 『千葉県気象災害史』   |
| 1903 | 6 | 15 | 明治36 |  | 千葉  | その他 | 降雹          | 千葉県全域                     | 6月15日降雹により県下1000町歩被害す。   | 『千葉県気象災害史』   |
| 1903 | 7 | 7  | 明治36 |  | 神奈川 | 洪水  |             | 箱根方面・松田・小田原               | 県内の7日から8日にかけての降水量は、箱根方面で200mm以上、松田・小田原で190mmと西部に多かったが、他の地域は100～130mmと少なく、横浜では126.3mmであった。<br>この低気圧による被害は、降水量の多かった西部の河川が出水したためであった。<br>県の被害表では死者3、負傷者1、住家の全壊2戸、半壊5戸、橋梁流失2カ所、堤防決壊6カ所、山くずれ21カ所など<br>(測候所気象雑纂、気象月報)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』低気圧の部   |
| 1903 | 8 | 19 | 明治36 |  | 千葉  | 竜巻  | 降雹          | 千葉県北東部(山武郡・匝瑳郡)           | 8月19日降雹旋風により山武郡13ヶ町村被害反別4500町、負傷者1、潰家11棟、漁船の破壊、樹木の倒折の被害大、匝瑳郡内にて3村田畑被害500町歩。  | 『千葉県気象災害史』   |
| 1903 | 9 | 23 | 明治36 |  | 茨城県 | 洪水  |             | 北茨城市                      | 大暴風雨、大北川氾濫し、北中郷村被害甚大   | 『北茨城市史』下巻  |
| 1903 | 9 | 23 | 明治36 |  | 神奈川 | 豪雨  |             | 横浜市・久良岐郡・橋樹郡              | 横浜では、雨は21日から降り始めて22日までは降雨量はごく少なかったが、23日2時から11時まで強く、この9時間に128.4mmが降り、その後弱まって14時に止んだ。<br>風は始め北東の風であったが、23日11時40分に南西に変わり強まり、15時には何世の風14.0m/sの最大風速を観測した。その後西に変わり次第に弱まって、24日2時には止んだ。<br>県内の降水量は、小田原から茅ヶ崎にかけての海岸沿い、また厚木から戸塚にかけての地域、神奈川方面で100mm以内であったが、そのほかの各地は100mmを超え、箱根方面で170～180mm、横須賀で150mmと多かった。<br>県の被害表では死者1人、住家の全壊1戸、半壊1戸、床上浸水7戸、橋梁破損13カ所、堤防決壊1カ所、山くずれ6カ所など。<br>(測候所雑纂、東京日々新聞)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部  |

|      |    |    |      |  |     |     |            |                   |   |                                     |
|------|----|----|------|--|-----|-----|------------|-------------------|---|-------------------------------------|
| 1903 | 10 | 1  | 明治36 |  | 神奈川 | 暴風  |            | 横須賀市              | 明治三六年一〇年一日から二日にかけての暴風雨で横須賀町内で死者八人・重傷者一人、全壊三棟・半壊二棟・床上浸水四〇戸・床下浸水一五〇〇戸という被害を生じた。被害者の多くは断崖が崩れたことで、生き埋めになった者である。三浦郡内でも死者は二五人を数えた(『神奈川県気象災害誌』)。この災害に際しては被災者に対する弔慰金舞金の募集があり、横須賀陸軍将校や婦人会をはじめ郡内の各町村有志から醸出された義援金が配分されている(「明治36～38年 町村長会同二聞ス書類」旧浦郷村)。このような災害時の義援金は明治時代の初期から見られるものである。  | 『新横須賀市史 通史編 近現代』第六章第二節『軍港の形成と災害・救援』 |
| 1903 | 10 | 2  | 明治36 |  | 神奈川 | 豪雨  |            | 三浦郡               | 三浦半島の雨量は多く240mm内外であったが、県の内陸部では200mmに達せず、相模湾沿いの県の中央部では100mmに達しない所もあった。この結果、三浦郡では死者25人、負傷者7人を出し、家屋、船舶、堤防の被害など非常に大きなものがあった。(気象月報)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』低気圧の部                |
| 1903 | 12 | 3  | 明治36 |  | 神奈川 | 火事  |            | 横浜市               | 焼死者2、全焼100戸、半焼12戸<br>3日21時50分頃横浜市千歳町3丁目39番地から出火、西風強ク三吉町3丁目2丁目および千歳町2丁目を焼く。夜半過ぎの0時30分鎮火。(東京日々新聞)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部                 |
| 1903 | 12 | 3  | 明治36 |  | 神奈川 | 火災  |            | 三吉町3丁目            |   | 『横浜近代史総合年表』                         |
| 1903 | 12 | 19 | 明治36 |  | 神奈川 | 火事  |            | 横浜市               | 全焼128戸、半焼11戸、負傷者5名<br>19日11時43分横浜市羽衣町1丁目18番地劇場羽衣座から出火、羽衣町1丁目蓬来町1丁目、2丁目を焼き13時30分鎮火。(東京日々新聞)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部                 |
| 1903 | 12 | 19 | 明治36 |  | 神奈川 | 火災  | 羽衣座火災      | 蓬来町1丁目            | 全焼111戸  | 『横浜近代史総合年表』                         |
| 1904 | 7  | 8  | 明治37 |  | 群馬  | 洪水  | 台風         | 県全域               | 大暴風雨、全県下桑園被害1329町702800円  | 『群馬県気象災害史』                          |
| 1904 | 7  | 9  | 明治37 |  | 神奈川 | 洪水  |            | 県中部～北西部・相模川支流     | 8日から12日までの総降水量は、横浜では119.0mmであったが、松田で423.1mm、厚木484.1mm、中野423.2mmと、県中部から北西部にかけて多量の降雨があった。<br>この台風と雷雨による被害は、主に河川の氾らん、決壊による水害であり、相模川の支流に多く、10日と12日の二度にわたる出水に見舞われた地域もあった。<br>県の被害表では死者7、負傷者3、行方不明1、住家の全壊23戸、半壊23戸、流失7戸、床上浸水878戸、橋梁の流失339ヵ所、堤防の決壊410ヵ所、田畑の流失4498町歩、山くずれ1360ヵ所など。<br>(測候所雑纂、気象月報)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部                 |
| 1904 | 7  | 11 | 明治37 |  | 神奈川 | 洪水  |            | 海老名市              | 目久尻川溢溢シ被害多シ。(萩原静夫『海老名城郷土年表』1984より作成)  | 『海老名市史8 通史編 近代・現代』                  |
| 1904 | 7  | 12 | 明治37 |  | 神奈川 | 暴風雨 |            | 鶴見川               |   | 『横浜近代史総合年表』                         |
| 1904 | 7  | 13 | 明治37 |  | 茨城県 | 洪水  |            | 鉦田町               | 北浦が増水、水田水没  | 『鉦田町史』通史編・下巻                        |
| 1904 | 7  | 13 | 明治37 |  | 千葉  | 洪水  |            | 千葉県北部(利根川)        | 7月13日利根川12尺出水。  | 『千葉県気象災害史』                          |
| 1904 | 9  | 15 | 明治37 |  | 群馬  | 洪水  | 台風         | 県全域               | 富士見村にて死者1名(富士見村)<br>芳賀村、利南村、糸之瀬村、薄根村でも被害<br>桑園被害101町675700円<br>薄根村  | 『群馬県気象災害史』                          |
| 1904 | 9  | 20 | 明治37 |  | 群馬  | 洪水  | 台風         |                   |   | 『群馬県気象災害史』                          |
| 1905 | 2  | 15 | 明治38 |  | 神奈川 | 火災  |            | 英町                | 太田小学校1棟、26戸全焼   | 『横浜近代史総合年表』                         |
| 1905 | 4  | 27 | 明治38 |  | 神奈川 | 火災  | 相生座火災      |                   |   | 『横浜近代史総合年表』                         |
| 1905 | 6  | 22 | 明治38 |  | 神奈川 | 火災  |            | 南仲通3丁目            |   | 『横浜近代史総合年表』                         |
| 1905 | 8  | 17 | 明治38 |  | 茨城県 | 暴風雨 |            | 多賀郡・北茨城市          | 多賀郡の諸村被害甚大、助川・磯原間の線路破壊、大北川大洪水、北中郷村被害甚大  | 『茨城県史年表』、『北茨城市史』下巻                  |
| 1905 | 8  | 17 | 明治38 |  | 千葉  | その他 | 冷夏         | 千葉県全域             | 8月寒冷、本県では平均より4度位低かった。   | 『千葉県気象災害史』                          |
| 1905 |    |    | 明治38 |  | 栃木  | 暴風  | 水害を併発      | 栃木県               | 不作による米価上昇。  | 『栃木県史通史編』第七巻、51-53頁                 |
| 1905 |    |    | 明治38 |  | 栃木  | その他 | 冷害、凶作      |                   |   | 『いまいち市史』通史編V(今市市、2005年)、308-311頁    |
| 1906 | 1  | 11 | 明治39 |  | 神奈川 | 水害  |            |                   |   | 『横浜近代史総合年表』                         |
| 1906 | 1  | 11 | 明治39 |  | 東京  | 洪水  | 明治39年水害(1) | 東京府下              | 低気圧に伴う異常降雨により隅田川など河川が氾濫、浸水家屋1,800余戸   | 『東京の消防百年の歩み』                        |
| 1906 | 3  | 16 | 明治39 |  | 埼玉  | 火事  |            | 吹上町               | 強風で火災が延焼。   | 『吹上町史』                              |
| 1906 | 5  | 6  | 明治39 |  | 東京  | 火事  | 本郷区根津藍染町火災 | 本郷区根津藍染町          | 柴屋より出火、全焼112戸、焼損面積13.134平方メートル  | 『東京の消防百年の歩み』                        |
| 1906 | 5  | 18 | 明治39 |  | 神奈川 | その他 | 雹(ひょう)     | 海老名市              | 大ニ雹ヲ降ラス。(萩原静夫『海老名城郷土年表』1984より作成)  | 『海老名市史8 通史編 近代・現代』                  |
| 1906 | 5  | 24 | 明治39 |  | 埼玉  | その他 |            | 八潮市域              | 八潮市域で広く水不足による旱魃が発生。   | 『八潮市史』通史編Ⅱ                          |
| 1906 | 5  |    | 明治39 |  | 栃木  | 火事  |            |                   |   | 『宇都宮市史』近代編Ⅱ(宇都宮市、1981年)、283-289頁    |
| 1906 | 7  | 14 | 明治39 |  | 神奈川 | 豪雨  |            | 津久井郡              | 低地はたちまち湖のようになり、山から流れる雨水は土砂を押し流し、道路は川のごとく雨水が流れた。また山岳部では所々で山くずれが起った。雨はその後も断続的に降り16日17時頃ようやく止んだ。<br>この豪雨による被害は津久井郡に集中し、中野を中心に鳥屋・青山・長竹の各地の被害が最も大きかった。しかし被害地域は相模川の流域にとどまった。本流では最高水位が1.4mに達したにすぎず被害はなかった。<br>県の被害表では死者1、負傷者3、住家の全壊3戸、半壊2戸、流失3戸、橋梁流失45ヵ所、堤防決壊27ヵ所、山くずれ50ヵ所など。<br>(測候所気象雑纂、気象月報、気象要覧)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』低気圧の部                |
| 1906 | 7  | 14 | 明治39 |  | 群馬  | 洪水  | 前線         | 県全域               | 渡良瀬川、小平川氾濫、田畑流失、山崩(山田郡)<br>渡良瀬川海老瀬村西谷田村にて341間破壊、住宅流失13戸、前回18戸、半壊2戸、床上浸水1757戸、床下浸水951戸、被害反別64町、農作物損害高766000円(邑楽郡)<br>新治村浅地部落連日の降雨、山崩地滑り、山津波起こる。住家の流失埋没6、耕地の埋没5反、住家の半潰土砂浸水10、耕地の流失1町、橋梁の流失8ヶ所、その他山流の流失道路堤防の破壊などあり(新治村)<br>桃野村赤谷川流域にて堤防決壊40間破損185間、田畑流失埋没4町3反、畑流失5町、住家崩壊1戸、非住家流失6棟、道路決壊71ヶ所、橋梁流失4ヶ所、損害総額5661050円(桃野村)<br>利南村、糸之瀬村、薄根村でも被害<br>群馬郡下1500町流失 | 『群馬県気象災害史』                          |
| 1906 | 7  | 15 | 明治39 |  | 茨城県 | 霰雨  |            | 茨城県               | 17日にかけ降雪、利根川・鬼怒川・権現堂川・久慈川などの堤防決壊18ヵ所  | 『茨城県史年表』、『古河市史』通史編                  |
| 1906 | 7  | 16 | 明治39 |  | 山梨  | 洪水  |            | 笠吹川流域、釜無川流域、富士川流域 | 7月15日より降雨あり16日にも雨脚激しく、出水となる。  | 『山梨県水害史』                            |
| 1906 | 7  | 17 | 明治39 |  | 千葉  | 洪水  |            | 千葉県北西部(利根川・江戸川)   | 7月17日利根川関宿15尺、利根運河口30尺9寸5分、富勢15尺3寸出水、江戸川関宿18尺、野田13尺6寸、利根運河口29尺2寸1分、松戸12尺8寸出水  | 『千葉県気象災害史』                          |
| 1906 | 7  | 18 | 明治39 |  | 神奈川 | 火事  |            | 横浜市               | 焼失戸数約595戸、負傷者8名<br>18日17時20分横浜市根岸町相沢付近より出火、20時すぎ鎮火。<br>(日本火災史、横浜歴史年表、東京日々新聞)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部                 |



|      |    |    |      |   |      |     |            |                    |   |                                    |
|------|----|----|------|---|------|-----|------------|--------------------|---|------------------------------------|
| 1906 | 7  | 18 | 明治39 |   | 神奈川県 | 火事  |            | 横浜市                | 18日17時20分頃、根岸町3084番地付近から出火したが、ここは通称相沢と言われる所で、労働者達の部落であって、出火時刻にはまだ青年・壮年の働き手は稼業に出て居たため、老人・小児のみで、消火に手間どり、また家屋も多くは板葺のため、延焼も甚だ早かった。その上時刻のことで下町方面で水道を多量に使用していたため、水の出も悪く、わずかに下水道用の小川や井戸水で消防の状況であった。このため消防は一層手間どり、3時間近くも燃え続け20時すぎに鎮火した。被害状況は焼失戸数が根岸町の一部・山元町1丁目8番地から同町31番地まで595戸、負傷者が消防夫5人など。(日本火災史、東京日々新聞、横浜歴史年表) | 『神奈川県災害誌(自然災害)』大火の部                |
| 1906 | 7  | 26 | 明治39 |   | 茨城県  | 暴風雨 |            | 稲敷郡本新島村            | 利根川堤防決壊   | 『茨城県史年表』                           |
| 1906 | 7  | 26 | 明治39 |   | 東京   | 洪水  | 明治39年水害(2) | 赤坂、本所、小石川、浅草など     | 台風により赤坂、本所、小石川、浅草などが浸水被害、浸水家屋5,800余戸、7月26日～29日まで  | 『東京の消防百年の歩み』                       |
| 1906 | 7  |    | 明治39 | 7 | 千葉   | 洪水  |            | 手賀沼周辺              | 大雨、利根川出水、布佐江蔵地・布川等破壊。   | 『手賀沼周辺の水害』                         |
| 1906 | 8  |    | 明治39 |   | 茨城県  | 洪水  |            | 行方郡                | 行方郡一体の田畑水没、被害額4万7400円、浸水家屋552戸  | 『鉦田町史』通史編・下巻                       |
| 1906 | 8  | 11 | 明治39 |   | 栃木   | 火事  |            |                    |   | 『宇都宮市史』近・現代編Ⅱ(宇都宮市、1981年)、283-289頁 |
| 1906 | 8  | 24 | 明治39 |   | 神奈川県 | 暴風  |            | 横浜市・都築郡・橋樹郡        | 東部を中心に風雨による被害が多く、また台風の通過時に中心に近かった三浦半島では風による被害が多く西部では被害はほとんどなかった。鶴見川、片瀬川、柏尾川、花水川では橋梁の流失、破損が多く、とくに鶴見川では上流で堤防が決壊し都築郡、橋樹郡(現在の緑区・港北区一帯)が洪水となった。横浜港内では風による被害が多く船舶の流失、沈没が34隻におよび、米国磁力測定船ガレリー一号は船首が燈標に乗り上げ船尾が沈没した。  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部                |
| 1906 | 8  | 24 | 明治39 |   | 神奈川県 | 暴風雨 |            |                    |   | 『横浜近代史総合年表』                        |
| 1906 | 8  | 24 | 明治39 |   | 千葉   | 暴風  | 台風         | 千葉県全域              | 8月24日、25日両日台風により鉄道線路・橋梁、家屋の破損、船舶の難破多く、洪水、山崩、家屋の浸水多数。  | 『千葉県気象災害史』                         |
| 1906 | 8  | 24 | 明治39 |   | 東京   | 洪水  | 明治39年水害(3) | 麹町、本所、芝、赤坂、小石川区    | 大雨による下水の氾濫などにより、麹町、本所、芝、赤坂、小石川で浸水被害、浸水家屋5,500余戸、8月24日～25日まで   | 『東京の消防百年の歩み』                       |
| 1906 | 8  |    | 明治39 |   | 千葉   | 洪水  |            | 手賀沼周辺              | 8・9月にも利根川出水。  | 『手賀沼周辺の水害』                         |
| 1906 | 10 | 4  | 明治39 |   | 群馬   | 洪水  |            | 薄根村                |   | 『群馬県気象災害史』                         |
| 1906 |    |    | 明治39 |   | 埼玉   | 洪水  |            | 北足立郡               |   | 『北足立郡誌』                            |
| 1906 |    |    | 明治39 |   | 栃木   | 洪水  |            |                    | 特に大規模な被害  | 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁             |
| 1906 |    |    | 明治39 |   | 栃木   | 洪水  |            |                    |   | 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、1987年)、495-497頁  |
| 1906 |    |    | 明治39 |   | 栃木   | 洪水  |            |                    |   | 『日光市史』下巻(日光市、1979年)、408            |
| 1906 |    |    | 明治39 |   | 栃木   | 洪水  | 洪水被害を併発    | 御厨、山辺、梁田、久野、筑波五か村  |   | 『近代足利市史』第二巻、211-214頁               |
| 1907 | 3  | 22 | 明治40 |   | 千葉   | 暴風  |            | 千葉県全域              | 3月22日大陸颶風により関東地方南部に於て道路の破損、家屋の倒潰、人畜の死傷あり。漁船又は船舶の遭難多し。   | 『千葉県気象災害史』                         |
| 1907 | 3  | 23 | 明治40 |   | 神奈川県 | 暴風  |            | 小田原                | 小田原以南の沿岸海上で船舶の遭難あり。沈没帆船3、漁船4、溺死者3、傷者5<br>石垣島付近より北上し、南岸沿いに進んだ低気圧による。横浜の記録(P)993.1、(V)14.0、(D)NNW<br>(気象月報、気象要覧)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部                |
| 1907 | 4  | 11 | 明治40 |   | 神奈川県 | その他 | ひょう雪・突風雪   | 津久井郡・愛甲郡・高座郡       | 降ひょうのあった地域は広く、愛甲郡、中郡、鎌倉郡、久良岐郡、足柄上郡、足柄下郡の一部と三浦郡の一部、高座郡、橋樹郡、都築郡の各郡にわたった。最も被害のあったのは津久井郡から愛甲郡の煤が谷をへて厚木から高座郡にいたる間で降ひょうは1時間も続き、この間15分間は大きいもので直径3.3cm位のもがあった。このため野菜や桑にかなりの被害が出たが、当時の額にして6～7万延の被害であった。高座郡綾瀬村では突風とともに「たつまき」が発生し全壊家屋7棟、小破10数棟の被害を出し、負傷者1人を出した。<br>(気象月報、気象要覧)                                       | 『神奈川県災害誌(自然災害)』低気圧の部               |
| 1907 | 6  | 15 | 明治40 |   | 神奈川県 | その他 | 落雷         | 津久井郡・中郡・高座郡・都築郡    | 落雷5ヶ所、死者1、傷者1、非住家焼失1、落雷箇所、津久井郡2、中郡、高座郡、都築郡各1<br>18時頃から21時にかけて、前後して雷雲が県下を通過、多摩川沿いを東へ移動したものと、小仏嶺方面より相模川流域に沿って相模灘に出たものによる落雷が強かった。<br>(気象月報)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部                |
| 1907 | 7  | 3  | 明治40 |   | 茨城県  | 火事  |            | 東茨城郡常盤村・水戸市        | 189戸焼失、死者3  | 『茨城県史年表』                           |
| 1907 | 7  | 17 | 明治40 |   | 埼玉   | 豪雨  |            | 三郷市域               | 利根川・江戸川が増水し、周辺地域に洪水。江戸川の対岸(流山)が破壊。  | 『三郷市史』通史編Ⅱ                         |
| 1907 | 8  | 14 | 明治40 |   | 群馬   | 洪水  | 台風         | 吾妻郡、県南西部           | 台風は紀伊半島より北上し、日本海に抜ける。降水量(14～15日)前橋44.1、下仁田354.3、万場230.7、志彙142.2   | 『群馬県気象災害史』                         |
| 1907 | 8  | 22 | 明治40 |   | 東京   | 洪水  | 明治40年水害    | 東京府下               | 連続3回の台風により荒川、多摩川など河川が決壊、浸水家屋58,315戸、8月22日～28日まで   | 『東京の消防百年の歩み』                       |
| 1907 | 8  | 23 | 明治40 |   | 神奈川県 | 洪水  |            | 横浜市・横須賀市・三浦半島を除く各地 | 2個の台風が本州の南方沖に停滞し、南岸沿いの各地に多量の雨を降らせた。<br>21日から27日までの総降水量は、横浜では163.6mmであったが、県北西部では250～300mmであり、山岳部では500mmを越えた所もあった。この台風による被害は主に水害で、横浜市、横須賀市、三浦半島をのぞいた各地で河川が決壊し大洪水を起した。また、湯河原町の吉浜では高浪による被害があった。<br>県の被害表では死者6、負傷者51、行方不明2、住家の全壊25戸、半壊51戸、流失48戸、床上浸水5352戸、橋梁の流失230カ所、堤防の決壊213カ所、山くずれ242カ所など。<br>(測候所雑纂、気象月報)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部                |
| 1907 | 8  | 23 | 明治40 |   | 群馬   | 洪水  | 台風         | 県全域                | 渡良瀬川広沢村字三唐川用水路壊滅(山田郡)<br>渡良瀬川海老瀬村仲伊谷田にて80間破壊、住家全壊24戸、半壊3戸、床上浸水1920戸、床下浸水1016戸、被害額10090円(邑桑郡)<br>桐生市広瀬毛里田洪水、堤防の決壊家屋の流失多く、農作物被害13765町   | 『群馬県気象災害史』                         |
| 1907 | 8  | 24 | 明治40 |   | 神奈川県 | 洪水  |            | 相模川大洪水             | 海老名市<br>相模川大洪水。1907年の大洪水の際は「相模川増水一丈七尺五寸(厚木渡津二設置シアル水量標ニヨリ)、遂二午前八時堤防ノ決潰五十間一ヶ所(中略)濁流滔々トシテ通学区域内全般ニ漲浴シ、為メニ本校モ床下一尺二寸ノ浸水ヲ被ルニ至レリ」と尋常啓蒙小学校の日記にあり、通学区域内111戸中浸水家屋109戸を数えた(『教育資料1』)。<br>相模川大洪水、泥土ヲ沖積スルコト夥シク農作物ノ被害甚シ、此秋ヨリ翌年ニ涉リテ堤防ノ大工事アリ。(萩原静夫『海老名村郷土年表』1984より作成)   | 『海老名市史8 通史編 近代・現代』                 |
| 1907 | 8  | 24 | 明治40 |   | 神奈川県 | 暴風雨 |            |                    |   | 『横浜近代史総合年表』                        |
| 1907 | 8  | 24 | 明治40 |   | 埼玉   | 洪水  | 明治40年水害    | 利根川・荒川流域           | 21日からの暴風雨で河川が増水し堤防が決壊。  | 『新編埼玉県史』通史5、『新編埼玉県史』別編4自然          |
| 1907 | 8  | 24 | 明治40 |   | 埼玉   | 洪水  | 明治40年水害    | 利根川・荒川流域           | 南海上の2つの台風の影響で県内の河川が増水し、各地で破壊・浸水。  | 『埼玉県警察史』1                          |
| 1907 | 8  | 24 | 明治40 |   | 埼玉   | 洪水  | 明治40年水害    | 利根川・荒川流域           |   | 『埼玉県行政史』1                          |
| 1907 | 8  | 24 | 明治40 |   | 山梨   | 洪水  | 明治40年水害    | 山梨県全域              | 8月22日から26日まで大雨降り続き、大洪水となる。死者233人。家屋全壊1267戸、半壊1728戸、流失4500戸、浸水1万5157戸、堤防決壊5万4910間、道路流失埋没15万4369間。  | 『山梨県水害史』                           |
| 1907 | 8  | 25 | 明治40 |   | 茨城県  | 洪水  | 明治40年大水害   | 茨城県                | 利根川・渡良瀬川の堤防決壊、各地で洪水被害   | 『茨城県史年表』                           |
| 1907 | 8  | 25 | 明治40 |   | 千葉   | 洪水  |            | 千葉県北西部(利根川・江戸川)    | 8月25日利根川閘宿地16尺、富勢地先13尺5寸出水。8月26日江戸川利根運河口29尺6寸5分、松戸13尺10寸出水。8月28日利根川利根運河口32尺2寸出水。  | 『千葉県気象災害史』                         |

|      |    |    |      |  |     |     |         |                 |   |                                    |
|------|----|----|------|--|-----|-----|---------|-----------------|---|------------------------------------|
| 1907 | 8  | 26 | 明治40 |  | 東京  | 洪水  | 明治40年水害 | 多摩川流域           | 明治40年8月22～28日の大洪水。利根川水系をはじめ関東・東海地方の糠河川で大水害を発生させた。多摩川では近世末期の安政6年(1959)水害を上回り、全川わたって甚大な被害を受けた。調布村字友田の堤防1ヶ所・字下菅の堤防50間・他200間破壊。小宮村堤防40間破壊、宇栗集の堤防破壊、家屋流失1戸、家屋浸水、多摩村字世田家屋流失1戸、家屋浸水13戸。  | 『多摩川誌』                             |
| 1907 | 8  | 27 | 明治40 |  | 茨城県 | 洪水  |         | 茨城県             | 利根・小貝両川の増水により牛久沼への逆流が発生   | 『伊奈町近代・現代史年表』                      |
| 1907 | 8  |    | 明治40 |  | 千葉  | 洪水  |         | 手賀沼周辺           | 8月下旬台風、利根川稀なる大水、湖北村堤防決壊。  | 『手賀沼周辺の水害』                         |
| 1907 | 9  | 2  | 明治40 |  | 千葉  | 洪水  |         | 千葉県北東部(香取郡・海上郡) | 9月2日香取郡八筋川地先堤防決壊し、十六島田圃悉く被害す。然れども早稲は概ね刈取りたるを以て多少の損害を免るを得たり。関東及び各地8月下旬よりの雨により利根川氾濫す。   | 『千葉県気象災害史』                         |
| 1907 | 9  | 13 | 明治40 |  | 神奈川 | 火災  | 東福寺     |                 |   | 『横浜近代史総合年表』                        |
| 1907 | 9  | 17 | 明治40 |  | 神奈川 | 洪水  |         | 横浜市・東東部         | 県内各河川は8月下旬の大洪水の補修が未完成の所に今回の多量な降水があったため、再び大出水に見舞われた。三浦半島をのぞき、東部でも、時間的に集中して降水があったため、多少の被害があった。また、国府津附近では、高波が押し寄せ、浸水し道路破損の被害があった。県の被害表では死者14、負傷者5、住家の全壊10戸、半壊4戸、流失2戸、床上浸水586戸、橋梁の流失112か所、堤防の決壊111か所、山くずれ140か所など。(測候所雑纂、気象要覧、気象月報)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部                |
| 1907 | 9  | 19 | 明治40 |  | 茨城県 | 暴風雨 |         | 茨城県             | 県内の各河川氾濫、那珂川堤防決壊  | 『茨城県史年表』                           |
| 1907 |    |    | 明治40 |  | 栃木  | 洪水  |         |                 |   | 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、1987年)、495-497頁  |
| 1907 |    |    | 明治40 |  | 栃木  | 洪水  |         |                 |   | 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁             |
| 1907 |    |    | 明治40 |  | 栃木  | 火事  | 鹿沼町大火   |                 |   | 『鹿沼市史』後編(鹿沼市役所、1968年)、151頁         |
| 1908 |    |    | 明治41 |  | 茨城県 | 火事  |         | 石岡市             | 国分寺から出火、強風にあおられ150戸焼失   | 『石岡市史』下巻                           |
| 1908 | 3  | 7  | 明治41 |  | 千葉  | 暴風  |         | 千葉県沿岸部          | 3月7日、8日の両日台風により漁船船舶の遭難多し。   | 『千葉県気象災害史』                         |
| 1908 | 4  | 8  | 明治41 |  | 埼玉  | 豪雪  |         | 埼玉県内            | 豪雪で家屋倒壊が発生。   | 『新編埼玉県史』別編4自然                      |
| 1908 | 4  | 9  | 明治40 |  | 茨城県 | 洪水  |         | 茨城県             | 暴風雨により小貝川増水   | 『伊奈町近代・現代史年表』                      |
| 1908 | 4  | 30 | 明治41 |  | 茨城県 | 降雹  |         | 猿島郡・筑波郡・行方郡     | 桑菜に被害   | 『茨城県史年表』                           |
| 1908 | 5  |    | 明治41 |  | 埼玉  | その他 |         | 駒吉町             | 雷雨と雹で農作物に被害。  | 『駒吉町史』                             |
| 1908 | 6  | 3  | 明治41 |  | 栃木  | 火事  |         |                 |   | 『宇都宮市史』近・現代編Ⅱ(宇都宮市、1981年)、283-289頁 |
| 1908 | 6  | 8  | 明治41 |  | 茨城県 | 降雹  |         | 那珂郡・西茨城郡        | 麦桑菜に被害  | 『茨城県史年表』                           |
| 1908 | 6  | 8  | 明治41 |  | 千葉  | その他 | 降雹      | 千葉県全域           | 6月8日関東各地に降雹あり、千葉県下950町に被害あり。  | 『千葉県気象災害史』                         |
| 1908 | 8  | 7  | 明治41 |  | 神奈川 | 暴風  |         | 箱根              | 箱根塔ノ沢の旅館全壊等の被害出る。死者1、負傷者7、家屋全壊30棟、橋梁流失2ヶ所。琉球から北東進し名古屋から佐渡にぬけた台風による。横浜の記録(P)985.7、(V)13.6、(DS) (気象要覧、東京日々新聞)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部                |
| 1908 | 8  | 7  | 明治41 |  | 千葉  | 暴風  | 台風      | 千葉県沿岸部          | 8月7日、8日の両日台風の通過により、房州沖にて汽船沈没。   | 『千葉県気象災害史』                         |
| 1908 | 8  | 8  | 明治41 |  | 群馬  | 洪水  |         | 薄根村             |   | 『群馬県気象災害史』                         |
| 1908 | 8  | 17 | 明治41 |  | 神奈川 | その他 | 落雷      | 横浜・神奈川          | 横浜・神奈川辺落雷10数ヶ所に及び負傷者数名<br>17日夕刻群馬県南部に発生川越、東京付近を経て夜半すぎ横浜に達し、房総半島を横切って海上を去った雷雲による。(気象要覧)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部                |
| 1908 | 9  | 18 | 明治41 |  | 神奈川 | 水害  |         |                 |   | 『横浜近代史総合年表』                        |
| 1908 | 9  | 29 | 明治41 |  | 神奈川 | 水害  |         | 鶴見川             |   | 『横浜近代史総合年表』                        |
| 1908 | 12 | 20 | 明治41 |  | 神奈川 | 火災  |         | 高島町             |   | 『横浜近代史総合年表』                        |
| 1908 | 12 | 28 | 明治41 |  | 山梨  | 地震  |         | 甲府附近            |   | 『山梨県の気象』                           |
| 1909 | 3  | 13 | 明治42 |  | 神奈川 | 地震  |         | 横浜地方            | 横浜地方では煙突の倒壊、煉瓦壁の崩壊又は屋根の破損等彩しく負傷者数名。<br>震央は房総沖13日23時30分発震N35.2 E141.2 震度4<br>(気象要覧、東京地震観測)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部                |
| 1909 | 3  | 13 | 明治42 |  | 千葉  | 地震  |         | 千葉県全域           | 3月13日房総半島に強震2回あり。東京湾沿岸多少の被害あり。  | 『千葉県気象災害史』                         |
| 1909 | 5  | 23 | 明治42 |  | 神奈川 | 火事  |         | 横須賀市            | 13時40分頃横須賀市若松町23番地付近から出火し、折からの強い南東風にあおられ、火は市内の四方に広がった。若松町をはじめとして、大滝町の全部を焼失、さらに山王町に延焼し、市内の目貫きの場所を焦土と化し、17時45分鎮火した。この際横須賀鎮守府では海兵団で消防隊を組織して消火に努力した。<br>被害状況は焼失戸数589戸、罹災者約4000人、焼失面積約2万坪、被害総額約400万円、負傷者約70人(軽傷者のみに消防士)など。火災の原因は若松町23番地、三次精米所の精米器械の石油発動機鉄管破損によって石油が漏出し、引火した。<br>(日本火災史、横須賀市史、東京日々新聞)                   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』大火の部                |
| 1909 | 7  | 3  | 明治42 |  | 埼玉  | 地震  |         | 不明              |   | 『新編埼玉県史』別編4自然                      |
| 1909 | 7  | 13 | 明治42 |  | 群馬  | 洪水  | 雷雨      | 山田郡             | 12日夜より大雷雨、渡良瀬川山田川橋梁流失5(山田郡)   | 『群馬県気象災害史』                         |
| 1909 | 8  | 20 | 明治42 |  | 群馬  | 洪水  |         | 県内各地            | 豪雨により、橋梁流失10(気象要覧116号)  | 『群馬県気象災害史』                         |
| 1909 | 8  | 20 | 明治42 |  | 千葉  | その他 | 落雷      |                 | 8月20日布佐町に落雷による感電死あり。  | 『千葉県気象災害史』                         |
| 1909 | 8  |    | 明治42 |  | 千葉  | 洪水  |         | 手賀沼周辺           | 連続降雨、手賀沼水害。   | 『手賀沼周辺の水害』                         |
| 1909 | 9  | 26 | 明治42 |  | 神奈川 | 豪雨  |         | 鎌倉郡             | 横浜においては27日1時頃から雨が降り出し、2時頃には相模湾付近に現われた小低気圧により雨勢は強まり、2時から6時までの4時間の雨量は77.9mmに達し、その後雨は弱まり15時頃に雨は止んだ。総降水量は、横浜で140mmであったが戸塚では300.9mm、横須賀では67.4mm、厚木で83.5mmで大雨は集中的に鎌倉郡付近で降ったものであった。<br>このため柏尾川は氾濫し豊橋は流失した。水の引いたのは29日になってからであった。<br>県の被害表では死者1、負傷者15、住家の全壊1戸、半壊1戸、床上浸水89戸、橋梁流失20か所、堤防決壊6か所、山くずれ57か所など。(測候所気象雑纂、気象月報、気象要覧) | 『神奈川県災害誌(自然災害)』低気圧の部               |
| 1909 |    |    | 明治42 |  | 栃木  | その他 | 凶作      | 栃木県             |   | 『栃木県史通史編』第七巻、685-688頁              |
| 1910 | 3  | 12 | 明治43 |  | 茨城県 | 暴風雪 |         | 太平洋沿岸地域         | 漁船大遭難(遭着51艘、難破13艘、行方不明24艘、生死不明554名)   | 『茨城県史年表』                           |
| 1910 | 3  | 12 | 明治43 |  | 千葉  | 暴風  |         | 銚子沖             | 3月12日銚子沖に於て沿海漁船遭難の三次あり。当時恰も鮪の漁期にして人々夜を侵して出漁し天吹岬沖合2海里内外の洋上に作業中午前11時天候俄に变じ、颶風雪を卷きて襲来し漁船は激浪の翻弄する所となれり。橋折れ横柱け渺茫無涯の洋上に漂流するもの漁船83隻、漁夫1055人の多きに及び。   | 『千葉県気象災害史』                         |
| 1910 | 3  | 19 | 明治43 |  | 神奈川 | 火事  |         | 横浜市             | 全半焼戸数520 負傷者23<br>横浜市野毛町3丁目94番地から出火、野毛町3丁目、花咲町4丁目、5丁目福島町を焼失す。0時50分出火5時20分鎮火。当時南西風強し。19日横浜の気象(Vmean)9.5、(D)SW、(RHmean)54<br>(日本火災史、横浜歴史年表、東京日々新聞)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部                |

|      |   |    |      |  |     |       |                |                      |   |  |
|------|---|----|------|--|-----|-------|----------------|----------------------|---|--|
| 1910 | 3 | 19 | 明治43 |  | 神奈川 | 火事    |                | 横浜市                  | 19日0時50分、野毛3丁目(印刷業)より出火。当時巡回中の都橋交番五味巡査が早速馳せつけ消火にあたったが折柄南西の激しい風に、火は猛烈な勢いをもって両隣の米屋結城屋及び村田方に燃え移り、更に火の手は風下へ風下へと延びて、野毛通りまでなめつくしていった。このころ警務部では戸部署及び伊勢佐木署管内の巡査の非常招集を行ない、また加賀、伊勢佐木、寿町、神奈川、山手の各蒸気ポンプと300余名の消防夫が必至の消火作業にあたったが南西の風がますます吹き荒れ、火の勢いも以前に数倍の強さで付近に飛火し、ついに野毛町、花咲町、福島町などを次々に焼失し、重軽傷者23名を出してようやく5時20分鎮火した。全半焼戸数は520戸。火災の原因は火消つばの不始末。<br>(日本火災史 東京日々新聞 横浜歴中年表)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』大火の部  |
| 1910 | 3 | 19 | 明治43 |  | 神奈川 | 火災    | 野毛町大火          | 野毛町                  | 全焼494戸  | 『横浜近代史総合年表』  |
| 1910 | 5 | 25 | 明治43 |  | 茨城県 | 落雷・降雹 |                | 真壁郡・西茨城郡・水戸市・那珂郡・久慈郡 | 家屋焼失6戸、農作物被害甚大  | 『茨城県史年表』   |
| 1910 | 5 |    | 明治43 |  | 埼玉  | その他   |                | 吹上町域                 | 雹害が発生   | 『吹上町史』   |
| 1910 | 6 | 24 | 明治43 |  | 茨城県 | 洪水    |                | 伊奈町                  | 小貝川大洪水、県道水海道土浦線で1メートル冠水   | 『伊奈町近代・現代史年表』  |
| 1910 | 7 | 26 | 明治43 |  | 群馬  | 洪水    |                | 利根郡                  | 河川増水する(国民新聞)<br>家屋流失、田畑決壊、橋流失あり(川田村)  | 『群馬県気象災害史』   |
| 1910 | 8 | 1  | 明治43 |  | 神奈川 | 洪水    |                | 県内全域                 | 前線と二つの台風が8月1日～14日の連日大雨を降らせ水害をおこした。<br>横浜でははじめの台風が接近した9日20時頃から気圧は降下をはじめ、東風が強まった。<br>しかし副低気圧の発生によって風はそれほど強まらず10日21時に最大風速東北東13.9m/sを記録した。またあとの台風が接近した13日10時頃から再び東風が強まり15時に12.5m/sとなった。14日未明一時東風が強まったが2時間位で弱まった。<br>この二つの台風と前線活動による記録的な大雨は県内のほとんどの河川を決壊させ流域地方は全般にわたって大洪水を起し未曾有の大被害を出した。<br>県の被害表では死者37、負傷者19、行方不明2、住家の全壊45戸、半壊94戸、流失75戸、床上浸水3557戸、橋梁の流失・埋没461か所、堤防の決壊447か所、山くずれ2258か所など。<br>(測候所雑纂、気象要覧、気象月報)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部  |
| 1910 | 8 | 6  | 明治43 |  | 群馬  | 洪水    | 明治43年水害        | 県全域                  | 死者284、負傷者142、行方不明22、家屋流失倒壊埋没1476、半壊627、床上浸水15579、床下浸水11575、田流失埋没2571町、田冠水6298町、畑冠水10251町、道路決壊1581ヶ所、橋梁流失2039、堤防護岸流失689(気象要覧128号)<br>豪雨のため18万町歩の耕地を侵し、2400万円の損害(群馬郡)<br>利根川筋5ヶ所破堤、渡良瀬川4ヶ所破堤、その他の支流十数か所破堤、西部の2、3か町村以外泥海となった。死者21、行方不明28、住家全壊254、半壊262、流失217、床上浸水6890、床下浸水940、土地の浸水12109町、農作物損害高百数十万円、浸水面積郡の8割弱、館林町は全部水中に没し、舟行する程、外判木方面も城沼の溢水のため内判木境迄道路を没する程であった(邑楽郡)<br>白川氾濫し、未曾有の災害、死者1、負傷者1、家屋の倒壊1、半壊2、床上浸水65、罹災者560人、田畑流失30町、農作物被害45町5反(長野村)<br>利根川増水、総社橋が落ち、前橋との交通途絶、天狗岩堰水門を壊し、下流数百町にわたる灌漑の利を奪い、沿岸の田、林、稲田に被害(総社町)<br>吾妻郡、烏川、白川等大氾濫、殊に烏川における被害もつと甚だしく、沿岸の流失家屋115戸、浸水14余戸(中川村)<br>芳賀村、糸之瀬村、横野村、薄根村にも大洪水の記録あり<br>連日の降雨にて県下各川は乍ら非常に増水、沿岸各地に被害、邑楽郡は甚だしく、利根、渡良瀬の濁流は郡内2000戸を侵し、利根川筋邑楽郡赤薬村大字赤岩地先7尺5寸増水、渡良瀬川筋13尺5寸に増水、沿岸地方一面の泥海と化す(上手新聞) | 『群馬県気象災害史』   |
| 1910 | 8 | 8  | 明治43 |  | 東京  | 洪水    | 明治43年水害(関東大水害) | 東京府下                 | 連続2回の台風により荒川、綾瀬川、江戸川などが決壊、死者・行方不明者52名、負傷者117名、浸水家屋194,889戸、8月8日～15日まで   | 『東京の消防百年の歩み』   |
| 1910 | 8 |    | 明治43 |  | 埼玉  | 洪水    | 明治43年大水害       | 埼玉県内                 | 8月1日以来の降雨で県内各河川が氾濫。   | 『新編埼玉県史』通史5、『新編埼玉県史』別編4自然、『埼玉県行政史』1  |
| 1910 | 8 | 9  | 明治43 |  | 千葉  | 洪水    | 関東大水害          | 千葉県北部(利根川・江戸川)       | 梅雨前線と台風の影響で8月6日夜以来、利根川と江戸川の増水が激しくなり、9日午後6時印旛郡安食地先堤防で越水、氾濫、11日には東葛飾郡布佐町の堤防が決壊、印旛郡布鎌村の堤防が決壊、我孫子町地先の堤防も氾濫、決壊、12日には中利根川流域で水害発生、13日には下流部でも被害。13日香取郡滑川町で堤防決壊、浸水域拡大、さらに佐原地域に深刻な被害を発生させる。   | 『千葉県の歴史 通史編 近代1』   |
| 1910 | 8 | 9  | 明治43 |  | 千葉  | 洪水    | 関東大水害          | 千葉県北部(利根川・江戸川)       | 8月中旬連日の南東風は遂に一大暴風雨となり雨量250耗に及び利根川は未曾有の大洪水となり滑川堤及び十六島等各所の堤防決壊し濁流暴漲し下総常陸の間は遂に一泥潮に変わり数郡の地悉く水底に没し浸水は屋簷に達するに至り、<br>8月12日関宿利根川18尺4寸、江戸川18尺7寸出水、未曾有の洪水で利根江戸両川が印旛沼方面に於いて堤防の決壊したのも66箇所に及び被害は甚大であった。<br>8月15日氾濫其極に達し堤防決壊す。本町[佐原町]岩ヶ崎の堤防決壊し瞬時にして濁流滔々本町の南岸を浸す。<br>8月16日午後5時より濁水已に堤上に及び奔流風に激し波浪は堤身を揺り倒る処に大亀裂を生じ、午後9時半[佐原町]岸島地先決壊す。稲田3000余町、民家1000戸、水底に没す。  | 『千葉県気象災害史』   |
| 1910 | 8 | 10 | 明治43 |  | 茨城県 | 洪水    | 関東大水害          | 茨城県                  | 利根川未曾有の大洪水、死者24、負傷26、流失家屋662、全壊361、半壊576、浸水3万4975(『水戸市水害誌』)   | 『茨城県史年表』   |
| 1910 | 8 | 10 | 明治43 |  | 神奈川 | 洪水    |                | 海老名市                 | 霖雨(りんう)、霖雨八月十日及十三日ノ洪水ニヨリテ相模橋墜落ス。(萩原静夫『海老名市郷土年表』1984より作成)  | 『海老名市史』8 通史編 近代・現代』  |
| 1910 | 8 | 10 | 明治43 |  | 埼玉  | 洪水    | 明治43年大水害       | 埼玉県内                 | 台風北上に伴う豪雨で河川の増水や山崩れが発生。   | 『埼玉県警察史』1、統計数値は『埼玉県水害誌』から引用。   |
| 1910 | 8 | 10 | 明治43 |  | 埼玉  | 洪水    | 明治43年大水害       | 埼玉県内                 | 堤防の溢水で流域が浸水。  | 『(明治四十三年)埼玉県水害誌』   |
| 1910 | 8 | 10 | 明治43 |  | 埼玉  | 洪水    | 明治43年大水害       | 浅川・綾瀬川流域             | 堤防の溢水で流域が浸水。  | 『岩槻市史』通史編  |
| 1910 | 8 | 10 | 明治43 |  | 東京  | 洪水    | 明治43年水害        | 浅川・多摩川流域ほか           | 梅雨につづく台風の影響で、8月10日浅川流域で洪水が起き、萩原橋と大和田橋が流出するなどして八王子町は孤立状態に陥った。東浅川町では洪水の発生により近隣地域と協力して防災業務を行った。  | 『新八王子市史』通史編5   |
| 1910 | 8 | 11 | 明治43 |  | 神奈川 | 水害    |                | 茨城県                  | 利根川未曾有の大洪水、死者24、負傷26、流失家屋662、全壊361、半壊576、浸水3万4975(『水戸市水害誌』)   | 『横浜近代史総合年表』  |
| 1910 | 8 | 14 | 明治43 |  | 茨城県 | 洪水    | 関東大水害          | 茨城県                  | 利根川未曾有の大洪水、死者24、負傷26、流失家屋662、全壊361、半壊576、浸水3万4975(『水戸市水害誌』)   | 『茨城県史年表』、『利根町史』第7巻他  |
| 1910 | 8 | 15 | 明治43 |  | 東京  | 洪水    |                | 東京府全域                | 上流部では、当時立川附近から上流がほとんど無堤状態であったので、平野面は上・下面とも浸水し、沿岸各所で著しい砂礫の侵蝕堆積があり、田畑の流失埋没が多発した。また福生・拜島附近では、河道が大幅に転移し行政界が不明となった。支流の南浅川では南浅川橋上・水無瀬橋下でそれぞれ右岸堤が決壊し、平野面のほとんど全面と上流部における低い段丘、小扇状地の周縁部などが浸水を蒙った。平野面での浸水深は1～1.5m、浸水期間は0.5～1日であった(『水害予防対策土地条件調査報告書』)。東京府郡部の被害として、流失45戸、浸水4万3224戸、堤防決壊162ヶ所、河岸決壊93ヶ所、道路決壊135ヶ所、橋梁流失及墜落35ヶ所。   | 『多摩川誌』   |
| 1910 | 8 | 24 | 明治43 |  | 群馬  | 洪水    |                | 県中部、中部山沿い            | 人家倒壊死傷者10余名、農作物被害175町、16000円(群馬郡)<br>家屋流失1、半壊6、破損4、橋梁流失47、田畑流失埋没18町(富士見村)<br>前橋の浸水家屋500戸以上、小野上にて家屋流失6、埋没2、半壊19、浸水200、死者4、負傷者10名(国民新聞)   | 『群馬県気象災害史』   |
| 1910 | 8 |    | 明治43 |  | 千葉  | 洪水    |                | 手賀沼周辺                | 利根川改修2期工事(取手・佐原間)着手、8月洪水後改訂、8月、2度の台風により利根川未曾有の大洪水、各地に破壊相次ぐ。   | 『手賀沼周辺の水害』   |
| 1910 | 8 |    | 明治43 |  | 栃木  | 洪水    | 関東大水害          | 関東一円                 | 『いまいち市史』では山林伐採の影響を強調  | 『栃木県土木史』(栃木県土木部、2001年)、386-400頁、『足利市史』上巻、1088頁、『佐野市史』(佐野市、1979年)、742-750頁、『小山市史』通史編III近現代(小山市、1987年)、495-497頁、『いまいち市史』通史編VI(今市市、2006年)、168 |
| 1910 | 8 |    | 明治43 |  | 山梨  | 洪水    |                | 山梨県全域                | 台風・前線により、8月2日から17日に豪雨が連日わたり県下一面大水害。荒川・塩川が氾濫し、甲府盆地南部の被害甚大。死者24人。   | 『山梨県の気象100年』   |

|      |    |    |      |  |     |     |                        |                    |  |  |
|------|----|----|------|--|-----|-----|------------------------|--------------------|--|--|
| 1910 | 10 | 10 | 明治43 |  | 群馬  | 洪水  | 前線                     | 邑楽郡                | 利根、渡良瀬川の氾濫により、浸水家屋2000戸、農作物被害多数(邑楽郡)<br>邑楽郡富永村の堤防約70間破る。渡良瀬川沿岸は一面の泥海と化す。死者50余名、浸水総戸数3065戸、新田郡渡島町二つ小屋にて利根川増水、堤防破壊数か所、北甘楽郡下仁田町西牧川の八千代橋流失、多野郡神流川、鏡川も増水のため交通途絶(上毛新聞)   | 『群馬県気象災害史』                             |
| 1910 | 11 | 24 | 明治43 |  | 栃木  | 火事  |                        |                    |  | 『いまいち市史』通史編Ⅴ(今海市、2005年)、447-449頁       |
| 1910 | 12 | 15 | 明治43 |  | 神奈川 | 火災  |                        | 長者町                | 全焼154戸、半焼27戸   | 『横浜近代史総合年表』                            |
| 1910 |    |    | 明治43 |  | 栃木  | 洪水  | 台風による                  |                    |  | 『小山市史』通史編Ⅲ近現代(小山市、1987年)、495-497頁、499頁 |
| 1910 |    |    | 明治43 |  | 栃木  | 洪水  |                        |                    |  | 『近代足利市史』第一巻、1459-1462頁                 |
| 1911 | 3  | 6  | 明治44 |  | 神奈川 | 火災  | 旧神風樓火災                 | 神奈川青木町             |  | 『横浜近代史総合年表』                            |
| 1911 | 4  | 2  | 明治44 |  | 埼玉  | その他 |                        | 埼玉県内               | 気温の急激な低下に伴う凍害。   | 『新編埼玉県史』別編4自然                          |
| 1911 | 4  | 4  | 明治44 |  |     | 火災  |                        | 福地村上吉田             |  | 『富士吉田市史資料編第三巻現代』                       |
| 1911 | 4  | 9  | 明治44 |  | 東京  | 火事  | 浅草区新吉原江戸町2-20火災(吉原の大火) | 浅草区新吉原江戸町          | 吉原遊廓内から出火した火災は、貸座敷300余戸、引手茶屋123戸など遊廓内のすべてを焼きつくし、さらに折からの強風によって四方に延焼し、西は下谷区善泉寺町、東は隅田川沿いの浅草区橋場町、さらに千足から南千住に至り、32か町を焼く、死者5名、負傷者109名、全焼6189戸、焼損面積229,479平方メートル  | 『東京の消防百年の歩み』                           |
| 1911 | 6  | 19 | 明治44 |  | 神奈川 | 暴風  |                        | 横浜市・足柄下郡・他         | 県内では幸いにして雨量は少なかったため浸水家屋や道路、家屋の流失等の被害は少なかった。<br>雨による水害は軽微であったが、風による被害が大きかった。<br>県の被害表では死者15、負傷者52、行方不明6、住家の全壊126戸、半壊93戸など。<br>(測候所雑纂、気象月報)  | 『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部                    |
| 1911 | 6  | 19 | 明治44 |  | 神奈川 | 暴風雨 |                        | 横浜港                | 死者30人、行方不明者多数  | 『横浜近代史総合年表』                            |
| 1911 | 6  | 19 | 明治44 |  | 千葉  | 暴風  |                        | 千葉県沿岸部             | 6月19日夜中俄に暴風起り波浪高く船舶の難破頗る多し、溺死する者もあり。   | 『千葉県気象災害史』                             |
| 1911 | 7  | 14 | 明治44 |  | 神奈川 | その他 | 落雷                     | 高座郡・津久井郡           | 高座郡、津久井郡で被害あり、落雷により死者2名、家屋1棟焼失。<br>長野県北部から南東進し午後2回に亘り県北西部から相模川沿いと多摩川沿いに下流域を移動した雷雲による。県内の雨量は30mm位の所が多かった。<br>(気象月報)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』年表2部                    |
| 1911 | 7  | 25 | 明治44 |  | 神奈川 | 高潮  |                        | 横浜市・三浦郡・久良岐郡・橋樹郡・他 | 今回の台風は同年6月に来襲した台風による被害の復興が出来ないうちの再来襲で各地とも大被害を受けた。<br>台風による南東の強風は、高潮を引き越し26日の3時頃の満潮時と重なり、東京湾沿岸で昇潮1.5m、相模湾の真鶴岬の東面した海岸でも1mに達した。このため東京、神奈川を結ぶ六郷の橋が流失し、相模川の厚木で水位3.8m、酒匂川上流、松田3.0m、鶴見川の上流大瀬で3.6mと、各河川とも増水した。<br>横浜港の内部では平均潮位面が3.0mも高くなったため流失船舶が758隻、破損船舶が970隻におよんだ。<br>高潮の被害が大きかったのは三浦、久良岐、横浜、橋樹の1市3郡で、難破船は三浦郡が最も多かった。<br>県の被害表では死者29、負傷者57、行方不明15、住家の全壊367戸、半壊354戸、床上浸水2200戸、船舶の流失・沈没758隻など。<br>(測候所雑纂、気象要覧、気象月報) | 『神奈川県災害誌(自然災害)』台風の部                    |
| 1911 | 7  | 25 | 明治44 |  | 千葉  | 高潮  | 台風                     | 千葉県全域              | 台風高潮を伴い家屋建物の倒壊人畜の死傷あり。海上は船舶の沈没遭難あり。千葉県では被害甚大。  | 『千葉県気象災害史』                             |
| 1911 | 7  | 26 | 明治44 |  | 茨城県 | 洪水  |                        | 伊奈町                | 洪水により板橋村、三島村などで被害が発生   | 『伊奈町近代・現代史年表』                          |
| 1911 | 7  | 26 | 明治44 |  | 神奈川 | 暴風雨 |                        |                    |  | 『横浜近代史総合年表』                            |
| 1911 | 7  |    | 明治44 |  | 千葉  | 洪水  |                        | 手賀沼周辺              | 7月に3度の台風、手賀沼3年連続の水害。   | 『手賀沼周辺の水害』                             |
| 1911 | 8  | 9  | 明治44 |  | 神奈川 | 豪雨  |                        | 箱根丹沢山系周辺           | 雨は静岡県の東部から県の北東部にかけて降り、箱根方面から北東方へ25kmの間は大雨が続き、箱根丹沢山系周辺では、250～290mmの降水量があった。県の東部では70～150mmで被害はなかった。<br>雨に伴った雷は県の南西部では9日15時頃より、また中部より北部一帯は9日夕刻より10日明け方まで断続的にこった。<br>相模川の最高水位は厚木で13尺8寸、柏尾川は戸塚で8尺余、深谷川は7尺余に達した。<br>河川の増水氾濫による被害やけずれによる被害が大きかった。<br>県の被害表では死者5、負傷者4、住家の全壊11戸、半壊12戸、流失1戸、橋梁流失133か所、堤防決壊161か所、道路破損647か所、山くずれ379か所など。<br>(神奈川県測候所気象雑纂、気象月報)   | 『神奈川県災害誌(自然災害)』前線の部                    |
| 1911 | 8  | 10 | 明治44 |  | 神奈川 | 豪雨  |                        | 鶴見川                |  | 『横浜近代史総合年表』                            |
| 1911 | 8  | 16 | 明治44 |  | 神奈川 | 暴風雨 |                        |                    |  | 『横浜近代史総合年表』                            |
| 1911 | 8  | 20 | 明治44 |  | 神奈川 | 暴風雨 |                        | 横浜港                |  | 『横浜近代史総合年表』                            |
| 1912 | 3  | 19 | 明治45 |  | 栃木  | 火事  |                        |                    |  | 『宇都宮市史』近・現代編Ⅱ(宇都宮市、1981年)、283-289頁     |
| 1912 | 4  | 11 | 明治45 |  | 千葉  | その他 | 降雹                     | 千葉県全域              | 4月11日午後6時から50分までの間にあられ、ひょう降る。形状大豆大。  | 『千葉県気象災害史』                             |